

- 一 本表ハ暴風雨、旋風、海嘯、地震等ニ適用スルモノトス但シ報告ノ場合ニ於テハ災害報告表ノ下括弧内ニ災害ノ種類ヲ記入シ其ノ上ノ年月日ハ災害當時ヲ記入スヘシ
- 一 本表ハ毎郡市別ニ調製スヘシ
- 一 牛馬豚外ノ家畜家禽ハ其ノ他ノ欄ニ記入シ其ノ種類員數ヲ備考ニ明記スヘシ
- 一 建物ノ全潰トハ破壊シテ到底使用ニ堪ヘサルモノヲ云ヒ半潰トハ破壊シタル所アルモ修繕ヲ加フレハ再ヒ使用シ得ルモノヲ云フ○其ノ他トハ同表中上欄各種ニ屬セサル凡テノ建物ヲ云フ○住家トハ現ニ住居シ若ハ住居スヘキ建物ヲ云ヒ非住家トハ住家ニアラサル一切ノ建物ヲ云フ○建物ノ表中住家以外ノ欄ハ凡テ被害棟數ヲ記入スヘシ尚住家及非住家ノ被害棟數ノ欄ハ上欄計ノ棟數ニ同シカルヘシ○工場欄ニハ原動機ノ設備アル工場ヲ計上スヘシ
- 一 土地、道路ノ埋没、流失トハ其ノ原形ヲ失シタルモノヲ云ヒ道路ノ破損トハ完全ノ通行ニ堪ヘサルニ至リタルモノヲ云フ
- 一 橋梁ハ鐵、石、木、土造ノ區別ヲ備考ニ明記スヘシ
- 一 堤防ノ流失トハ其ノ原形ヲ破壊シタルモノヲ云フ、流失及大ナル破損ハ其ノ位置方向ヲ備考ニ明記スヘシ
- 一 漂流木ハ所有者判明ナレハ其ノ氏名ヲ備考ニ明記スヘシ
- 一 参考トナルヘキ事項ハ總テ備考ニ記スヘシ

洪水ノ爲交通杜絶シ警察事故ノ報告ヲ爲シ難キ場合ノ信號通報

明治四十年一月十六日 静岡県訓令乙第二十號

【警務長】
 洪水ノ爲メ交通杜絶シ警察事故ノ報告ヲ爲シ難キ虞アル河川アルトキハ豫メ其兩岸ニ場所ヲ定メ置キ左ノ方法ニ依リ信號通報ヲ爲スヘシ

- 一 信號ハ四尺ノ竿頭ニ方一尺ノ赤布ヲ付シタル旗ヲ以テ片假名數字ヲ空中ニ畫クモノトス
- 一 信號通報ヲ爲サントスルトキハ豫定ノ場所ニ信號旗ヲ直立シ置キ通報

【静岡令】

- 一 事件アルコトヲ知ラシムヘシ
- 一 前項ニヨリ通報事件アルコトヲ知リタルトキハ受信者ハ信號旗ヲ傾斜シ受信スヘキコトヲ知ラシメ發信人ノ認メタル上ハ雙方相對立發信人ハ其立テ置キタル信號旗ヲ取り通信ヲ開始シ受信人ハ傾斜シタル信號旗ヲ倒シテ受信スヘシ
- 一 不明ノ信號アリタルトキハ受信人ハ信號旗ヲ左右ニ振ルヘシ此場合ニハ發信人ハ何回ニテモ了解スルマテ其信號ヲ繰リ返スヘシ
- 一 發信人發信ヲ了リタルトキハ發信人ハ受信全部ヲ繰リ返シ誤リナキヲ認ムヘシ
- 一 通報ヲ受授スヘキ豫定場所ハ之ヲ報告シ置クヘシ
- 一 信號ハ常ニ練習習熟シ置クヘシ

外國艦艇港灣出入報告心得

明治三十年九月二十四日 警甲訓第五號

【警務長】
 外國艦艇港灣出入報告心得別紙之通規定相成候條若シ該艦艇出入シタルトキハ直ニ郡長警察署長分署長又以上ノ官吏アラサル地ハ町村長若クハ駐在所巡査訪問使トナリ總テ該報告心得之通り不都合無之様取扱其旨警察部ヘ詳報スヘシ但二十年五月保訓第一號訓令ハ廢止ス

【静岡令】

【警務長】
 明治三十年九月警甲訓第五號ヲ以テ外國艦艇發著報告心得訓達ノ處爾今右ノ場合ニハ警察署長及分署長ニ於テ直ニ知事名ヲ以テ海軍大臣並ニ横須賀鎮守府司令長官ヘ報告シ若シ其不開港地ナルトキハ該取調諸項ヲ署長ヨリ當廳ヘ報告セシムルコトト定メタルニ依リ其所ヨリハ別段大臣及司令長官ヘ報告ニ及ハサル義ト心得ヘシ

外國艦艇發著報告心得

- 第一條 帝國港灣(軍港要港所在地並澎湖島ヲ除ク)ニ外國軍艦若クハ水雷艇ノ入ルモノアルトキハ所在地官ハ速ニ訪問使ヲ遣シ艦艇名及去來ノ兩地名ヲ確メ之ヲ海軍大臣及所管鎮守府司令長官(臺灣澎湖島ニ在テハ臺灣總督)ニ直接電報シ且シ海軍省ヨリ配布ノ報告用紙ノ各項ヲ填記スルノ外仍ホ必要ト認ムル見聞事項ヲ詳記シ前諸官ニ郵報スヘシ
- 第二條 前項ノ港灣開港場ナルトキハ所在地官ハ單ニ出入ノ艦艇名ヲ電報スルノミニ止メ其他ハ一切省略スヘシ從テ前條ノ訪問使ヲ出スニ及ハサルモノトス
- 第三條 第一條ノ港灣ニシテ現ニ帝國軍艦(水雷艇ヲ含マス)碇泊スルトキハ所在地官ハ第一條及第二條ノ手續ヲ爲スニ及ハス

(報告用紙譯文略ス)

外國艦艇ノ港灣出入報告ニ關スル件

明治三十五年九月二十六日 静岡県訓令丙第三百八十六號

外國艦艇港灣出入ニ關スル報告電文簡約方

明治三十年十月十二日 保乙第八三九號

- 【警務長】
 去ル九月四日警甲訓第五號訓令外國艦艇發著報告方第一條ニ依リ發セラヘキ電報ハ簡約ナラシメン爲メ左ノ諸項ニ從ヒ取扱不苦趣其筋ヨリ通牒有之候間右ニ準據取扱フヘシ
- 一 艦艇所屬國名ハ記載スルニ及ハス
 - 一 報告ハ勉メテ速ニ發セラレヘキ管ナルヲ以テ發電時刻ヲ以テ凡ソ出入港ノ時刻ト斷定スヘキカ故ニ電信報告中ニ時刻ノ記入ヲ要セス但シ事故アリ出入港ノ翌日ニ及ヒ發電スルトキハ昨晝又ハ昨夕等ヲ加フヘシ
 - 一 「バーミヤットアツバ」ヲ單ニ「アツバ」ニ「ブリン」スカキリ「ヘルム」ヲ單ニ「ウキリヘルム」ニ略スル類ハ差支ナキノミナラス勉メテ用フルコトトスヘシ
 - 一 入港ノ艦艇ハ其何地ヨリ來著セシハ報告スルニ及ハス

一 入港「著」トシ出港ヲ盤艇ノ行先地名ニ合シ「何地ヘ」トスル總テ差支ナシ但シ行先不明ナルトキハ單ニ「去」ト記ス左ニ例ヲ示ス

(例一) 「英國軍艦グラフトン昨夜入港ス」
グラフトンサクヤツク
(例二) 「魯國軍艦「ドミトリ」ドンスコイ」號出港シ行先不明獨逸國軍艦カイザー芝罘ヘ向ケ出港セリ
ドンスコイサルカイザーチーフーヘ

●條約若クハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セサル外國人ノ居住及營業ニ關スル件取扱手續

昭和四年六月十一日
静岡縣訓令乙第九十號

警察部 警察署

明治三十二年勅令第三五二號條約若クハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セザル外國人ノ居住及營業ニ關スル件、及明治三十二年內務省令條約若クハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セザル外國人ノ居住及營業ニ關スル件施行細則ノ取扱手續別冊ノ通り定ム

條約若クハ慣行ニ依リ居住ノ自由ヲ有セザル外國人ノ居住及營業ニ關スル件取扱手續

第一條 明治三十二年勅令第三五二號第一條第一項但書ノ規定ニヨリ本縣内ニ居住シ又ハ業務ヲ行ハムトスルモノアルトキハ第一號様式ニヨリ所轄警察署ヲ經テ知事ニ願出許可ヲ受ケシムヘシ

〔静岡令〕

前項ノ業務者ニシテ雇主ヲ有スル者ハ其ノ雇主ヨリ第二號様式ノ身許引請書ヲ提出セシメ願書ニ添附進達スヘシ

第二條 前條ノ願書及身許引請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ許否ノ意見ヲ附シ警察部長ニ進達スヘシ

一、願書及身許引請書ハ所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ

二、本籍住所氏名年齢

三、性質素行來歴

四、不正入國者ニアラサルヤ

五、勞働許可ノ場合邦人勞働者ニ與フル影響

六、身許引請人ノ性質素行經歷並引請能力ノ有無

七、前各號ノ外參考トナルヘキ事項

第三條 第一條ノ出願者ニ對シ支障ナシト認メタルトキハ第三號様式ノ許可證ヲ送付スヘキニ付所轄警察署ニ於テハ出願者ニ對シ左記事項諷旨ノ上之ヲ交付スヘシ

一、許可證記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ許可證ヲ毀損又ハ亡失シタルトキハ直ニ其ノ旨届出テ書換又ハ再下付ヲ申請スルコト

二、歸國移轉職其ノ他ノ事由ニ依リ居住セス又ハ業務ヲ行ハサルニ至リタルトキハ直ニ許可證ヲ返納スルコト

三、許可證記載ノ注意事項

第四條 居住地、業務地其ノ所轄警察署ヲ異ニスル場合ニ於テハ前三條ノ手續ハ居住地所轄警察署ニ於テ之ヲ取扱ヒ其ノ旨業務地所轄警察署ニ通報スヘシ

第五條 居住又ハ業務ヲ行ハル場所ヲ變更セムトスルモノアルトキハ直ニ第四號様式ニ依リ願書ニ許可證ヲ添へ所轄警察署ニ差出サシムヘシ

前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ付シ警察部長ニ進達スヘシ但シ許

〔静岡令〕

昭和 年 月 日

右

願人 氏

名

静岡縣知事 殿

附記 一、願書ニハ名刺形寫眞(出願前一ケ年以内ニ撮影シタルモノ)二枚添付ノコト

第二號様式) 身許引請書

右者

ニ居住シ

出願者ノ本籍職業氏名年齢

候上ハ拙者ニ於テ身上一切ヲ引請ケ帝國及帝國臣民ニ對シ毫モ迷惑相掛

ケ申問敷且ツ左ノ事項ヲ誠實ニ遵守可致候也

昭和 年 月 日

雇主 現住所

氏 名

静岡縣知事 殿

一、諸法令ヲ誠實ニ遵守セシムルコト

二、本人歸國又ハ轉業シ又ハ之ヲ解雇シタルトキハ速ニ(豫知シ得タル場合ハ豫メ)届出ツルコト

三、本人死亡シ逃走シ又ハ行方不明トナリタルトキハ速ニ届出ツルコト

四、雇傭中又ハ解雇シタル後一箇月以内ニ本人ノ歸國スル場合ニ於テ旅費ニ不足ヲ生シタルトキハ之ヲ補給スルコト

可支障ナシト認メタルトキハ許可證該當欄ニ所定事項ヲ記入シ署長認印ノ上直ニ之ヲ出願者ニ交付シ該願書ニ其ノ處理顛末ヲ記載ノ上警察部長ニ報告スルト共ニ關係警察署ニ通報スヘシ

第六條 第三條第一號ニヨリ許可證ノ書換又ハ再下付ノ申請アリタルトキ又ハ同條第二號ニ依リ許可證ノ返納アリタルトキハ其ノ事由ヲ具シ警察部長ニ進達スヘシ

第七條 居住及業務地ノ所轄警察署長ハ警察官吏ヲシテ毎月二回以上視察左記事項ニ注意セシムヘシ

一、許可以外ノ場所ニ於テ又ハ許可以外ノ業務ニ從事スルコトナキヤ

二、許可以外ノ外國人勞働者ヲ同居セシメ又ハ内外容疑人物ノ出入スルコトナキヤ

三、法令違反ノ事實ナキヤ

四、前各號ノ外公安風俗ヲ害スル行爲ナキヤ

第八條 居住及業務ヲ行フコトヲ許可シタル者ニ對シ公益上其ノ許可ヲ取消ス必要アリト認メタルトキハ所轄警察署ニ於テハ速ニ其ノ事情ヲ具シ警察部長ニ報告スヘシ

(第一號様式) 居住及勞働從事願

一、本籍地
一、現住所
一、氏名年齢
一、渡來年月日船名及上陸地
一、渡來後ノ經歷
右 番地ニ居住シ 職ニ從事致度候條御許可相成度此段及御願候也

<p>許可期限 昭和 年 月 日</p>	<p>居住並労働従事許可證</p>			
<p>注意</p> <p>一、許可期間満了、歸國轉出、死亡又ハ行方不明トナリ マルトキハ本人又ハ雇主、身許引請人若ハ其ノ家族 ヲリ三日以内ニ本證ヲ所轄警察署ニ返納スベシ 一、官憲ノ要求アリタルトキハ本證ヲ提示シ且ツ必要ナ ル質問ニ答フベシ</p>				
<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>

【鑑別令】

裏面

<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>	<p>昭和 年 月 日 住所 就働場所</p>
<p>移動年 月 日 移動住所及就働場所 證 印</p>			
<p>折</p>			
<p>【鑑別令】</p>			
<p>裏面</p>			
<p>折</p>			
<p>靜岡縣指令 特發秘第 號</p> <p>昭和 年 月 日付願居住並 職従業ノ件向テ</p> <p>一ヶ年間許可ス</p> <p>昭和 年 月 日</p> <p>靜岡縣知事</p>			
<p>折</p>			
<p>寫 眞</p>			

(第四號様式)

居住及労働従事場所移轉願
現居住場所

第十三編 警察 第一章 警務

現労働従事場所
移轉セムトスル居住場所
移轉セムトスル労働従事場所

- (8) 本欄ニハ犯人ノ手段方法即チ邸内ノ被害ナルトキハ其ノ屋内ニ侵入スルニ用キタル方法(例ヘバ戸切、焼切、壁切、土臺掘、錠前破リ、戸締油斷等ニ乗ジ等、邸外ナルトキハ犯行前後ノ狀況)ヲ詳細記入スルモノトス
- (9) 本欄ニハ犯人ガ元侵入シタル裏口、又ハ表口ヲ開キ逃走シタリト云フガ如キ事實ヲ具體的ニ記入スルモノトス
- (10) 本欄ハ二人以上共同シテ犯行シタルヤヲ知ルモノナレバ犯人ヲ目撃シタルトキハ明瞭ナルモ一名屋内ニアリテ他ニモ共犯アリタリト認メタルトキ、又ハ犯行ノ事實ヨリ推測シテ其ノ狀況ト員數ヲ記入スルモノトス
- (11) 本欄ニハ犯人ガ兇器ヲ携帯シ居タルヤノ有無ヲ記載スルモノニシテ例ヘバ短刀様ノ物ヲ以テ筆筒ヲ破壊シタリト記入スルカ如シ
- (12) 本欄ニハ犯人ノ遺留品ハ勿論其他捜査上參考トナルベキ事項指紋足跡等アル場合ハ其ノ個數並狀態ヲ記入スルモノトス
- (13) 本欄ニハ各欄ニ該當セザル捜査上ノ參考事項(例ヘバ被害者ト所有者ト異ル場合ハ其ノ所有者ノ住所職業氏名年齢及被害者トノ關係等)ヲ記入スルモノトス
- (14) 本欄ニハ被害金品ノ種類、記號、番號、形狀、衣類等ニアリテハ生地別、織別、色合、縞柄、定紋及新品中古ノ別、(例ヘバ時計等ニアリテハ金側片硝子何型ウオルサム(製造所)番號何々鎖付等ト)記シ貨幣ハ何紙幣新舊ノ別又ハ種別等其ノ内譯ヲ明瞭ニシ、物品ニ破損、特徴等ノ箇所アルモノハ其ノ旨記入スルモノトス
- (15) 本欄ニハ大小、長短、量目、員數等ヲ記入スルモノトス
- (16) 本欄ニハ被害當時ノ時價ヲ記入スルモノトス

【警令】

但シ新調當時ノ價格ノ外評價スルコト能ハザルモノハ其ノ價格ヲ記入シ爾後何年間使用ト記入シ置クコト

各欄事項欄内ニ記入シ難キトキハ末尾ニ所要紙數ヲ加ヘ之ニ記入シ届出人ノ契印ヲナスモノトス

口頭願届事項 明治三十九年二月二日 靜岡縣告示第十九號

改正 明治四十五年告示第一八五號、大正二年第三四七號

明治三十二年告示第十一號ヲ左ノ通改正ス

左記事項ノ願届ハ口頭ヲ以テ警察署(警察分署)ニ之ヲ爲スコトヲ得但構造仕様書又ハ圖面ヲ要スルモノハ之ヲ差出スヘシ

巡查派出所同駐在所ニ於テ前項ノ願届ニシテ至急ヲ要セサルモノハ之ヲ受繼ク

口頭願届事項

- 一 街路(市町村費負擔ニ係ルモノヲ除ク)ニ街燈、便所、芥溜設置願
- 二 街路(市町村費負擔ニ係ルモノヲ除ク)ニ柵、欄、支柱、及齒止石設置願
- 三 一時街路ニ竹、木、石類ヲ置キ其他繩張、足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル願
- 四 街路ヲ經テ建物其他街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件運搬願
- 五 街路ニ露店又ハ屋臺店設置願
- 六 街路ニ店飾ヲ設ケル願
- 七 街路ニ神輿、山車、又ハ手踊屋臺ヲ出ス願
- 八 神佛送迎ノタメ街路ニ飾物ヲ出シ又ハ奉納物ヲ牛車ニテ運搬スル願
- 九 街路ニ祭典法會等廣告札建設願
- 一〇 車馬通行止ノ場所ヘ車馬出入願

【警令】

- 一 一時街路ニ物品ヲ並列スル願
- 二 街路ニ在ル井戸埋樋等修理願
- 三 工事ノ爲メ人畜諸車通行止願
- 四 荷車二車以上連繫及制限外物件ヲ積載スル願
- 五 質屋營業人取締事務所設置願
- 六 質屋古物商住所氏名不明者ヨリ買取又ハ物品買受交換願
- 七 質屋古物商營業人帳簿檢印ニ關スル件
- 八 質屋古物商營業人正副取締人撰定願
- 九 宿泊人傳染病及變死届
- 一〇 宿泊人ノ所持金品紛失届
- 一一 宿泊料ノ抵償トシテ物品受領届
- 一二 下宿人投宿届
- 一三 下宿人退宿及五日以上外出居所不明届
- 一四 料理店、待合茶屋、芝居茶屋、遊給宿、貨席、藝妓屋、銘酒屋、飲食店營業願
- 一五 同上營業人家族籍住所氏名異動及廢業届
- 一六 同上營業人客ヲ宿泊セシムル届
- 一七 同上營業人婦女雇入又ハ解雇届
- 一八 雇人口入營業願
- 一九 雇人口入營業者轉居改氏名及廢業届
- 二〇 雇人口入營業手數料届
- 二一 貨座敷引手茶屋營業家屋落成届
- 二二 同上營業者遊興費ノ抵償トシテ客ノ物品受領届
- 二三 同上營業者婦女雇入又ハ解雇届
- 二四 同上營業者取締人選定届

- 三五 娼妓族籍氏名又ハ姓名變更届
- 三六 娼妓休業又ハ就業届
- 三七 娼妓他出願
- 三八 娼妓治療所外出届
- 三九 藝妓休業廢業届
- 四〇 藝妓營業上他行及宿泊又ハ歸著届
- 四一 湯屋營業人代替改氏名及廢業届
- 四二 湯屋營業人掃除定期届
- 四三 湯屋營業ニ關スル工事落成届
- 四四 理髮營業届
- 四五 理髮營業從業者届
- 四六 理髮營業人二箇所以上ノ營業場設置届
- 四七 理髮營業人消毒方法届
- 四八 理髮營業人取締規則第二條第三條ノ事項異動並ニ營業者失踪死亡届
- 四九 寄席工事落成届
- 五〇 寄席營業人轉居代替改氏名及廢業届
- 五一 劇場持主轉居代替改氏名及廢業届
- 五二 劇場工事落成届
- 五三 觀世物興行定小屋工事落成及廢止届
- 五四 諸興行一時休業及日延届但日延ニアリテハ納稅濟ノ證ヲ提示スヘシ
- 五五 遊技場(室内射的及大弓ヲ除ク)營業願
- 五六 室内射的及大弓營業場ニ關スル工事落成届
- 五七 遊技場營業者(室内射的及大弓營業者ヲ除ク)轉居代替改氏名及廢業届
- 五八 (削除)

- 五九 清涼飲料水製造場工事落成届
- 六〇 (削除)
- 六一 氷雪採取製造場貯藏場検査ニ關スル届
- 六二 氷雪受賣營業届
- 六三 氷雪受賣營業ニ關スル事項變更届
- 六四 飲料水ヲ外用水販賣者へ譲渡届
- 六五 氷雪受賣業者轉居改氏名廢業死亡届
- 六六 牛乳搾取所及乳製品製造所落成届
- 六七 牛乳搾取所畜牛疾病ニ罹リタル届但獸醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ
- 六八 食肉販賣營業届
- 六九 食肉販賣營業人轉居改氏名休業廢業死亡届
- 七〇 (削除)
- 七一 屠場工事落成及屠殺届(但屠殺ニ付テハ獸醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ)
- 七二 畜牛結核病ニ罹リ又ハ疑アルヲ發見シタルトキノ届
- 七三 結核病ニ罹リタル畜牛斃死又ハ症狀ニ變状アルトキノ届
- 七四 同上病牛ノ耳標毀損又ハ喪失届
- 七五 斃獸埋没及皮剥採骨並ニ化成届但獸醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ
- 七六 煙火製造及販賣業者廢業休業轉居改氏名死亡届
- 七七 煙火運搬途中休泊届
- 七八 火藥庫又ハ假貯藏所ノ建築修繕又ハ模様替ノ工事落成届
- 七九 劃發火藥及規定ノ數量外火藥類ヲ日出前日没後授受荷造願
- 八〇 銃砲商ニアラサル者軍用銃砲廢棄及讓渡届但讓受許可證ヲ差出スヘシ
- 八一 火藥商ニアラサル者火藥類讓渡届但讓受許可證ヲ差出スヘシ
- 八二 銃砲商ニアラサルモノヨリ軍用銃砲ノ讓受願

〔附則令〕

- 八三 坑業其他職業用ノ火藥夜間使用届
- 八四 火工場持主變更轉居改氏名廢業届
- 八五 煖爐及煙筒落成届
- 八六 摺附木製造業廢業及持主變更届
- 八七 射擊場工事落成届
- 八八 射擊場ニ於ケル射擊ノ開閉日時届
- 八九 射擊場廢止届
- 九〇 狩獵法第十九條一項但書ニ依ル鳥獸賣買届
- 九一 保護鳥獸ヲ飼養スルモノ其名稱及員數異動届
- 九二 飼養スル保護鳥獸賣渡届
- 九三 狩獵免狀亡失届
- 九四 消防組組頭及小頭共ニ他行スルトキノ届
- 九五 森林原野ニ於テ炭燒、木挽、杣、屋根板割、椎茸作、樟腦、香水等製造者ノ事業期限並ニ從業者豫定人員届
- 九六 祭典執行届
- 九七 金品ヲ得テ八歳未満ノ幼兒ヲ預リ又ハ貰受届
- 九八 陸海軍召集條例ニ依ル警察官吏ニ證明書下付願
- 九九 家出人搜索其他保護願
- 一〇〇 迷兒棄兒發見届
- 一〇一 變死體發見届
- 一〇二 變死人届
- 一〇三 (削除)
- 一〇四 市町村清潔規則ニ依ル下水溝、下水溜、便所等新設及改造届
- 一〇五 印刷彫刻營業及住所氏名變更並ニ廢業届
- 一〇六 富士山合力營業願

〔附則令〕

- 一〇七 同上營業鑑札面異動届
- 一〇八 水浴場落成届
- 一〇九 汽船及汽船間屋營業人轉居廢業死亡届
- 一一〇 舢舨検査届
- 一一一 舢舨乗組水夫届
- 一一二 舢舨營業人轉居改氏名廢業又ハ鑑札検査證亡失届
- 一一三 舢舨營業人組合廢業届
- 一一四 (削除)
- 一一五 (削除)
- 一一六 富士川通船水夫營業届
- 一一七 同上通船船體検査届
- 一一八 同上營業者轉居改氏名廢業又ハ鑑札及検査證亡失届
- 一一九 同上運送貨物積載量超過願
- 一二〇 富士川通船營業者取締選定届
- 一二一 大井川通船營業願
- 一二二 同上轉居改氏名廢業及死亡届但廢業又ハ死亡ノ場合ハ船體検査證ヲ差出スヘシ
- 一二三 同上船體屬具検査願
- 一二四 同上船體賣買讓與及廢船届但船體検査證ヲ差出スヘシ
- 一二五 同上夜間及危險ノ場合ニ出船スル願
- 一二六 同上運送貨物積載量超過願
- 一二七 同上水夫願
- 一二八 同上水夫練習者届
- 一二九 大井川筏乘營業届
- 一三〇 同上取締規則第五條ニ依ル届

- 一三一 大井川筏乘營業者轉居改氏名廢業又ハ鑑札亡失毀損届但廢業ノ場合ハ鑑札ヲ差出スヘシ
- 一三二 同上營業者取締人選定届
- 一三三 天龍川通船營業願
- 一三四 同上轉居改氏名死亡届
- 一三五 同上船體屬具検査願
- 一三六 天龍川通船營業者廢業届
- 一三七 同上船體賣買讓與及廢船届
- 一三八 同上夜間及危險ノ場合ニ出船スル願
- 一三九 同上水夫願
- 一四〇 同上水夫練習者届
- 一四一 (削除)
- 一四二 墓地火葬場管理者届
- 一四三 遺失及拾得届
- 一四四 宿屋廢業届
- 一四五 大井川水夫轉居又ハ改氏名届
- 一四六 大井川水夫廢業又ハ死亡届
- 一四七 大井川水夫練習廢止届
- 一四八 天龍川水夫轉居轉籍又ハ改氏名届
- 一四九 天龍川水夫廢業又ハ死亡届
- 一五〇 天龍川水夫練習廢止届
- 一五一 渡船用船艇及附屬具ノ検査願
- 一五二 渡船船夫雇入解雇逃亡死亡届
- 一五三 渡船營業者轉居改氏名其ノ他検査證鑑札面異動ニ依ル書換又ハ再下付願

第五節 雜

警察共濟組合事務取扱細則

昭和十年十二月十六日
靜岡縣訓令乙第三六六號

警察部 警察署

警察共濟組合事務取扱細則左ノ通り定ム

警察共濟組合事務取扱細則

第一章 通則

第一條 本細則ニ於テ規則ト稱スルハ昭和十年内務省令第五十號警察共濟組合規則、規程ト稱スルハ昭和十年内務省訓令第十四號警察共濟組合事務取扱規程ヲ謂フ

第二條 所屬長ハ所屬ノ組合員毎ニ別記様式第一號ニ依ル原票ニ所定ノ事項ヲ記入シ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ整理スヘシ

第三條 所屬長ハ所屬ノ組合員組合ヲ脱退シ又ハ出向ヲ命セラレタルトキハ翌月五日迄ニ其ノ組合員原票ヲ警察部ニ回送シ轉勤ヲ命セラレタルトキハ當該所屬長ニ轉送スヘシ

第二章 救濟

第四條 所屬長救濟金ノ請求書ヲ受理シタルトキハ調査ヲ遂ケ若シ不備ノ點アルトキハ訂正セシメ三日以内ニ左記各項ニ依リ意見ヲ付シ進達スヘシ但シ救濟金給與ノ事由發生ノ場所他管内ニ屬スルトキハ所屬長ハ所轄警察署長ニ照會スヘシ

警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ
警察署長ニ照會スヘシ

一 領收書ノ通り相違ナキヤ
二 醫療金ニシテ必要ノ限度ヲ超ユルカ如キコトナキヤ

〔靜岡令一號〕

三 規則第二十二條第二十三條ノ事項

四 其ノ他參考事項

死亡給與金ニアリテハ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

一 組合員ノ配偶者祖父母父母子等ノ場合ニアリテハ規則第十二條第二號ニ違フコトナキヤ

二 取扱規程第六條第一項第二號所定書類ノ完否

三 規則第二十條ニ依ル正當順位者ナルヤ否ヤ若シ請求者カ同條但書ニヨルモノナルトキハ其ノ意志表示ノ正當ナルコトヲ確認スルニ足ル證據書類ナルヤ否ヤ

四 死者トノ關係規則第二十二條及第二十四條ニ抵觸スルモノニアラサルヤ

五 其ノ他參考事項

發給給與金ニアリテハ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

但シ肺結核等ニ該當スル場合ニアリテハ勤務地ヲ退去セサルニ先チ警察署ヲシテ別記様式第七號ニ依リ檢診書ヲ作製セシメ請求書ヲ添付セシムヘシ

一 取扱規程第六條第一項第三號所定書類ノ完否

二 規則第十三條ノ各號ノ一ニ該當スル事實ノ詳細

三 傷疾疾病ノ程度

四 職務トノ關係

五 其ノ他參考事項

罹災給與金ニアリテハ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

但シ罹災調査ハ巡查部長以上ノモノヲシテ調査書ヲ作製セシメ本人ニ交付スヘシ

一 水地震災山崩レ地亡風雪害又ハ火藥其ノ他ノ危險物爆發等ノ區別ニ

依リ其ノ原因狀況ノ詳細

二 家屋ノ全部方流失燒失倒壊又ハ之レニ準スヘキ場合ハ其ノ區別ニ依リ狀況並ニ損害額

三 家屋ノ床上浸水一部ノ倒壊破損又ハ之レニ準スヘキ場合ニアリテハ其ノ蒙リタル損害ノ程度並ニ損害額

四 前二項以外ノ家屋又ハ家具ノ損害ノ場合ニアリテハ其ノ區別ニ依リ程度並ニ損害額

五 家屋ノ所有者氏名及組合員ハ下宿又ハ間借ナルヤ否ヤ

六 其ノ他參考事項

脱退給與金ニアリテハ規則第十五條第二十條第二十三條及第二十四條ニ依リ調査ヲ遂ケ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

一 未拂ノ掛金ナキヤ否ヤ

二 組合員ハ懲戒處分ニ依リ其ノ官職ヲ免セラレ又ハ刑事裁判ニ依リ失官失職シタルモノニアラサルヤ

特別給與金ニアリテハ規則第十五條ノ二第二十條第二十三條ニ依リ調査ヲ遂ケ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

一 取扱規程第六條第一項第五號ノ詳細

二 規則第十三條第一號又ハ第二號ニ該當シ發給給與金ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ノ詳細

三 其ノ他參考事項

分給給與金ニアリテハ規則第十五條ノ三第二十條ノ二及第二十三條ニ依リ調査ヲ遂ケ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

一 取扱規程第六條第一項第六號ノ詳細

二 死産證明書及月足スノ場合ニアリテハ四ヶ月以上ナルコトノ證明書

三 其ノ他參考事項

第十三編 警察 第一章 警務

一七〇ノ一

〔靜岡令一號〕

學費補助金ニアリテハ規則第十五條ノ四及第二十三條ニ依リ調査ヲ遂ケ左ノ各號ニ依リ副申スヘシ

一 取扱規程第六條第一項第七號ノ詳細

二 其ノ學年初メタル四月一日現在ナルコト

三 入學猶豫中ノ者ナルトキハ其ノ入學シタルトキノ年月日入學猶豫ノ事由

四 其ノ他參考事項

第五條 所屬長ハ組合員救濟金ノ給與ヲ受ケスシテ死亡シタルトキハ正當順位者ヨリ更ニ給與ヲ受クヘキモノト組合員トノ關係ヲ記シタル戸籍謄本ヲ請求書ニ添付セシメ規則第二十條ニ依リ調査ヲ遂ケ進達スヘシ若シ救濟金ヲ受領スヘキモノニシテ直系尊屬直系卑屬兄弟姉妹ナルトキハ組合員死亡ノトキヨリ引續キ其ノ家ニアルモノナルヤ否ヤヲ調査シ尙退職後救濟金ヲ請求スルモノニアリテハ規則第二十條ニ抵觸スルモノニアラサルヤ否ヤヲ調査スヘシ

第六條 罹災給與金ハ水害海嘯火災震災山崩レ地亡風害雪害又ハ火藥其ノ他危險物爆發等ノ場合ニ於テ左ノ標準ニ依リ之ヲ給與スルモノトス

一 家屋流失全燒倒壊又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ月俸ノ三ヶ月分以内

二 家屋ノ床上浸水一部ノ倒壊破損又ハ之ニ準スヘキ損害ヲ生シタルトキハ月俸ノ一ヶ月半分以内

三 家屋又ハ家具ノ損害ニシテ前二項ノ程度ニ達セサルトキハ月俸ノ一ヶ月分以内前項ノ外特ニ救濟ノ必要アリト認ムル罹災アリタルトキハ所屬長ハ其ノ狀況及被害ノ程度ヲ知事ニ具申スヘシ

第七條 規則第二十一條ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ受領者及給與金額ヲ定ムルコトアルヘシ

- 一 婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アリト認メラル、者ニ對シテハ救済金ノ全額但シ他ニ葬祭ヲ營ミタル者アルトキハ死亡給與金ノ三分ノ二ヲ限度トシテ之ニ要シタル實費ヲ控除シタル殘額
- 二 前號但書ノ場合ニ於テ控除シタル金額ハ死亡者ノ爲メ葬祭ヲ營ミタル者ニ對シテ給與ス
- 第七條ノ二 所屬長ハ前條ノ場合ニ於テ所定ノ救済金ヲ受領スルモノナキトキ又ハ不明ナルトキト雖尙左記各號ニ依リ調査ヲ遂ケ報告スヘシ
- 一 婚姻ノ届出ナキモ夫婦ノ實アル内縁ノ妻ノ有無若シアラハ其ノ住所氏名
- 二 前項以外ノ者カ死者ノ爲メニ葬祭ヲ營ミタルモノナキヤ否ヤ若シアラハ其ノ住所氏名死者トノ關係並ニ葬祭ニ要シタル金額
- 第八條 規則第十八條ニ依ル申告ハ左記各號ニ依ルヘシ
- 一 醫療療疾ニ付テハ傷病名傷病ノ模様療疾ノ狀態療養ノ場所看護人ノ雇入ノ場合ハ其ノ必要ノ概況入院ノ有無勤務トノ關係
- 二 死亡ニ付テハ其ノ事實
- 三 罹災ニ付テハ其ノ狀況程度ノ概況
- 四 特別給與ニ付テハ其ノ事實
- 五 分焼ニ付テハ其ノ年月日時場所、續柄氏名
- 六 學費補助ニ付テハ其ノ學年及氏名年齡入學在校名
- 第九條 規則第十八條ノ申告アリタルトキハ所屬長ハ意見ヲ附シ速ニ知事ニ進達スヘシ
- 第十條 所屬長ハ其ノ必要ニ應ジ視察又ハ調査ヲ爲シ療養方法必要ノ限度ヲ超ユルト認メタルトキハ速ニ報告スヘシ
- 第十一條 救済金ヲ受領シタルモノハ所屬長ヲ經テ領收書ヲ知事ニ差出ス

〔警令四一號〕

〔警令四號〕

- 第十九條 本組合ニ對シ寄附ヲ爲サントスル者アルトキハ所屬長ハ意見ヲ附シ知事ニ進達スヘシ
 - 第二十條 本組合ニ係ル書類ノ發送ニ際シ記入スル番號並ニ封筒ニ「共」ノ文字ヲ加フヘシ
 - 第二十一條 組合員ノ救済金給與ニ關シテハ療疾給與金ヲ除外警察部長ニ於テ決定ス
- 附則
大正十年三月四日靜岡縣訓令乙第八四號ハ之ヲ廢止ス
本細則ハ昭和十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

警察共濟組合家庭藥配給規程

昭和十一年四月十三日
靜岡縣訓令乙第一五二號

警察部 警察署

警察共濟組合家庭藥配給規程左ノ通り定ム

第一章 總則

- 第一條 昭和十年內務省令第五〇號警察共濟組合規則（以下單ニ規則ト稱ス）ニ基ク施設家庭藥配給ニ付テハ本規程ニ依ル
- 第二條 本規程ニ依ル家庭藥ハ警察共濟組合員及其ノ家族ノ疾病及傷痍ヲ救済スル目的ヲ以テ別記藥品ヲ年一回組合員各家庭ニ配給スルモノトス但シ外箱ハ初回ニ配給スルトキニ添付シ以後ハ配給セズ
- 第三條 本規程ニ於テ所屬長ト稱スルハ昭和十年內務省訓令第一四號警察共濟組合事務取扱規程ノ例ニ依ル
- 第四條 所屬長ハ毎年四月一日現在ニ依リ所屬組合員數ヲ調査シ別記様式

第十三編 警察 第一章 警務

ヘシ

- 第十二條 所屬長ハ規程第十八條ニ依ル概算前渡金ノ請求アリタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ附シ知事ニ進達スヘシ
- 一 醫療給與金ノ場合ニ依リテハ疾病ノ模様及生活ノ狀況
- 二 罹災給與金ノ場合ニ依リテハ罹災ノ程度及生活ノ狀況
- 第十三條 乙種組合員ニ對スル關係書類ニハ總テ看易キ箇所ニ「乙種」ナル文字ヲ記入スヘシ
- 第三章 會計
- 第十四條 組合員ノ掛金ハ所屬長ニ於テ月俸仕拂ノ時之ヲ徵收スヘシ出向ヲ命セラレタル組合員ノ掛金ノ徵收ニ付亦同シ
- 組合員轉勤ヲ命セラレタルトキハ其ノ月ノ掛金ハ總テ前任所屬長ニ於テ徵收シ送金書備考欄ヘ其ノ旨附記スヘシ新加入者ニシテ月俸仕拂後ニ任命セラレタル組合員ノ掛金ハ翌月俸仕拂ノ時ニテ月分ヲ徵收スヘシ
- 第十五條 所屬長ハ組合員ノ掛金徵收ニ際シ過誤ヲ生シタルトキハ翌月俸仕拂ノトキ中途退還者ニ對シテハ俸給仕拂ノトキ之ヲ整理スヘシ
- 第十六條 掛金ハ其ノ月ノ支給額ニ依ラス辭令面ニ於ケル月俸額ニ依リテ算定シ之ヲ徵收スヘシ但シ月ノ中途ニ於テ月俸ニ異動ヲ生シタルトキハ前月俸額ニ依ル月俸ニハ功勞加俸及精勤加俸ヲ加算ス
- 第十七條 所屬長組合員ノ掛金ヲ徵收シタルトキハ別記様式第二號ノ徵收簿ヲ作成整理シ様式第三號ノ送付書ヲ掛金ト共ニ翌月三日迄ニ知事ニ差出スヘシ
- 第十八條 所屬長救済金ノ送致ヲ受ケタルトキハ直チニ之ヲ請求者ニ交付書ヲ發行スヘシ
- 第十九條 所屬長救済金ノ送致ヲ受ケタルトキハ別記様式第四號ニ依ル領收書ヲ別記様式第五號ニ依ル領收書ヲ徵シ知事ニ進達スヘシ

第一號ニ依リ之ヲ報告スヘシ

第二章 配給

- 第五條 家庭藥ハ前條ノ報告ニ基キ四月中ニ所屬長ニ對シ一括シ送付スルモノトス
- 第六條 所屬長藥品ノ配給ヲ受ケタルトキハ別記様式第二號ニ依ル藥品出納簿ニ記入シ速ニ組合員ニ交付スルト共ニ別記様式第三號ニ依リ領收書ヲ知事ニ提出スヘシ
- 第七條 本規程ニ依ル藥品配給後組合員ニ加入シタル者ニ對シテハ其ノ年度中ニ之ヲ配給セス但シ實費ヲ支辨スルトキハ此ノ限ニアラス
- 第八條 配給藥品ニシテ配給量ヲ超過シ追配ヲ受ケムトスルトキハ所屬長ニ申出所屬長ハ之ヲ別記様式第四號ニ依リ請求スヘシ
- 第九條 前條ノ請求ニ對スル配給藥品ニ對シテハ別表ニ定ムル實費ヲ徵收ス實費ハ請求當月未所屬長之ヲ徵收シ警察部ニ送金スルモノトス
- 第十條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ既配給ノ藥品ハ假令殘品アル場合ト雖モ引揚ヲ爲サス
- 第十一條 所屬長組合員ニ藥品交付ノ際ハ別記第六號様式ニ依ル藥品配給簿ニ記名捺印セシムル等適當ニ受授ノ考證ヲ爲サシムヘシ
- 第三章 會計
- 第十二條 本規程ニ關スル會計ハ左ノ簿冊ニ依リ之ヲ整理スヘシ
- 一、藥品購入ニ關スル諸契約書類編 永久保存
- 二、金錢受拂簿 永久保存
- 三、藥品出納簿 五年保存
- 四、藥品配給簿 三年保存
- 第十三條 藥品配給ニ要スル費用ハ組合配當資金ノ範圍内ニ於テ經理シ剩餘金ヲ生シタルトキハ之ヲ確實ナル銀行又ハ郵便貯金トシテ利殖ヲ計ル

ヘシ 附則

第一號樣式

本規程ハ昭和十一年四月二日ヨリ施行ス

何共第 號

昭和 年 月 日

静岡縣知事宛

警察共済組合員現在報告

何々警察署長印

昭和 年 月 日現在

官	職	氏	名	官	職	氏	名

第二號樣式

藥品出納簿

月	日	摘要	受入	數量	拂出	數量	殘	高

〔静岡令四號〕

〔静岡令四號〕

第三號樣式

領收書

一、昭和何年度配給家庭薬何々警察署何某外何人分何個
 又ハ何月日付請求ニ保ル藥品(數量種類明記ノコト)
 右御送付相成正ニ領收候也

年 月 日

何々警察署長印

静岡縣知事宛

第四號樣式

家庭薬請求書

種	別	數	種	別	數	種	別	數
アスヒリン錠(何錠入)	何個		何個					
何々	何個							

右之通り御配給相成度及請求候也

昭和 年 月 日

静岡縣知事 殿

何々警察署長印

(一四) 礪 (三五〇瓦) 末 洗眼、炎症ノ奄法濕布、咽喉ノ炎症

● 巡查夏衣、夏袴着用期間ニ關スル件

昭和十二年五月三十一日
静岡縣訓令乙第二〇九號

警察部 警察署

巡查ノ夏衣、夏袴ハ左ノ區分ニ依リ着用スベシ但シ氣候其ノ他特殊ノ事情アルトキハ着用期間ノ伸縮ヲ命ズルコトアルベシ
白布夏衣、夏袴着用期間中正裝ヲ爲ス場合ニ在リテハサーシ夏衣ヲ着用スベシ
サーシ夏衣及白布夏袴 自六月一日 至九月一日
白布夏衣、白布夏袴 自七月一日 至八月末日

● 小使被服制式及使用期限

明治三十九年三月二十日
静岡縣訓令乙第二五五號

改正 昭和四年一月訓令乙第二二號

其部署小使ニ被服ヲ給與ス其制式及使用期限ハ別表ニ依ル
使用期限内退職又ハ死亡シタルトキハ返納セシメ使用期限後ハ凡テ本人ニ付與ス
本令ハ明治三十九年四月ヨリ施行ス

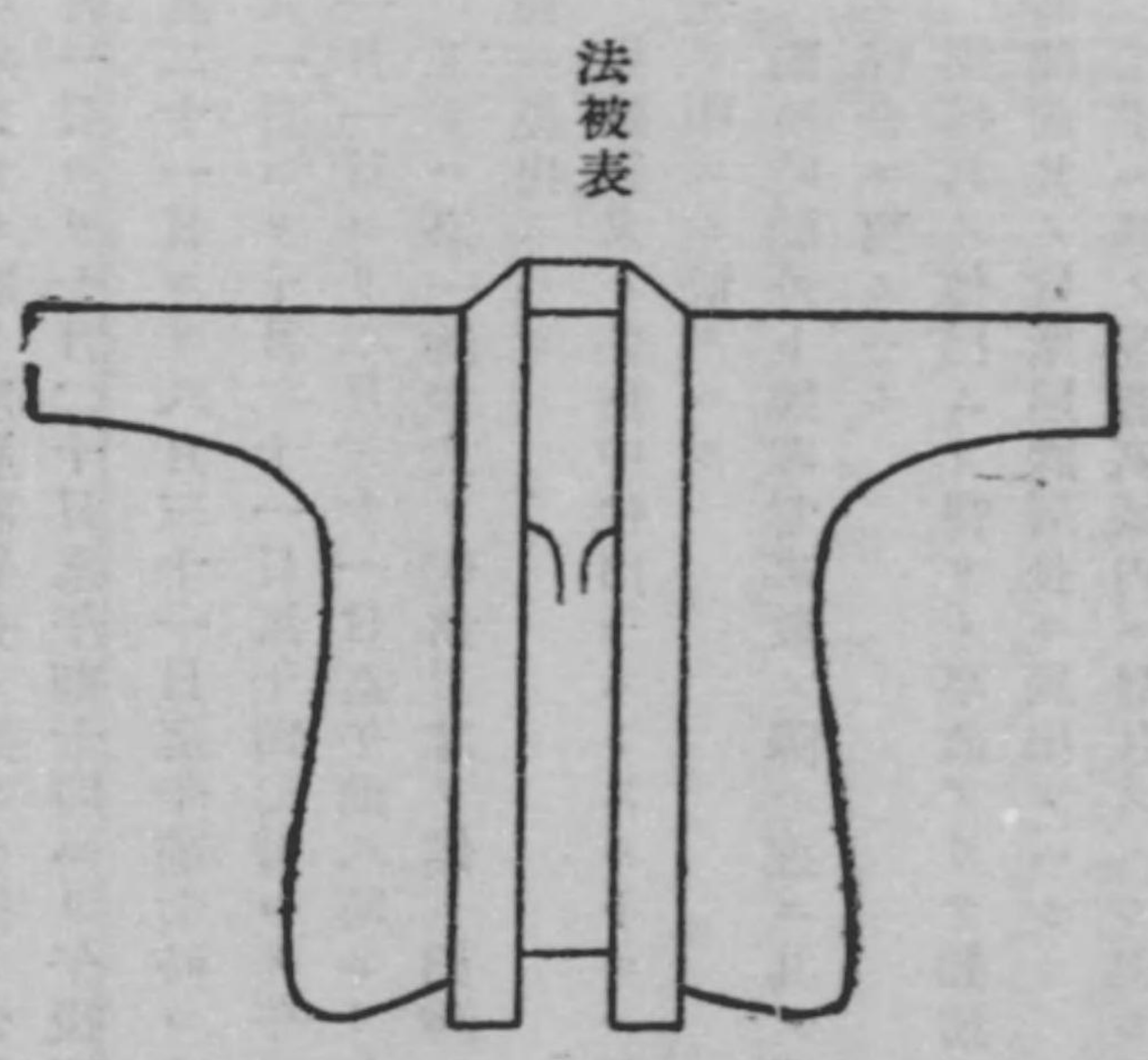
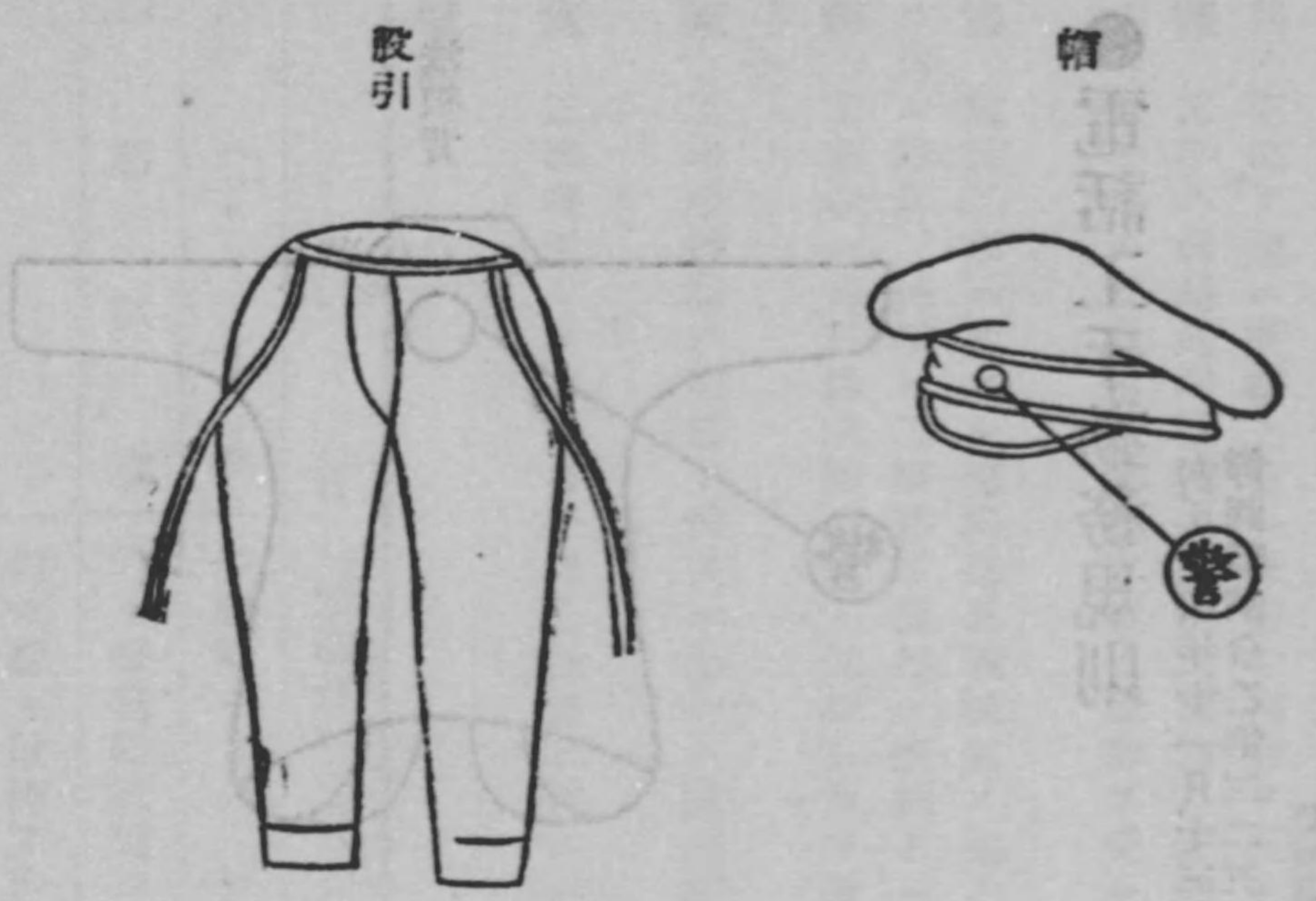
(第四部) 警察署 (警察分署)

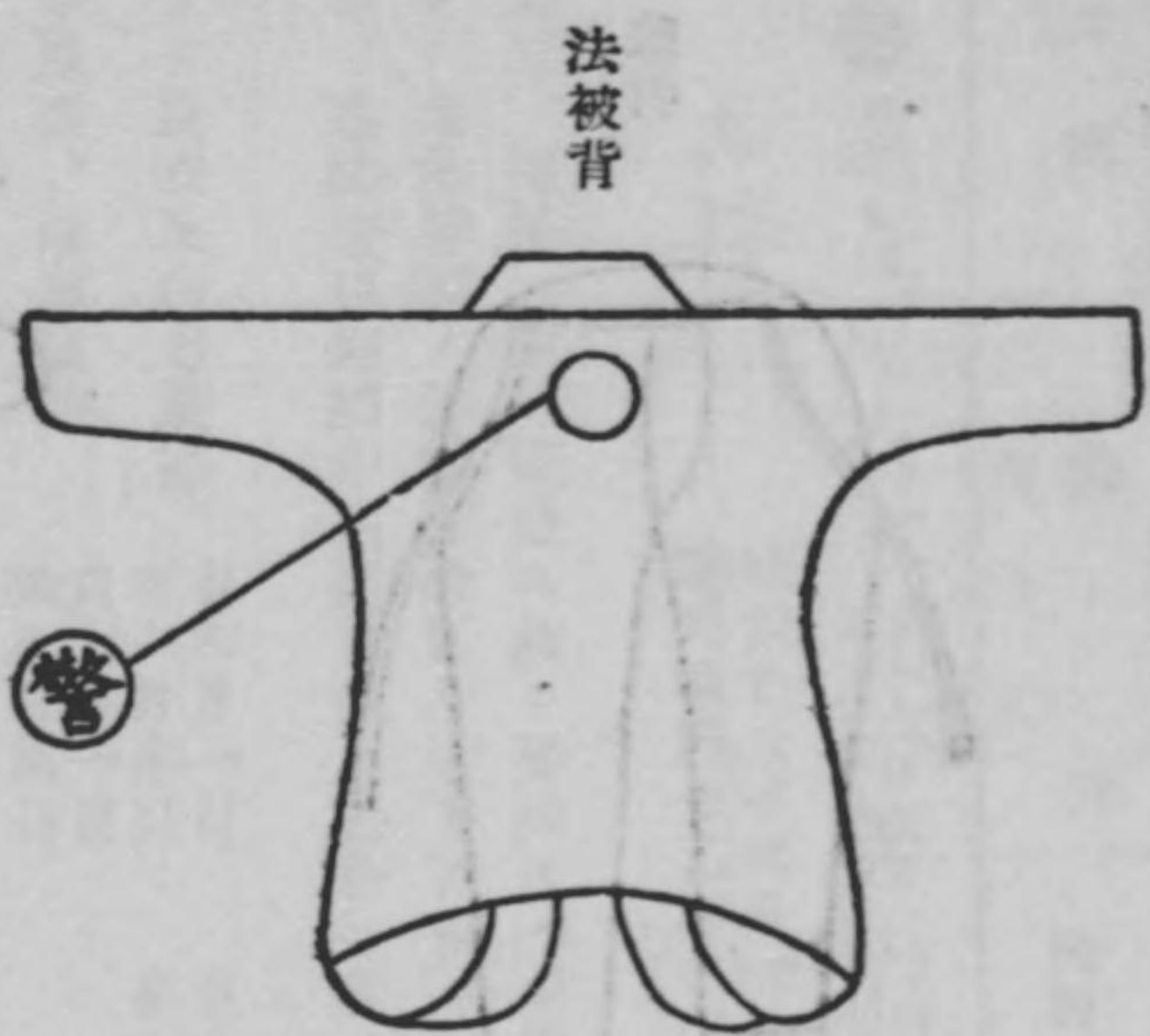
冬	冬	名	稱	帽		製式	其ノ他	形	狀	使用期限			
				地	質								
冬	冬	冬	冬	濃紺絨	青銅色金屬徑一寸ノ丸形ニ付ス	黑	草	黑	草	心ナシ軟製ト	如	圖	二ケ年壹個
夏	夏	夏	夏	裏淺黃木綿	裏淺黃木綿	同	同	同	同	同	同	同	十二ケ月壹著

〔静岡令一七號〕

夏	夏	名	稱	被		製式	其ノ他	形	狀	使用期限
				裏	表					
夏	夏	夏	夏	裏淺黃木綿	表紺木綿	同	同	同	同	五ケ月壹著
冬	冬	冬	冬	裏淺黃木綿	表紺木綿	同	同	同	同	五ケ月壹著

〔静岡令一七號〕





●電話工手勤務規則

大正十四年十一月十三日
静岡縣訓令乙第三二五號

警察部 警察署 (警察分署)

- 電話工手勤務規則左ノ通定ム
- 電話工手勤務規則**
- 第一條 電話工手(以下單ニ工手ト稱ス)ハ所屬課署長ノ指揮命令ヲ受ケ警察電話ニ關スル業務ニ從事スヘシ
- 第二條 工手ハ常ニ行狀ヲ慎ミ忠實職務ニ服シ苟モ粗暴又ハ威權ヲ濫用スル方如キ行爲ヲ爲スヘカラス

〔静岡令一七號〕

- 第三條 工手ノ受持區及配置ハ別ニ之ヲ定ム
- 第四條 勤務中ハ制服ヲ着用スヘシ但シ疾病其ノ他已ムテ得サル事故ノ爲制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ所屬課署長ノ承認ヲ受ケヘシ
- 第五條 勤務ハ日勤トシ執務時間ハ左ノ通トス但シ祭日、祝日及日曜日ハ業務ニ差支ナキ限り所屬課署長ノ許可ヲ得テ休務スルコトヲ得
- 七月二十一日ヨリ七月二十日迄午前七時ヨリ午後五時迄
- 七月二十一日ヨリ八月三十一日迄午前七時ヨリ午後二時迄
- 九月一日ヨリ十月三十一日迄午前七時ヨリ午後五時迄
- 十一月一日ヨリ三月三十一日迄午前八時ヨリ午後五時迄
- 第六條 工手ハ第一號様式ノ勤務日誌ヲ備ヘ勤務ノ要領ヲ記載シ毎朝所屬課署長ニ提出スヘシ
- 第七條 退廳後又ハ休務中他出セムトスルトキハ所屬課署長若ハ家族ニ其ノ行先ヲ明ニシ置クヘシ
- 第八條 勤務時間外ト雖非常事故ノ際ハ速ニ其ノ現場ニ駆付ケ電話線路及機械ノ保全ニ努ムヘシ
- 第九條 疾病其ノ他已ムテ得サル事故アリテ勤務スルコト能ハサルトキハ出勤時間前其ノ旨所屬課署長ニ届出ツヘシ
- 第十條 工手ハ其ノ配置區域内ニ居住スヘシ但シ已ムテ得サル事由アルトキハ所屬課署長ノ許可ヲ受ケ區域外ニ居住スルコトヲ得
- 第十一條 職務ノ爲他人ノ所有地内ニ立入ラムトスルトキハ豫メ其ノ所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ受ケヘシ
- 第十二條 電話線路ノ巡回、機械ノ點檢及電池ノ修理度數ハ左ノ通トス
- 一等線路(線條四線以上) 月三回以上
- 二等線路(線條二線以上) 月二回以上
- 三等線路(單線) 月一回以上

〔静岡令一七號〕

- 電話機 月一回以上
- 交換機 月三回以上
- 電話機用電池 月一回以上
- 交換機用電池 月三回以上
- 第十三條 工手ハ巡回ノ際電話線路ノ破損障礙又ハ器具機械等ノ故障ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ修理シ其ノ重大ナルモノ若ハ直ニ修理シ難キ場合ハ其ノ事由ヲ速ニ所轄上官ニ報告シ指揮ヲ受ケヘシ
- 第十四條 工手ハ線路巡回機械ノ點檢及電池ノ修理ヲ爲シタルトキハ第二號様式ニ依リ其ノ都度當該警察官吏ノ認印ヲ受ケ所屬課署長ニ報告スヘシ
- 第十五條 電話工事ニ要スル材料器具機械其ノ他ノ消耗品等ハ總テ鄭重ノ取扱ヲ爲シ器具、機械ハ工事終了後速ニ返納スヘシ
- 第十六條 工事中ハ毎日第三號様式ノ工事日報ヲ所轄署經由警察部長ニ報告スヘシ
- 第十七條 工所用物品ノ交付ヲ受ケル場合ハ縣出納吏ニ領收證ヲ提出スヘシ
- 第十八條 工事竣工シタルトキハ竣工報告ト共ニ第四號様式物品遺拂報告第一號様式

- 及第五號様式ノ線路明細報告ヲ所轄署經由警察部長ニ報告スヘシ
- 第十九條 工所用殘品及撤去品ハ物品遺拂報告ニ添ヘ縣出納吏ニ返納スヘシ
- 第二十條 電話障礙ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ現場ニ出張修理ノ上第六號様式ニ依リ所屬署經由、警察部長ニ報告スヘシ
- 第二十一條 線路巡回等ノ爲鐵道線路内ニ立入ラムトスルトキハ鐵道掛員ノ指圖ヲ受ケヘシ
- 第二十二條 工手ハ縣ヨリ交付ノ手帳ヲ常ニ携帯スヘシ
- 第二十三條 工手轉勤ノ命ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ出發シ到着ノ上ハ其ノ旨所屬課署長ニ届出ツヘシ
- 第二十四條 工手轉勤ノ場合ハ其ノ辭令ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ事務ノ引繼ヲ爲シ其ノ旨勤務日誌ニ記載シ共ニ署名捺印ノ上課署長ニ報告スヘシ若シ後任者ナキトキハ縣出納吏ニ一時引繼ヲ爲スヘシ
- 附則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 明治三十五年五月静岡縣訓令丙第二六六號電話工夫勤務規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

天	月	日 (何曜日)	候
通話試験	午前晴	午後曇	
何々線ニ故障アルヲ以テ直ニ修理ヲナス	何々線電話試験シタルニ何等故障ヲ認メス		

電話回線名及 障礙箇所名	障礙種類	障礙發生日時	障礙通知=接手又ハ障礙 發生發見日時	復舊日時	復舊手配迄= 要シタル時分	障礙原因
事 記						

●電話工手配置及受持區域

昭和十年四月一日
静岡縣訓令乙第一〇二號

改正 昭和十四年四月訓令乙第一五二號

昭和九年三月二十二日静岡縣訓令乙第一〇一號電話工手配置及受持區域ヲ

總務部 警察部 警察署

〔静岡令四一號〕

左記ノ通り改正シ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

電話工手配置及受持區域表

區別	電話工手 配置部	人員	受持區域	備考
第一區	下田警察署	一	下田警察署管内	
第二區	大仁警察署	一	大仁警察署管内	
第三區	伊東警察署	一	熱海警察署管内	
第四區	三島警察署	一	三島警察署管内	
第五區	沼津警察署	一	沼津警察署管内	
第六區	御殿場警察署	一	御殿場警察署管内	富士山ヲ除ク
第七區	吉原警察署	一	吉原警察署管内	富士山ヲ除ク
第八區	清水警察署	一	清水警察署管内	
第九區	警察部	二	静岡警察署管内	一名ハ受持ナシ
第十區	藤枝警察署	一	藤枝警察署管内	
第十一區	金谷警察署	一	金谷警察署管内	
第十二區	掛川警察署	一	掛川警察署管内	
第十三區	見付警察署	一	堀之内警察署管内及 見付警察署管内	
第十四區	濱松警察署	一	久努西村 濱松警察署管内	
第十五區	新居警察署	一	新居警察署管内 氣賀警察署管内	

〔静岡令四一號〕

計	第十六區	第十七區
	二 俣警察署	水窪警察署
一八	一 二俣警察署管内 森町警察署管内	一 水窪警察署管内及 龍山村、龍川村
	龍川村、龍山村 久努西村ヲ除ク	

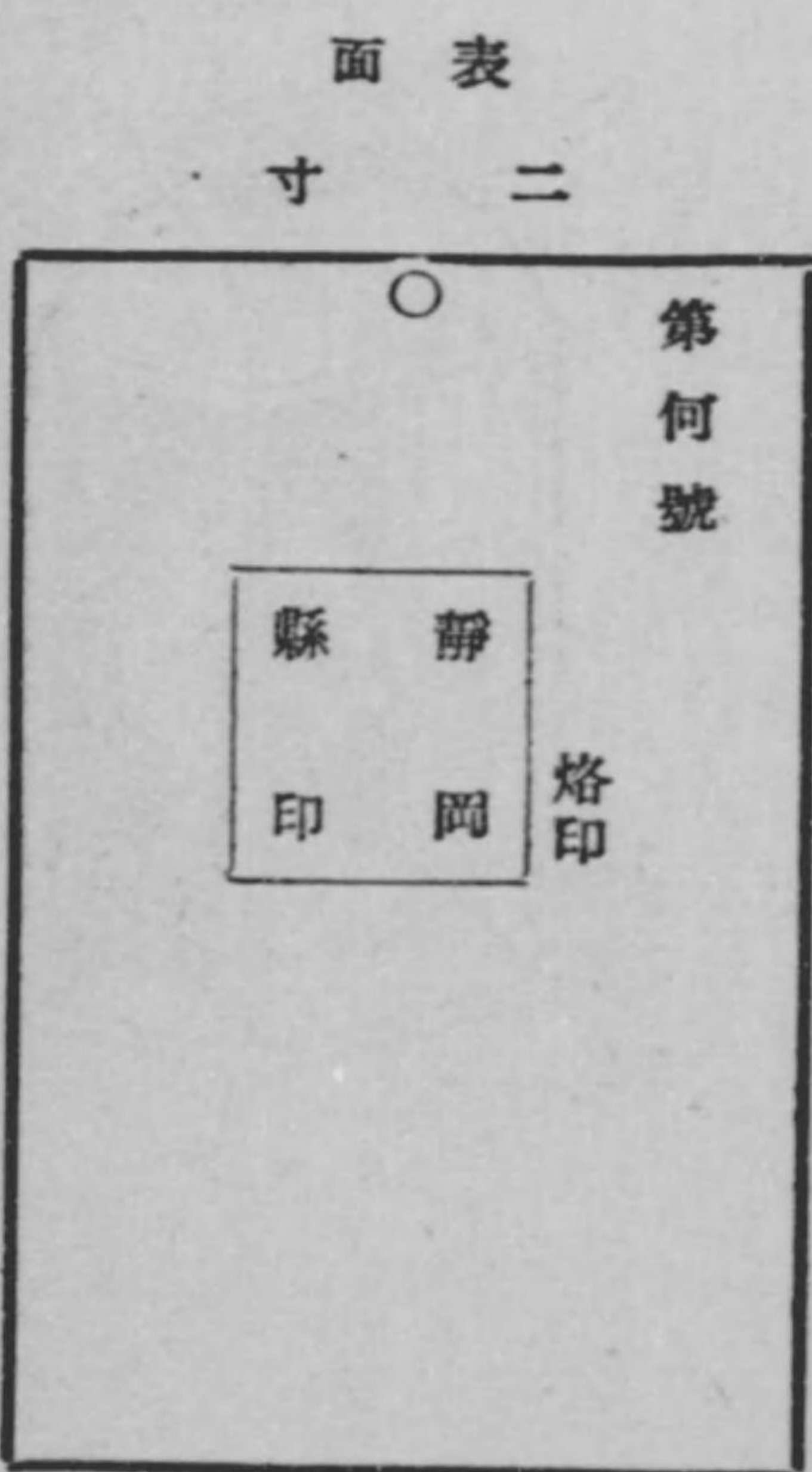
●電話工手電話工夫印鑑

明治三十五年五月十四日
静岡縣訓令丙第二五七號

警察部 警察署 (警察分署)

電話工手電話工夫ニ携帶セシムル印鑑ハ左ノ如ク定ム

木製 二寸五分



面 裏

○ 静岡縣電話工手

氏 名

●電話工手及電話工手ノ携帯スル
提燈徽章ノ件

明治三十五年五月十二日
静岡縣訓令丙第二五一號

警察部 警察署 (警察分署)

電話工手電話工手ノ携帯スル提燈徽章左之通相定ム
右訓令ス

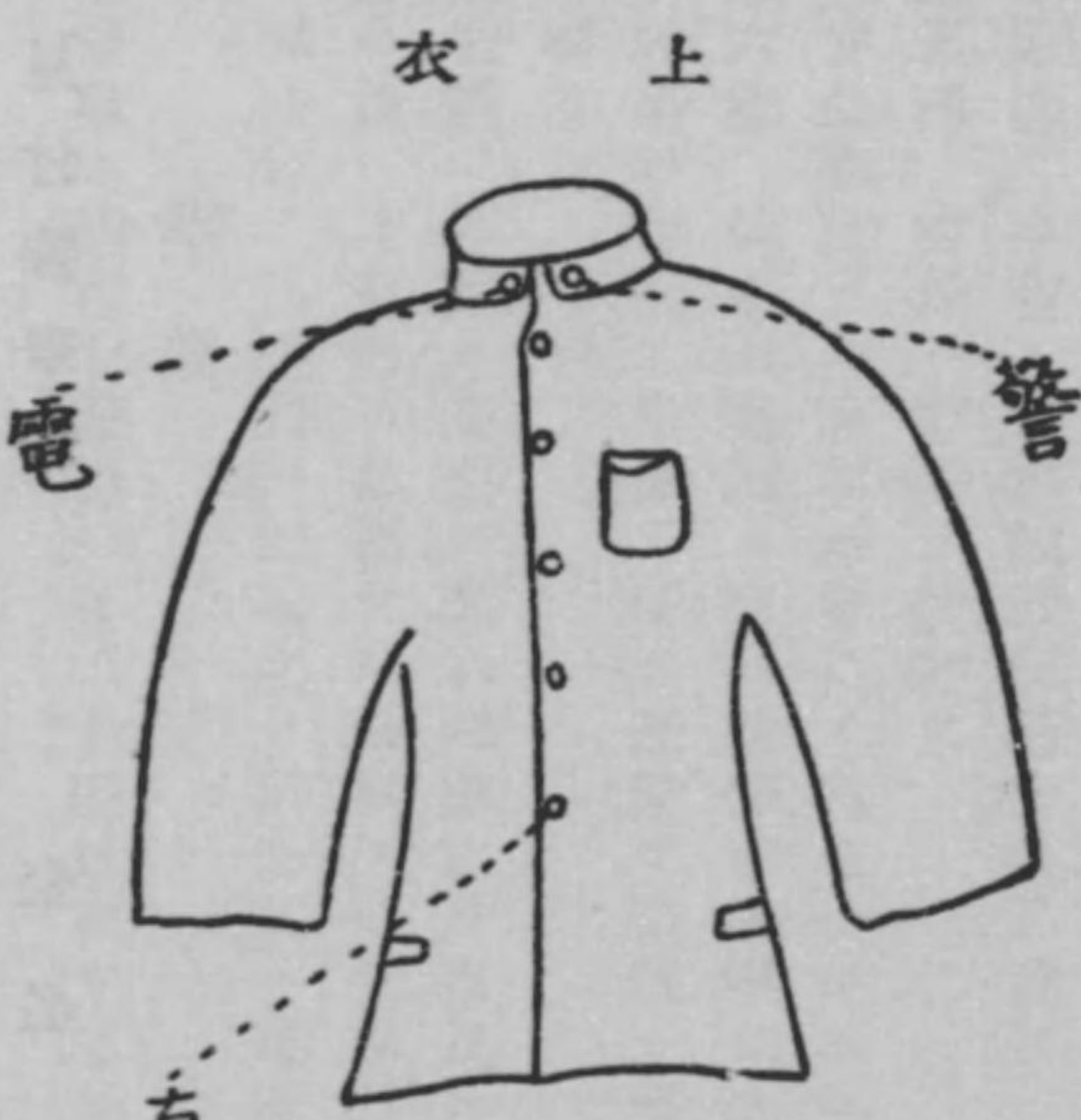


〔静岡令四一號〕

帽			外 套		袴	
徽章	製 式	地 質	製 式	地 質	製 式	地 質
徑八分ノ金色日章	圓形黒革製前庇革製願紐ヲ附シ願紐ノ兩端ハ帽ノ兩側ニ於テ徑四分ノ日章金色釦各壹箇ヲ以テ留ム	黒羅紗	長ハ靴踵上際ヲ距ルコト約二十四種袖ノ長ハ腕ノ關節ヨリ延ルコト眞鍮圓形内日章ヲ鑲刻セル釦六箇ニ行腰部分ニ帶緒ヲ設ケ裾ヲ裂キ腰部ニ物入各壹箇ヲ設ケ	黒羅紗	短袴半ズボン兩股ニ各壹箇ノ物入ヲ附ス裾口ヲ裂クコト之レニ釦各三箇ヲ附ス	濃紺地羅紗夏ハ黒小倉單衣
			如 圖		如 圖	



袴



上 衣

眞鍮日章釦



此線赤

●電話工手服制

昭和五年四月八日
静岡縣訓令乙第一〇〇號

(内務部) 警察部 警察署

電話工手服制左ノ通定ム
附 則

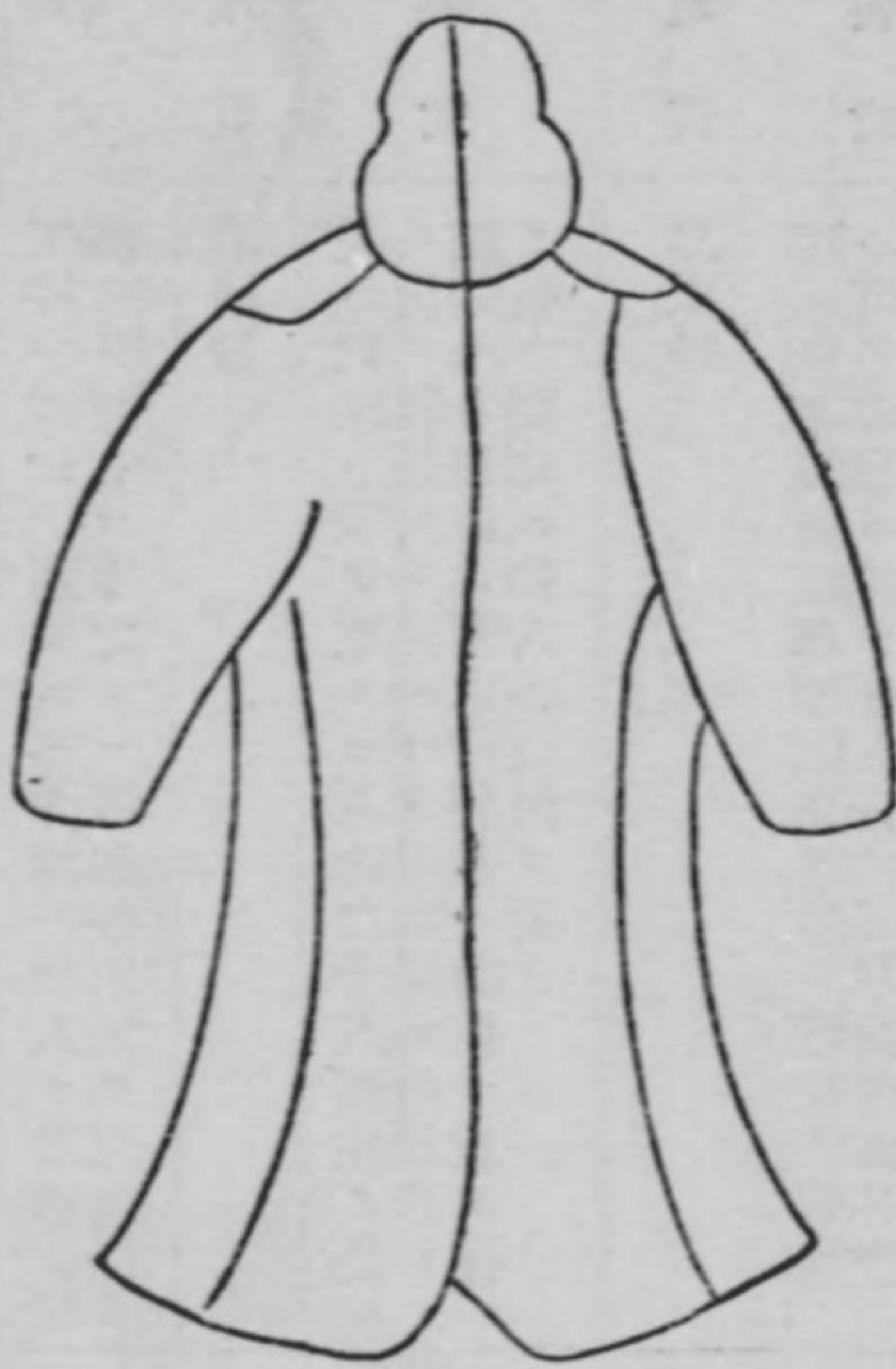
- 一、本令ハ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
- 一、明治三十五年五月十二日静岡縣訓令丙第二五二號ハ之ヲ廢止ス

電話工手服制圖令		
衣 襟 章	製 式	上 地 質
徑四分ノ眞鍮警電字形式箇ヲ附ス	襟幅二寸 詰襟前面左上壹箇 前面左右下部貳箇ノ物入ヲ附ス	濃紺地羅紗 夏ハ黒小倉單衣
		如 圖

面表套外



面裏套外



〔靜岡令〕

●警察電話ノ取扱ニ従事スル雇員 定員表

昭和七年四月十九日
靜岡縣訓令乙第四百四十四號

警察部 警察署

明治四拾五年七月靜岡縣訓令乙第三七六號警察電話ノ取扱ニ従事スル雇員
定員表ヲ左ノ通改正シ昭和七年六月壹日ヨリ之ヲ施行ス

警察部	五名
靜岡警察署	貳名
沼津警察署	參名
濱松警察署	參名
御殿場警察署	貳名
掛川警察署	貳名
清水警察署	貳名
三島警察署	壹名
見付警察署	壹名

●靜岡縣經濟警察協議會規程

昭和十四年一月二十四日
靜岡縣告示第七十二號

靜岡縣經濟警察協議會規程左ノ通定ム

靜岡縣經濟警察協議會規程

第一條 警察ト經濟關係諸團體トノ緊密ナル連絡ノ下ニ經濟統制諸法令ノ

圓滿ナル實施ヲ確保スル爲メ靜岡縣經濟警察協議會ヲ設ケ靜岡縣廳内ニ置

ク

第二條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ事項ニツキ協議ヲ爲スモノト

ス

一 時局ノ認識、統制諸法令ノ趣旨内容ヲ充分ニ經濟團體ニ周知徹底セ

シメ業界ヲシテ進シテ國策ニ協力セシムルノ方策

二 統制諸法令ノ違反防止ニ關スル適切ナル措置、方策ニ關スル事項

三 統制諸法令實施ノ結果生ズル轉業、離職問題ニ關スル事項

四 警察ト經濟諸團體トノ意思疎通ヲ目的トスル懇談、意見ノ交換其ノ

他ノ事項

五 其ノ他經濟警察運用上ノ實ヲ擧グル爲メ協議スルヲ適當ト認メラルル

事項

第三條 本會ハ會長及協議員ヲ以テ組織ス

會長ハ靜岡縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

協議員ハ左ニ掲グル者ノ中ヨリ知事之ヲ任命又ハ囑託ス

一 廳内關係官吏

二 各種産業團體役員

三 主要商工會議所役員

四 其ノ他學識經驗者

〔靜岡令三八號〕

第四條 本會ニ幹事並書記若干名ヲ置ク

第五條 會長ハ會務ヲ統轄ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル協議員其ノ職務ヲ代行ス

第六條 幹事及書記ハ廳内關係官吏中ヨリ知事之ヲ任命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ上司ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從

事ス

第七條 本會ハ必要ニ應ジ知事之ヲ召集ス

第八條 本會内ニ必要ナル事項ニ付キ專門協議會ヲ設置スルコトヲ得專門

協議會ノ協議員ハ知事之ヲ任命又ハ囑託ス

附則

本規程ハ昭和十四年一月二十四日ヨリ之ヲ施行ス

〔警固令〕

第二章 保安

第一節 御紋章

● 菊御紋章濫用不相成件

明治三十三年十月九日
諭告第一號

菊御紋章ノ儀ニ就テハ明治元年三月同四年六月太政官布告ヲ以テ禁止セラレ居ルニモ拘ハラズ近時濫用ノ弊漸ク滋ク之カ取締上或ハ行政執行法第五條第一項ニ依リ處分セサルヲ得サル儀モ可有之候ニ就テハ今後左記各項ニ準據シ心得違無之様注意スヘシ

- 一 印刷描出其他方法ノ如何ニ拘ハラズ商品容器封皮引札廣告看板建築物又ハ其他ノ物件ニ菊御紋章若クハ御紋章類似ノ圖形ヲ表出シ又ハ之ヲ發賣頒布シ若ハ之ヲ觀覽ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 二 帝室若ハ政府ノ授與ニ係ル賞牌賞狀褒狀免狀ノ類ヲ節略模寫シテ菊御紋章ノ部分ヲ前項ノ物件ニ描出私用スルコトヲ得ス
- 三 私著ノ文書圖書ニ在リテハ御陵ノ圖御系譜御歴代ノ尊號ヲ掲クル場合ト雖モ菊御紋章類似ノ圖形ヲ之ニ表出スルコトヲ得ス
- 四 帝室若ハ政府ノ所有又ハ授與ニ係ル物件ノ形狀ヲ複寫攝影模圖等ニ依リテ表出シタルモノ例ハ御料ノ物件ノ模圖若ハ官廳ノ建設物等ニシテ菊御紋章ノ附著セルモノヲ複寫等ニ依リテ表出シタルモノ又ハ明治二十三年十月三十日ノ教育ニ關スル勅語ヲ出版スルニ當リ菊御紋章ヲ表記スルモノハ前各項ノ限ニ在ラス

右諭告ス

● 各種ノ商品等ニ帝室御用其他皇室ニ關スル文字濫用不相成件

明治三十四年十二月二十七日
諭告第五號

近來往々各種ノ商品、商品容器、封皮引札廣告看板等ノ物件ニ於テ帝室御用、東宮御用、宮内省御用其他皇室ニ關スル文字ヲ濫用スル者有之右ハ明治元年三月太政官布告ニ違背シ穩ナラサル儀ニ付心得違ノ者ナキ様注意スヘシ

第二節 銃砲火藥類 危險物

●銃砲火藥類取締法令施行手續

昭和三年五月二十二日
警視廳令第三十九號

改正 昭和八年八月縣令第三九號
銃砲火藥類取締法令施行手續左ノ通定ム

銃砲火藥類取締法令施行手續

第一章 總則

第一條 本手續ニ於テ法トハ銃砲火藥類取締法ヲ、規則トハ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ、細則トハ銃砲火藥類取締法施行細則ヲ謂フ

第二條 法、規則、細則、本手續ニ依リ内務大臣又ハ知事ニ提出スヘキ書類ハ警察署ヲ經由スヘシ

第二章 銃砲、火藥類

第三條 銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ廢止シタル者ハ十日以内ニ其ノ營業ノ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ届出ツヘシ

第四條 銃砲又ハ火藥類ノ販賣營業ノ許可ヲ受ケタル者住所、氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所ノ所在地、代表者ノ住所氏名、定款)ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ

第五條 火藥類取扱免狀又ハ丙種火藥類作業主任者免狀ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一 申請者ノ本籍、住所、氏名、生年月日

二 免狀ノ種類

前項ノ申請書ニハ履歷書、戶籍抄本、資格ヲ證明スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第六條 火藥類取扱免狀又ハ丙種火藥類作業主任者免狀ヲ毀損亡失シ又ハ

〔警視廳令〕

〔警視廳令〕

第十二條 規則第三十八條ニ依リ火藥類使用許可ヲ受ケタル者火藥類使用中ハ危險區域ニ赤旗ヲ掲ケ且消費ノ時間中ハ見張人ヲ置キ危害ヲ豫防スヘシ但シ坑内ニシテ他ハ危險ヲ及ボス虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 前條ノ火藥類ハ坑内ノ外日出前又ハ日没後ニ於テ使用スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ依リ使用地警察署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 銃砲火藥類製造業者又ハ一年間ニ於テ規則第十八條各號以外ノ火藥類ヲ消費スル者ニシテ勞務者ヲ雇入レタルトキハ其ノ住所、氏名、生年月日ヲ、解雇シタルトキハ其ノ旨十日以内ニ所轄警察署ヘ届出テ其ノ都度第四號様式ニ依リ勞務者臺帳ニ記載スヘシ但シ鑛業法ニ依リ鑛物ヲ探掘スル者ハ本條ノ届出ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 一年間二千貫未滿ノ火藥又ハ千貫未滿ノ爆藥ヲ消費スル者ニシテ火藥類取扱人ヲ置カス且自ラ之方取扱ヲ爲ササル者ハ火藥類係員ヲ定メ火藥類ニ關スル事項ヲ掌ラシムヘシ但シ規則第十八條第一號ノ火藥ヲ消費スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ火藥類係員ヲ定メタルトキハ其ノ住所、氏名、生年月日ヲ消費地警察署ニ届出ツヘシ

第十六條 火藥類取扱人又ハ火藥類係員ハ一日間ノ消費見積高ヨリ多量ノ火藥類ヲ勞務者ニ交付スルコトヲ得ス

前項ノ火藥類ニ殘餘ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ還付セシムヘシ

第十七條 規則第三十二條第一項ニ依リ火藥類貯藏所ニ關スル許可申請書ニハ細則第三十一條所定事項ノ外規則第三十三條ノ距離ヲ表示シタル見取圖ヲ添附スヘシ

第十八條 規則第二十七條第二號ニ依リ火藥類貯藏許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

住所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ再交付又ハ書替ヲ申請スヘシ

前項ノ免狀ヲ有スル者死亡シタルトキハ戶籍法上ノ届出義務者ヨリ十日以内ニ免狀ヲ返納スヘシ

第七條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ノ規則第七條ニ依リ備フヘキ帳簿ハ第一號様式細則第八條ニ依リ提出スヘキ届書ハ第二號様式ニ依リシ

第八條 火藥類消費者ハ一月間ノ讓受及消費シタル火藥類ノ種類、數量並各種類ノ月末現在高ヲ第三號様式ニ依リ翌月十日迄ニ消費地警察署ニ届出ツヘシ但シ一年間ニ於テ規則第十八條各號以内ノ火藥類ヲ消費スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 火藥類讓受許可申請書ニハ細則第十四條第一項所定事項ノ外火藥類貯藏方法及使用期間ヲ具スヘシ

第十條 規則第十六條第一項ニ依リ火藥類消費許可申請書ニハ同條第二項所定事項ノ外火藥類消費ノ時、場所、貯藏方法及使用期間ヲ具スヘシ

第十一條 規則第三十八條ニ依リ火藥類使用許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 申請者ノ住所、氏名、生年月日、職業

二 火藥類ノ種類、數量

三 使用期間及消費ノ時

四 使用ノ事由

五 使用場所

六 火藥類使用方法及貯藏方法

前項ノ許可申請書ニハ使用場所ノ周圍百メートル以内ノ人家、工作物、道路其ノ他ノ地物ヲ表示シタル圖面ヲ添附スヘシ

一 申請者ノ住所、氏名、職業

二 火藥類ノ種類、數量

三 貯藏ノ事由及期間

四 貯藏場所(自己ノ所有ニ屬セザルトキハ其ノ所有者又ハ使用權者ノ承諾書ヲ添附スルコト)

五 火氣及盜難豫防ノ設備狀況

第十九條 火藥類貯藏所ニハ貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ記シタル標札ヲ掲グヘシ

第二十條 規則第三十九條ニ依リ拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ授受、運搬又ハ携帶許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スヘシ

一 申請者ノ住所、氏名、生年月日、職業

二 銃器ノ種類(口徑、製造番號、製造所名)數量

三 授受(又ハ運搬携帶)ノ事由

四 運搬、携帶ノ期間

第二十一條 拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ運搬又ハ携帶スル者ハ其ノ許可證ヲ携帶スヘシ

第二十二條 軍用銃砲又ハ拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ヲ所有スル者住所、氏名、職業ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第三章 煙火

第二十二條ノ二 左ノ爆藥ヲ使用シテ煙火ヲ製造スルコトヲ得ス

一 鹽素酸加里ト硝酸石トヲ配合セルモノ

二 鹽素酸加里、硝酸石、アルミニウムトヲ配合セルモノ

三 鹽素酸加里ト硫酸トヲ配合セルモノ

- 三 日計及月計ヲ明ニスルコト但シ數量僅少ナルトキハ日計ヲ省略スルコトヲ得
- 四 必要事項欄ニハ讓受クヘキ者ノ資格例ハ免許商、何官廳許可等必要ト認ムル事項ヲ記スルコト

第一號樣式ノ二

銃砲修繕改造臺帳

年	月	日	註文		種類	數量	修繕 改造 區別	讓受 事由	必要 事項	讓渡 年月日	數量		註文 人又ハ 讓受人 氏名	
			原	銃							還付高	現在高		

記載例

- 一 各種類毎ニ口座ヲ設クルコト改造ニアリテハ改造後ノ名稱ニ付記載スルコト
- 二 日計及月計ヲ明ニスルコト但シ數量僅少ナルトキハ日計ヲ省略スルコトヲ得
- 三 必要事項欄ニハ讓受クヘキ者ノ資格其ノ他ヲ記入スルコト

第一號樣式ノ三

火藥類變形修理臺帳

第一號樣式ノ二ニ準ス

第一號樣式ノ四

銃砲(火藥類)讓受渡臺帳

〔靜岡令〕

〔靜岡令〕

年	月	日	讓受 高	讓渡 高	現在 高	讓受 事由	必要 事項	住 所	讓 受 渡 人 名

記載例

- 一 銃砲(仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ヲ含ム)ト火藥類トハ別冊ニ整理スルコト
- 二 各種類毎ニ口座別トナシ日計及月計ヲ明ニスルコト
- 三 必要事項欄ニハ讓渡シタル者及讓受クヘキ者ノ資格例ハ免許營業者、何官廳第何號許可、鑛業權登錄番號、狩獵免狀番號其ノ他必要ト認ムル事項ヲ記入スルコト

第二號樣式

何月中銃砲(戎器)製造取引並月末現在高届

種 類	前 月 ヨ リ 越 高	註文 受 取 高	銃砲 製造 區別 數量	計	讓 渡 高	還 付 高	月 末 現 在 高

右及御届候也

住 所

銃砲製造業 氏

名印

第三條 銃砲販賣營業ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、經歷、資力程度、前科ノ有無
二 申請書ハ細則第一條第二項所定事項ヲ具備スルヤ否

第四條 火藥類販賣營業ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、經歷、資力程度、前科ノ有無
二 申請書ハ細則第二條第二項所定事項ヲ具備スルヤ否

第五條 細則第三條第二項ニ依リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業承繼届出ヲ受理シタルトキハ相續人ノ性行、經歷、資力程度、前科ノ有無ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第六條 火藥類取扱免狀又ハ丙種火藥類作業主任者免狀ノ交付申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、經歷、前科ノ有無
二 申請書ハ手續第五條所定事項ヲ具備スルヤ否

第七條 手續第六條ニ依ル火藥類取扱免狀若ハ丙種火藥類作業主任者免狀ノ再交付又ハ書替ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ進達スヘシ

第八條 規則第十六條ニ依ル火藥類讓渡又ハ讓受ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ細則第十四條第一項及手續第九條所定事項ヲ具備スルヤ否

三 消費地ニ付支障ノ有無
四 火藥類貯藏方法ノ適否

〔辭同令〕

第九條 規則第十七條ニ依リ火藥類讓渡又ハ讓受ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ前條各號ノ外細則第十五條ノ用途ニ該當スルモノナルヤヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ一年以内ノ期間ニ於テ之ヲ許可スヘシ

第十條 規則第十八條ニ依リ軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ二月以内ノ期間ニ於テ之ヲ許可スヘシ

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ細則第十四條第一項所定事項ヲ具備スルヤ否

第十一條 規則第三十八條ニ依リ火藥又ハ爆藥ノ使用許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ許可スヘシ

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ手續第十一條所定事項ヲ具備スルヤ否

第十二條 規則第三十二條第一項ニ依リ火藥類貯藏所ニ關スル許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ細則第三十一條所定事項及手續第十七條ノ圖面ヲ具備スルヤ否

三 規則第三十三條ノ距離、細則第二十八條各號ノ區別及細則第三十二條、第三十三條ノ制限ニ適合スルヤ否(假貯藏所ニ在リテハ明治四十四年六月一日付保第五〇〇四號通牒火藥類假貯藏所設備標準ニ依ルコト)

四 火藥類貯藏所設置ニ關スル其ノ地方ノ意嚮
第十三條 規則第二十七條第二號ニ依ル火藥類貯藏ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ許可スヘシ

〔辭同令〕

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ手續第十八條所定事項ヲ具備スルヤ否

三 火氣及盜難豫防設備ノ適否
第十四條 細則第三十條ニ依リ火藥類消費者ニ付消費地警察署ニ於テ指示スヘキ火藥類ノ收支ハ第一號様式ノ帳簿ニ依リ之ヲ明ニセシムヘシ

第十五條 規則第三十六條ニ依リ火藥類運搬ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ細則第三十八條所定事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ許可スヘシ

前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ細則第三十九條ニ依リ火藥類運搬制限事項ヲ調査シ且通過地他警察署ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ旨關係警察署ニ通報スヘシ其ノ通知ヲ受ケタル警察署ハ通過又ハ到着ニ際シ取締ヲ爲スヘシ

第十六條 細則第三十九條ノ三ニ依リ火藥類運搬ノ用ニ供スル自動車ハ左ノ制限ニ依ラシムヘシ

一 原動機ノ取付ナキ貨車ヲ牽引自動車ヲ以テ牽引スル裝置ナルコト
二 「ガソリン」等可燃性ノモノノ發火ノ際牽引自動車ト貨車ト容易ニ分離シ得ヘキモノナルコト

三 車轍ハ護謨製空氣入「タイヤ」ナルコト
前項ノ火藥類運搬用自動車ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ構造設備ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

第十七條 規則第三十九條ニ依ル拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ授受運搬又ハ携帯ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ必要ト認ムルトキハ許可スヘシ

一 申請者ノ性行、職業、前科ノ有無
二 申請書ハ手續第二十條所定事項ヲ具備スルヤ否

第十三編 警察 第二章 保安

第十八條 細則第十九條ニ依リ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ細則第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタル届出ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ其ノ旨警察部長及各警察署ニ通報スヘシ之ヲ發見シタルトキ亦同シ

第十九條 細則第八條第二項、第九條、第十八條ニ依リ許可證、認可證、讓受證書又ハ委任狀ヲ受理シタルトキハ之ヲ調査シ其ノ事由ヲ臺帳ニ記載シ截斷スヘシ但シ他官廳ノ交付ニ係ルモノハ當該官廳ニ送付スヘシ

第二十條 手續第二十五條ニ依ル煙火貯藏所新設許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一 申請者ノ性行、前科ノ有無
二 申請書ハ手續第二十五條所定事項ヲ具備スルヤ否

三 手續第二十六條、第二十七條ノ制限ニ適合スルヤ否
四 煙火貯藏所設置ニ關スル其ノ地方ノ意嚮

第二十一條 手續第二十九條ニ依ル煙火打揚許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ許可スヘシ

一 申請書ハ手續第二十九條所定事項ヲ具備スルヤ否
二 打揚場所ハ手續第三十條ノ距離ヲ保有スルヤ否

第二十二條 銃砲火藥類ニ關シ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲若ハ危害豫防其ノ他取締上行政處分ノ必要アリト認ムル場合ハ其ノ事由ヲ具シ報告スヘシ

第二十三條 銃砲、火藥類製造所、火藥類貯藏所、銃砲、火藥類販賣所及規則第十八條以外ノ火藥類消費所ハ毎月一回以上受持警察官吏又ハ監督警察官吏ヲシテ臨檢セシメ左ノ事項ヲ調査シ銃砲火藥類取締法令ノ違反若ハ危害防止ニ努ムヘシ

一 銃砲火藥類製造所ニ臨檢シタルトキ

考 備	製 作 品 ノ 種 類			貯 藏 所 ノ 位 置	所 用 火 藥 類 ノ 調 達 及 貯 藏 方 法	一 定 ノ 期 間 ニ 製 作 ス ヘ キ 豫 定 數 量	作 業 所 ノ 同 時 火 藥 類 ノ 最 大 員 數	火 藥 類	原 料	半 成 品	作 業 所 ノ 種 類	作 業 所 ノ 位 置	作 業 所 ノ 主 任 者 氏 名	販 賣 所 之 位 置	最 大 員 數 其 他 職 工 數	職 工 勞 務 者
	製 作 所	種 類	種 類													
(銃砲火藥類製造業者別ニ口座ヲ設ケヘシ)																

第三號様式

銃砲、火藥類販賣業者臺帳

出 願 年 月 日	許 可 番 號	許 可 指 令 番 號	販 賣 所 ノ 位 置	火 藥 類 取 扱 人	種 取 扱 免 狀 縣 下 付 第 號	種 營 業 種	
						業 氏	種 所 住

〔靜岡令〕

考 備	貯 藏 所 之 位 置		火 藥 類 貯 藏 所 臺 帳
	火 藥 庫	倉 庫	
一、銃砲ト火藥類トハ口座別トナスヘシ 二、各索引ヲ附スヘシ			

〔靜岡令〕

第四號様式

火藥類貯藏所臺帳

所 藏 貯	檢 査 工 年 月 日	竣 工 年 月 日	許 可 指 令 番 號	許 可 第 號	申 請 年 月 日	火 藥 類 貯 藏 ノ 目 的	貯 藏 火 藥 類 之 種 別				貯 藏 所 之 位 置	貯 藏 所 之 種 類	貯 藏 所 之 容 積	貯 藏 所 之 高 度
							第一	第二	第三	第四				

備考
一、貯藏所ノ種別毎ニ口座別トナスヘシ
二、各索引ヲ附スヘシ

第五號様式

煙火貯藏所臺帳

第四號様式火藥類貯藏所臺帳ニ準ス

第六號様式

火藥類取業者授受免狀交付臺帳

考 備	資 格	種 類 番 號	種 第 號	交 付		申 請		考 備			
				年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日	生 年 月 日	住 所 名	本 籍	

第七號様式

火藥類取扱人、保員、勞務者臺帳

雇 入 年 月 日	解 雇 年 月 日	摘 要	住 所	雇 主	住 所 職 業	氏 名	年 月 日 生

〔靜岡令〕

〔靜岡令〕

- 一、火藥類取扱人、火藥類保員、勞務者ハ各口座別トナスヘシ
- 二、火藥類取扱人ニ關シテハ免狀ノ種類免狀交付年月日ヲ摘要欄ニ記入スヘシ

第八號様式

軍用銃砲臺帳

許 可 年 月 日	許 可 番 號	種 類	數 量	讓 渡 (所有者) 住 所 名	讓 受 ノ 事 由	必 要 事 項	申 請 者 (届 出 人) 氏 名 年 齡

第九號様式

拳銃(短銃、仕込銃)仕込刀劍(其他變裝シタル武器)授受(運搬携帯)臺帳

第九號様式ノ二

許 可 年 月 日	許 可 番 號	種 類	數 量	許 可 期 間	運 搬 先 (携 帶) 區 域	運 搬 (携 帶) ノ 事 由	必 要 事 項	運 搬 者 (携 帶 者) 氏 名 年 齡

第十號様式

火藥類讓渡(受)許可(認可)決裁簿

丙種火藥類作業主任者資格試驗出願者名簿

備考	記載例	合格			試驗成績			受驗			出願		
		年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日
合格ハ合格ト墨書、不合格ハ不合格ト朱書シ區別ス	合格ハ合格ト墨書、不合格ハ不合格ト朱書シ區別ス	年	月	日	年	月	日	年	月	日	年	月	日
		者	氏名	住所	本籍	出生年月日	出生年月日	出生年月日	出生年月日	出生年月日	出生年月日	出生年月日	出生年月日

短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件取扱心得

昭和三年八月十四日 警察部 警察署 静岡縣訓令甲第十九號

- 短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件取扱心得左ノ通定ム
- 短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件取扱心得
- 第一條 本令ニ所謂短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器ノ解釋ハ左ノ標準ニ從フヘシ
- 一 短刀トハ太刀ノ型式ニ於テ刃渡九寸五分内外ニ製作セラレタルモノニシテ鈔アルモノヲ謂フ
 - 二 匕首トハ鈔ナキモノヲ謂フ
 - 三 之ニ類似スル戎器トハ刃渡三寸五分以上ヲ有スル片刃又ハ雙刃ノ刃物ヲ謂フ
- 第二條 正當ノ事由トハ左ノ各號ニ該當スル場合ヲ謂フ
- 一 護身用ノ爲メ携帯ヲ必要ナリト認ムルトキ
 - 二 賣買轉居等ノ爲メ携帯ヲ必要ナリト認ムルトキ
 - 三 前各號ノ外携帯ノ已ムヲ得サル事情アリト認ムルトキ

短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件

昭和三年八月十四日 静岡縣令第四十八號

短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件左ノ通定ム

短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器携帯禁止ニ關スル件

銃砲火藥類取締法第十二條及銃砲火藥類取締法施行規則第四十八條ニ依リ短刀匕首其ノ他之ニ類似スル戎器ハ職務又ハ營業ノ爲ニスル場合ノ外正當ノ事由ナクシテ之ヲ携帯スルコトヲ禁ス

〔静岡令〕

〔静岡令四八號〕

第三節 市街地建築物 木造建物 屋上制限

市街地建築物法施行細則

昭和十年三月二十三日 静岡縣令第九號

改正 昭和十四年七月縣令第二八號 市街地建築物法施行細則左ノ通改正ス

市街地建築物法施行細則

第一章 通則

- 第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ市街地建築物法、令ト稱スルハ市街地建築物法施行令、規則ト稱スルハ市街地建築物法施行規則ヲ謂フ
- 第二條 法、令、規則又ハ本令ニ依リ知事ニ提出スベキ申請書又ハ届書ハ所轄警察署ヲ經由スベシ
- 第三條 建築主、法適用區域外ニ居住スル場合ニ於テハ適當ナル建築工事管理者ヲ定ムベシ
- 第四條 法、令、規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、主たる事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載シ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス
- 第二章 建築線
- 第五條 幅員一、八メートル以上四メートル未満ノ道路ニ在リテハ其ノ中心線ヨリ兩側各二メートルノ距離ニ在ル線ヲ以テ建築線トス但シ令第三十條第一項第一號第二號ノ道路ハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 罹災地區、住宅經營地區其ノ他ノ地區ニ於テ道路ノ開設、擴張若ハ整理ヲ必要ト認ムルトキハ建築線ヲ指定スルコトアルベシ

- 前項ノ建築線ヲ指定スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ土地所有者若ハ建築物所有者ニ對シ關係書類又ハ圖面ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- 第七條 建築線ヲ指定、變更又ハ廢止シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第八條 指定シタル建築線ノ位置ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ標示ス但シ側溝、縁石其ノ他ニ依リ其ノ位置明カナルモノ又ハ土地ノ狀況ニ依リ標示シ難キモノハ此ノ限ニ在ラズ
- 1、建築線ノ兩端其ノ他適當ノ箇所ニ石又ハ「コンクリート」ヲ以テ製作セル小口凡ソ六センチメートル角、長凡ソ五センチメートルノ標杭ヲ設置ス
 - 2、前號ノ標杭ハ地盤面上約五センチメートルヲ現ス但シ已ムヲ得ザル場合ハ地盤面迄埋設スルモノトス
- 第九條 申請ニ基キ指定シタル建築線ノ位置ニハ申請者ニ於テ指定ノ日ヨリ二十日以内ニ前條ノ標杭ヲ設置スベシ
- 第十條 建築線ノ位置ヲ標示シタル標識ハ蓋ニ之ヲ移動セシムルコトヲ得ズ

第三章 建築物ノ敷地、高及空地

- 第十一條 建築物ノ敷地ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ規則第四條第一項ノ適用ニ關シ之ヲ建築物ノ敷地ノ一部ト看做サズ但シ河川、水路、溝渠等ニ架設シタル橋梁ニシテ其ノ幅員二メートル以上アルトキハ之ヲ敷地ノ一部ト看做ス
- 1、幅員二メートル未満ノ路地狀部分
 - 2、幅員三メートル未満ノ路地狀ニシテ延長二十メートルヲ超ユル部分
- 第十二條 長屋ハ其ノ各戸ノ主要出入口ヲ道路敷地ニ面セシムベシ但シ桁行二十メートル以下ニシテ各戸主要出入口ノ前面ニ幅員二メートル以上

ノ路地状空地ヲ存スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 集會場、公會堂、市場、小賣市場、百貨店及之ニ類スル建築物ノ壁面ハ其ノ主要出入口ノ面スル建築線ヨリ二メートル以上ノ距離ヲ後退シテ建築スベシ但シ建築物ノ規模小ニシテ支障ナシト認ムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ適用ニ關シテハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第十四條 令第十條各號所定ノ敷地ニ於ケル建築物ノ高ハ左ノ規定ニ依ル

- 1、公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキハ令第七條ノ適用ニ關シハメートルヲ十六メートルトス
 - 2、前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキハ其ノ幅員ノ二分ノ一ヲ道路幅員ニ加ヘタルモノニ相當スル幅員ヲ有スル道路ニ接スルモノト看做ス但シ前面道路幅員ノ二倍ヲ以テ限度トス
 - 3、其ノ地盤前面道路面ヨリ高キコト一メートルヲ超ユルトキハ其ノ高ヨリ一メートルヲ減ジタルモノノ二分ノ一ヲ道路面ヨリ測リタル高ヲ道路面ト看做ス
 - 4、道路ノ終端ニ位スルトキハ其ノ道路幅員ニ相當スル幅員ヲ有スル道路ニ接スルモノト看做ス
- 土地ノ狀況其ノ他特別ノ事由アルトキハ前項各號ノ規定ニ拘ラズ制限シ又ハ斟酌スルコトアルベシ
- 第十五條 建築物ノ敷地ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ令第十四條但書ノ規定ニ依ル角地其ノ他ノ區域トス
- 1、幅員六メートル以上ノ道路二以上ニ接シ且敷地ノ周邊三分ノ一以上其ノ道路ニ接スルモノ

〔警岡令四四號〕

2、公園、廣場、河、海ノ類ニ接シ又ハ之ニ面シ前號ニ準ズト認メラルルモノ

第四章 構造設備

第十六條 建築物ノ敷地ノ主要出入口ニ階段又ハ傾斜路ヲ設クルトキハ其ノ幅員ハ一、五メートル以上ト爲スベシ

第十七條 多人數ノ使用ニ供スル階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ

第十八條 多人數ノ使用ニ供スル階段ノ數ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定メ適當ニ配置スベシ但シ室ノ配置、階段ノ幅員等ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ノ高ハ之ニ接スル地盤面上十五メートル以上其ノ口徑ハ二十五センチメートル以上ト爲スベシ但シ燃料ノ種類、量又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ増加ヲ命ジ又ハ低減ヲ許可スルコトアルベシ

第二十條 強度計算ニ於ケル水平震度ハ煙突、物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類ニシテ高十五メートルヲ超過スルトキハ〇、一五以上ト爲スベシ

第二十一條 強度計算ニ適用スル鉛直面ノ風壓力ハ左ノ値ヲ採ルベシ但シ

第二十二條 強度計算ニ適用スル鉛直面ノ風壓力ハ左ノ値ヲ採ルベシ但シ

第二十三條 規則第四百四十三條第一項第五號ノ規定ニ依リ左ニ掲グル建築物ヲ指定ス

第二十四條 前條第二項ノ規定ニ依ル設計書ハ左ノ事項ヲ具備スベシ但シ建築物ノ規模輕易ナルモノニ在リテハ第一號及第二號ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ認ムルコトアルベシ

第二十五條 第二十三條ノ圖面ハ左ノ各號ヲ具備スベシ

第二十六條 敷地内建築物ノ配置及相互間ノ距離、棟別用途、關係道路、敷地境界線、建築線及敷地境界線ト建築物トノ距離、井戸、排水路、門、塙堀ノ類ヲ設クルトキハ其ノ種類及位置、移轉ニ依リテハ新舊位置等ヲ表シ空地制限アル區域ニ於テハ敷地測量ヲ併記スルコト

第二十七條 各階平面圖(各室ノ用途、窓出入口、床面積、採光及換氣面積等ヲ明示スルコト但シ簡易ナルモノニ在リテハ配置圖上ニ併記スルコト)

建築物ノ形狀、方向又ハ周圍ノ狀況ニ依リ増加ヲ命ジ又ハ輕減ヲ許可スルコトアルベシ

1	十五メートル以下ノ部分	風壓力(一平方メートルニ付)	一〇〇以上
2	十五メートルヲ超過スル部分	風壓力(一平方メートルニ付)	一五〇以上
3	十五メートルヲ超過スル煙突、物見塔、廣告塔、無線電信用電柱ノ類	風壓力(一平方メートルニ付)	一五〇以上

第五章 手續及工事取締

第二十二條 規則第四百四十三條第一項第五號ノ規定ニ依リ左ニ掲グル建築物ヲ指定ス

1、震災、火災、水災等ノ罹災地ニシテ知事ノ指定シタル區域内ニ於テ罹災後三箇月以内ニ建築ニ著手スルモノ

2、都市計畫トシテ決定シタル土地區劃整理區域内ノ建築物ニシテ知事ノ指定シタル期間内ニ建築スルモノ

第二十三條 規則第四百四十三條第一項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルモノハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ圖面ヲ添附シタル申請書ヲ提出スベシ

- 1、敷地ノ地名番號
- 2、建築主ノ住所氏名及代理人アルトキハ其ノ住所氏名
- 3、申請ノ要旨
- 4、建築物ノ主要用途及棟別用途
- 5、敷地所有者ノ住所氏名
- 6、工事管理者、設計者及工事請負者ノ住所氏名
- 7、起工及竣功豫定期日
- 8、地域地區別

第二十三條第二項ノ建築物ニ在リテハ前項ノ外左ノ各號ヲ具備スヘシ但シ階數二(屋階ヲ有セサルモノ)以下ニシテ且床面積三百平方メートル以下ノ木造建築物ニ在リテハ之ヲ省略スルコトヲ得

- 1、主要断面圖(高軒高、階高、床高、天井高其ノ他ノ寸法、基礎、關係道路及建築線等ヲ明示スルコト)縮尺二十分の一乃至二分の一
2、立面圖(二面以上)縮尺五十分の一乃至二分の一
3、軸組圖(二面以上)縮尺五十分の一乃至二分の一
4、基礎、各階床組及小屋組圖(材質、間隔及寸法ヲ明示スルコト)縮尺五十分の一乃至二分の一
5、構造上緊要ナル部分ノ詳細圖縮尺二十分の一乃至五十分の一

第二十六條 削除

第二十七條 規則第四百三十三條第二項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ第二十三條乃至第二十五條ノ規定ヲ準用ス但シ必要ナシト認メラルル事項及圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ヲ建築セントスルトキハ規則第四百三十三條第一項ノ規定ニ依リ認可申請ヲ省略シ届出ヲ爲スベシ

- 1、規則第四百三十三條第一項第三號ニ該當スルモノノ内高五メートル以下ニシテ建築面積五十平方メートル以下ノモノ
2、温室及之ニ類スルモノ
3、高十メートルヲ超過セザル煙突、物見塔及廣告塔ノ類
第二十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ヲ建築セントスルトキハ前條及規則第四百三十四條ノ規定ニ依リ届出ハ之ヲ省略スルコトヲ得
1、高五メートル以下ニシテ建築面積十六平方メートル以下ノモノ

〔警岡令四四號〕

2、高四メートル以下ノ門、塙壁ノ類
3、工所用足代、棧橋、下小屋ノ類ニシテ假設的ノモノ

第三十條 規則第四百三十四條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲サントスルトキハ第二十三條及第二十五條ノ規定ニ準ジ届書ヲ提出スベシ

第三十一條 法、令、規則又ハ本令ニ依リ許可、認可又ハ承認ヲ受クベキモノハ前條第一項ノ規定ニ準ジ必要ナル事項ヲ具シ申請書ヲ提出スベシ規則第四百三十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受クベキ建築物ニシテ前項ノ許可、認可又ハ承認ヲ受クベキモノハ申請ニ際シ其ノ事項及事由ヲ具シ前項ノ申請ニ代ルコトヲ得

第三十二條 法適用區域ノ設定若ハ變更、地域地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セザルモ設計アル建築物ヲ建築セントスルトキハ其ノ設定、指定若ハ變更アリタル日ヨリ三十日以内ニ第三十條ノ規定ニ準ジ申請書ヲ提出スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ
1、本項ノ設定、指定又ハ變更アリタル日ヨリ三十日以内ニ竣功スベキ建築工事中ノモノ
2、本令ニ依リ申請若ハ届出ヲ爲シタルモノ
3、法、令、規則又ハ本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ要セザルモノ

第三十三條 規則第四百三十三條ノ認可ヲ受ケタル建築物ノ工事は左ノ各號ノ一ノ工程ニ達シタルトキハ其ノ旨届出ズベシ
1、鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」工事は附帶スル基礎ノ配筋ニ著手シタルトキ
2、鐵骨工事はシテ鐵骨建方ニ著手シタルトキ

〔警岡令四四號〕

5、指定後ノ道路開設ノ時期及方法
第三十九條 前條ノ圖面ハ縮尺六百分の一トシ左ノ各號ノ事項ヲ記載スベシ

- 1、關係土地ノ境界線並地名番號
2、指定ヲ受ケントスル建築線ノ位置、延長及建築線間ノ距離
3、指定ヲ受ケントスル建築線ニ接続スベキ道路ノ位置及其ノ幅員
4、關係土地及附近ニ於ケル既存建築物及豫定建築物ノ敷地境界線並其ノ配置
5、建築線ヲ標示スベキ標識ノ位置
6、方位

第四十條 建築線ノ變更又ハ廢止ヲ申請セントスル者ハ其ノ事由ヲ附シ前二條ニ準ジ申請スベシ

第四十一條 建築工事中ハ建築場ニ建築主ノ氏名及認可、許可又ハ届出濟年月日及其ノ番號ヲ記載シタル標札ヲ掲ゲ且申請書又ハ届書ノ副本ヲ備ヘ置キ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第四十二條 建築物ヲ建築セントスルトキハ起工ニ當リ標杭ノ類ヲ以テ建築線ノ位置ヲ標示スベシ但シ側溝其ノ他ニ依リ其ノ位置明カナルモノ又ハ土地ノ狀況ニ依リ標示シ難キモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 本令ニ依リ認可若ハ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ認可若ハ許可ヲ取消シ又ハ届出ノ效力ヲ失ハシムルコトアルベシ
1、申請書又ハ届書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シタルトキ

3、鐵筋「コンクリート」工事はシテ各階床及屋根ノ配筋ニ著手シタルトキ
4、階數三以上ノ木造ニシテ建方終了シタルトキ
5、其ノ他特ニ指定シタルトキ

第三十四條 本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲シタル建築物ノ工事はシテ竣功シタルトキハ届出ズベシ

第三十五條 本令ニ依リ認可又ハ許可ヲ申請シタル建築物ノ工事はシテ建築物使用認可證交付前又ハ工事竣功前第二十三條第一項第三號第四號第八號乃至第十二號第二十四條各號及第二十五號各號ノ事項又ハ圖面ニ變更ヲ生ジタルトキハ關係書類及圖面ヲ添附シ變更申請書ヲ提出スベシ但シ變更ノ程度輕微ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

申請書及之ニ添附セル書類又ハ圖面ニシテ前項ニ該當セザル事項ニ變更アリタルトキハ五日以内ニ届出ズベシ

第三十六條 本令ニ依リ届出ヲ爲シタル建築物ノ工事はシテ工事竣功前其ノ届書又ハ圖面ニ變更アリタルトキハ五日以内ニ届出ズベシ

第三十七條 前二條ノ規定ニ依リ申請書又ハ届書ニハ其ノ工事ノ申請又ハ届出年月日、認可、許可又ハ届出濟年月日及其ノ番號ヲ附記スベシ

第三十七條ノ二 申請又ハ届出ヲ爲シタル建築物ノ工事は廢止シタルトキハ速ニ廢止届ヲ提出スヘシ
第三十八條 建築線ノ指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ圖面ヲ添附シタル申請書三通ヲ提出スベシ
1、申請者ノ住所氏名
2、關係土地ノ地名番號並其ノ所有者及使用權者ノ住所氏名
3、關係土地所有者及使用權者ノ承諾書但シ承諾ナキモノハ其ノ理由
4、指定ヲ受ケントスル建築線ノ延長及建築線間ノ距離

2、起工期日ヲ經過スルコト三箇月ニシテ工事ニ著手セザルトキ

3、竣工期日ヲ經過スルコト六箇月ニシテ竣功セザルトキ

第四十四條 建築工事中ノ建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

1、法、令、規則、本令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ工事ヲ爲シタルトキ

2、保安上危険ト認ムルトキ

3、衛生上有害ト認ムルトキ

第四十五條 第二十三條ノ規定ニ依ル申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築認可證トシテ申請書ノ副本ニ別記第一號様式ニ依ル認可證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第四十六條 第三十條ノ規定ニ依ル届出ニシテ支障ナシト認ムルトキハ届書ノ副本ニ別記第二號様式ニ依ル建築届調査證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第四十七條 第三十一條第一項又ハ第三十二條第一項ノ規定ニ依ル申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築許可、認可、承認證トシテ申請書ノ副本ニ別記第三號様式ニ依ル建築許可、認可、承認證印ヲ押捺シ建築主ニ交付ス

第四十八條 施行規則第四百十七條ノ規定ニ依リ交付スル建築物使用認可證ハ別記第四號様式ニ依ル

第四十九條 規則第四百十八條ノ規定ニ依ル證票ハ別記第五號様式ニ依ル

第五十條 削除

第五十一條 第十六條乃至第二十一條ノ規定ハ規則ノ全部ヲ適用スル建築物ニ限リ之ヲ適用ス

附則

第五十二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 昭和七年三月靜岡縣令第十五號「市街地建築物法施行規則第四百三十三條第一項第五號ノ建築物」ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和十四年縣令第二十八號)

本令ハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ基キ建築手續ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ建築手續ヲ爲シタルモノト看做ス

本令施行前建築認可證ノ交付ヲ受ケタル建築工事ハ施行規則第四百十五條第二項ノ規定ニ依ル指定ヲ受ケタルモノト看做ス

様式第一號

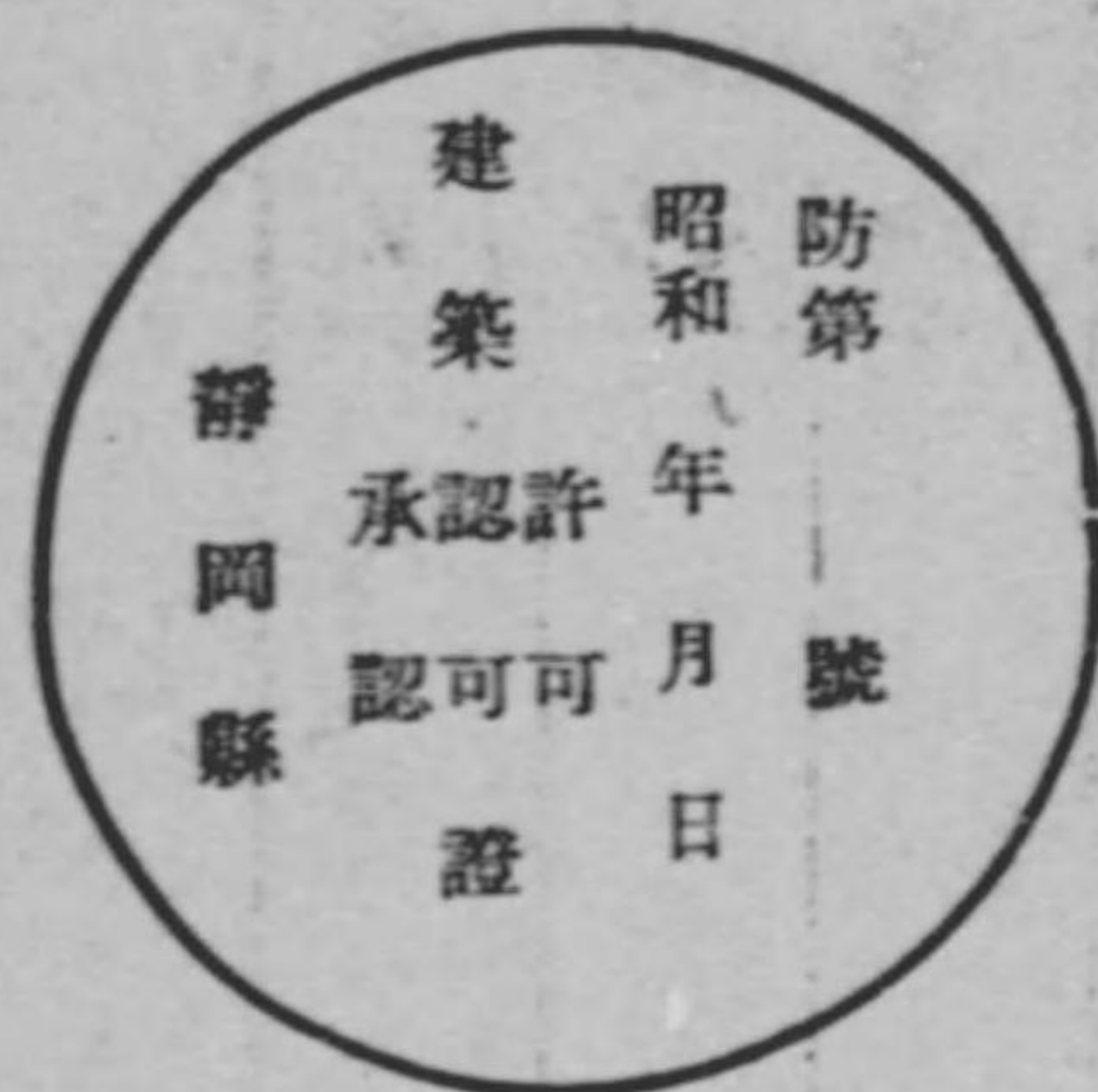


〔靜岡令四四號〕

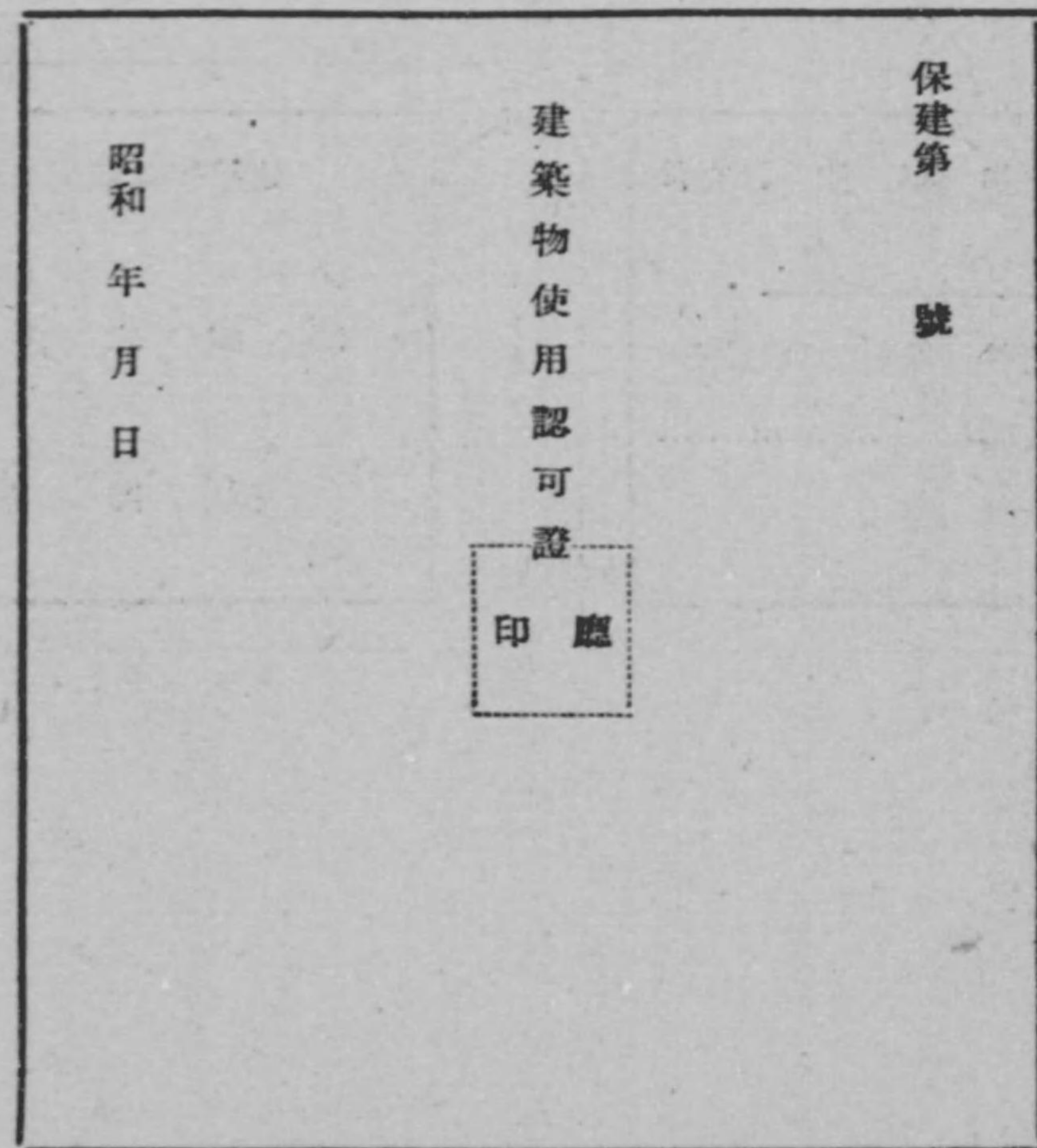
様式第二號



様式第三號



様式第四號



〔靜岡令四四號〕

裏

昭和 年 月	建築主	所建 在築 地物	ノ建 用築 途物
	日建築認可		

摘要

様式第五號

〔靜岡令〕

表

建築物及建築工事

臨檢之證

靜岡縣

五センチメートル

八センチメートル

裏

第 號 昭和 年 月 日交付

官職 氏 名

市街地建築物法施行規則抜萃

第四百十八條

市街地建築物法取扱心得

昭和十四年八月二十三日
靜岡縣訓令乙第二四五號

警察部 警察署

昭和十年三月靜岡縣訓令乙第九〇號市街地建築物法執行心得左ノ通改正ス

市街地建築物法取扱心得

- 第一條 本令ニ於テ法令ト稱スルハ市街地建築物法令、法令ト稱スルハ市街地建築物法、令ト稱スルハ市街地建築物法施行令、規則ト稱スルハ市街地建築物法施行規則、細則ト稱スルハ市街地建築物法施行細則ヲ謂フ
- 第二條 警察署長ハ法令ニ依リ提出シタル申請書又ハ届書ニシテ所定ノ事項ヲ具備セルモノハ速ニ之ヲ受理スヘシ
- 第三條 警察署長ハ左ノ事務ヲ處理スヘシ
- 一 規則第四百四十四條ノ規定ニ依ル届ニ關スル事項
 - 二 規則第二十八條ニ依ル届ニ關スル事項
- 前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ敷地其ノ他必要ナル審査ヲ爲シ支障ナキトキハ副本ニ建築届調査済證印ヲ捺捺シ速ニ届出人ニ交付スベシ
- 前項建築物ノ竣工届出アリタルトキハ竣工検査ヲ爲シ支障ナシト認ムルトキハ竣工届ニ正本ヲ添ヘ進達スヘシ
- 第四條 警察署長ハ許可又ハ認可申請書ヲ受理シタルトキハ速ニ敷地其ノ他必要ナル審査ヲ爲シ別記第四號様式ニ依ル復命書ニ所要事項ヲ記入シ正本及副本ヲ添ヘ進達スヘシ
- 前項建築物ノ竣工届出アリタルトキハ竣工検査ヲ爲シ支障ナキトキハ復命書ニ検査狀況ヲ記入シ竣工届ト共ニ進達スヘシ
- 第五條 警察署長ハ建築線指定、變更、若ハ廢止ノ申請書ヲ受理シタルト

第十三編 警察 第二章 保安

〔靜岡令四五號〕

- キハ速ニ實地調査ヲ爲シ別記第三號様式ニ依ル復命書ニ所要事項ヲ記入シ進達スヘシ
- 建築線ヲ指定、變更、若ハ廢止シタルトキハ規則第七條ニ依ル告示ノ他別記第十號様式ノ章印ヲ捺捺シタル副本ヲ申請人ニ交付ス
- 第六條 警察署長ハ左ノ事項ニ付市町村長ノ意見ヲ徴シ處理スヘシ
- 一 令第二十九條ノ二假設許可申請
 - 二 建築線指定、變更、廢止申請
- 第七條 警察署長ハ法令ノ適用又ハ建築物ノ構造、強度、設備等ニ關シ疑義アルトキハ稟何ノ上處理スヘシ
- 第八條 規則第三十三條ノ規定ニ依ル工程届ハ電話又ハ口頭ヲ以テ爲サシムルコトヲ得
- 第九條 警察署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ機ヲ失セス報告スヘシ
- 一 官廳ノ建築物又ハ建築工事ニシテ法令ノ主旨ニ違反シ、建築取締上一般ニ惡影響ヲ及ボスノ虞アリト認メタルトキ
 - 二 災害ニ依リ建築物ノ被害著シキトキ
 - 三 法令又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ違反シ必要ナル措置ヲ命スルノ要アルトキ
- 第十條 警察部並警察署ハ左記臺帳ヲ備ヘ隨時之ヲ整理スヘシ
- 一 令第二十九條ノ二假設建築物臺帳
 - 二 建築線臺帳
 - 三 令第三條ノ二建築物臺帳
- 第十一條 申請及届書式並ニ章印ヲ左ノ通り定ム

- 一 建築線指定、變更、廢止申請書 別記第一號様式
- 二 建築許可、認可申請及届書 別記第二號様式
- 三 建築線ニ關スル復命書 別記第三號様式
- 四 建築許可、認可ニ關スル復命書 別記第四號様式
- 五 設計書 別記第五號様式
- 六 竣工届 別記第六號様式
- 七 建築線指定告示 別記第七號様式
- 八 建築線變更告示 別記第八號様式
- 九 建築線廢止告示 別記第九號様式
- 十 建築線指定、廢止、變更印章 別記第十號様式
- 第十二條 令第一條乃至第三條ノ二取扱標準ハ左ノ通りトス
 - 一 令第一條乃至第三條ノ二「原動機」ニハ工場ノ作業ニ相接觸係ナキ給水、排水、換氣、昇降機ノ運轉等ニ専用スル原動機ハ之ヲ包含セザルモノトス
 - 二 住居地域ニ建築セントスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備、事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ令第一條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ
 - イ 震動又ハ騒音ノ發生輕微ナルコト
 - ロ 瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害ノ虞ナキコト
 - ハ 煤煙ノ排出僅少ナルコト
 - ニ 火災、爆發等ノ危害發生ノ虞ナキコト
 - ホ 其ノ他公害發生ノ虞ナキコト
 - 三 商業地域ニ建築セントスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造、設備事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ令第一條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ

〔靜岡令四七號〕

- 認ムルモノニ付テハ令第二條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ
 - イ 著シク震動又ハ騒音ヲ發生セサルコト
 - ロ 瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害僅少ナルコト
 - ハ 多量ノ煤煙ヲ排出セサルコト
 - ニ 火災、爆發等ノ危害發生ノ虞ナキコト
 - ホ 其ノ他公害發生ノ虞ナキコト
- 四 既存ノ工場ニシテ除害施設ニ必要ナル原動機馬力數ノ増加ヲ爲サントスルニ當リ常時使用原動機ノ合計馬力數ガ當該地域ノ制限ヲ超過スルトキハ令第一條但書、同第二條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルヘシ
- 第十三條 法第七條取扱標準ハ左ノ通りトス
 - 一 側溝ハ之ヲ道路幅ニ算入ス
 - 幅員五十センチメートル未満ノ水路ニシテ側溝ニ準スト認メラル、モノニ付亦同シ
 - 二 道路敷地ヲ構成スル側面ノ法ハ之ヲ道路幅ニ算入セス
 - 第十四條 法第八條但書許可標準ハ左ノ通りトス
 - 一 昭和十年一月三十一日以前ニ指定シタル建築線ニ接スル敷地
 - 二 罹災地區、住宅經營地區其ノ他一團ノ土地ニ互リ指定シタル建築線ニ接スル敷地ニシテ近ク道路變成ノ見込アリト認ムルモノ
 - 三 細則第五條ノ規定ニ依ル建築線又ハ幅員一、八メートル以上ノ通路ニ沿ヒ指定シタル建築線ニ接スル敷地
 - 四 河川、水路、溝渠等ノ敷地ヲ隔テ、幅員一、八メートル以上ノ通路又ハ道路敷地ニ面スル敷地
 - 五 山間部等ニシテ家屋連續ノ見込ナシト認ムル土地ニ於ケル敷地

第一號様式

〔靜岡令四五號〕

關係土地ノ 地名地番	申請者ノ 住所氏名	建築線	申請書	警受 防付 課印	警受 察付 署印	人書代	電話 番
電話 番	電話 番	電話 番	電話 番	電話 番	電話 番	電話 番	電話 番

右

建築線 相成度關係圖書相添及申請候也

昭和 年 月 日

靜岡縣知事 殿

第六號樣式

警防課保管

印付受課防警
印付受署察警

人書代
電話
番

第 號	備 考	竣 功 面 積	許 可 認 可 屆 濟 面 積			敷 地 ノ 位 置	濟 年 月 日 及 番 號	昭 和 年 月 日	建 第 號	竣 功 檢 査
			坪	坪	坪					
右竣功致シ候ニ付此段及御届候也										
昭 和 年 月 日										
靜 岡 縣 知 事										
殿										

第七號樣式

靜岡縣告示第 號
市街地建築物法第七條但書ニ依リ左ノ通建築線ヲ指定ス

〔靜岡令四五號〕

昭
和
年
月
日
告
建
第
號

靜
岡
縣
知
事

〔靜岡令四五號〕

一、廢止場所

昭 和 年 月 日
告 建 第 號
建 築 線 指 定
靜 岡 縣

昭 和 年 月 日
告 建 第 號
建 築 線 廢 止
靜 岡 縣

昭 和 年 月 日
告 建 第 號
建 築 線 變 更
靜 岡 縣

第八號樣式

靜岡縣告示第 號
昭
和
年
月
日
告
建
第
號
市街地建築物法第七條但書ニ依リ指定シ
タル建築線ハ之ヲ左ノ通變更ス
昭
和
年
月
日

靜
岡
縣
知
事

告
建
第
號

- 一、變更年月日 昭
和
年
月
日
- 一、變更場所
- 一、建築線間ノ幅員

第九號樣式

靜岡縣告示第 號
昭
和
年
月
日
靜岡縣告示第 號
市街地建築物法第七條但書ニ依リ
指定シタル左ノ建築線ハ之ヲ廢止ス
昭
和
年
月
日

靜
岡
縣
知
事

告
建
第
號

- 一、指定年月日 昭
和
年
月
日
- 一、廢止年月日 昭
和
年
月
日
- 一、記號番號 告
建
第
號

第十三編 警察 第二章 保安

市街地建築物法令中取扱ニ關スル件

昭和十年三月二十三日
静岡縣告示第二百九十六號

- 市街地建築物法令中取扱ニ關スル件左ノ通定ム
- 一 市街地建築物法施行令(以下單ニ施行令ト稱ス)第一條乃至第三條ノ二ノ規定ニ關スル取扱左ノ如シ
- 1 施行令第一條乃至第三條ノ二ノ「原動機」ニハ工場ノ作業ニ直接關係ナキ給水、排水、換氣、昇降機ノ運轉等ニ專用スル原動機ハ之ヲ包含セザルモノトス
 - 2 住居地域ニ建築セントスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備、事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ施行令第一條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ
 - イ 震動又ハ騒音ノ發生輕微ナルコト
 - ロ 瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害ノ虞ナキコト
 - ハ 煤煙ノ排出僅少ナルコト
 - ニ 火災、爆發等ノ危害發生ノ虞ナキコト
 - ホ 其ノ他公害發生ノ虞ナキコト
 - 3 商業地域ニ建築セントスル工場ニシテ左ノ各號ノ要件ヲ具備スルモノ又ハ建築物ノ配置、構造設備事業ノ種類等ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ施行令第二條但書又ハ同第三條但書ノ規定ヲ適用スルコトアルベシ
 - イ 著シク震動又ハ騒音ヲ發生セザルコト
 - ロ 瓦斯、粉塵又ハ廢液ノ發生ニ因ル公害僅少ナルコト
 - ハ 多量ノ煤煙ヲ排出セザルコト

〔静岡令〕

市街地建築物法施行規則第二十七條第四項ニ據リ同條第一項ノ規定ヲ適用セザル區域指定

昭和八年一月二十八日
静岡縣令第四號

- 大正九年十一月 內務省令第三十七號市街地建築物法施行規則第二十七條第四項ノ規定ニ據リ同條第一項ノ規定ヲ適用セザル區域左ノ通指定ス
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 静岡市松富字松富上組、與一右衛門新田、傳馬町新田ノ内宇御林上以北ノ土地
 - 一 富士郡大宮町大字萬野及洞井川以南ノ土地

〔静岡令一六號〕

静岡市外三市ノ區域ニ於ケル市街地建築物法施行規則適用ノ件

昭和十年四月二十三日
静岡縣令第十二號

- 静岡市、濱松市、清水市及沼津市ノ區域ニ於ケル建築物ニ市街地建築物法施行規則第四百十四條第二號乃至第四號ノ規定ヲ同區域ニ於ケル左ノ種類ノ建築物ニ同施行規則第七條乃至第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七條第二項、第二十八條乃至第一百五條、第三十六條乃至第四百十二條ノ規定ヲ適用シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 一、市街地建築物法施行規則第四百十三條第一項第二號乃至第四號ノ建築物

- 二、市街地建築物法施行令第一條乃至第三條ニ掲グル建築物
- 三、學校、病院、旅館、下宿屋、合宿所、共同住宅、寄宿舎、浴場、卸賣市場、小賣市場、百貨店、商品陳列場、常設展覽會場、圖書館、博物館及集會場
- 四、高二メートルヲ超ユル擁壁

市街地建築物法施行規則第四百十四條第二號乃至第四號適用區域

昭和十二年四月十七日
静岡縣令第二十五號

- 左ノ市街地建築物法適用區域ニ於ケル建築物ニ同法施行規則第四百十四條第二號乃至第四號ノ規定ヲ適用シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 賀茂郡下田町
田方郡伊東町
田方郡三島町ノ一部(圖面表示ノ區域)
駿東郡小山町
富士郡大宮町
富士郡富士町
庵原郡袖師村
庵原郡飯田村ノ一部(都市計畫街路二等大路第二類第五號線北側境界線以南及同境界ノ以北四十米ノ區域)
安倍郡有度村ノ一部(有度坂、今泉、國道一號南側境界線ノ以北及同境界線ノ以南四十米ノ區域)

濱名郡可美村
濱名郡入野村ノ一部(入野)
濱名郡蒲村ノ一部(神立、將監名、植松)
濱名郡芳川村ノ一部(都盛)
磐田郡中泉町
磐田郡袋井町
磐田郡二俣町
志太郡焼津町
濱名郡新居町

●木造建物建築統制規則施行細則

昭和十四年十一月十三日
靜岡縣令第六十二號

木造建物建築統制規則施行細則左ノ通定ム

木造建物建築統制規則施行細則

第一條 木造建物建築統制規則(以下規則ト稱ス)ニ依リ知事ニ提出スベキ申請書又ハ届書ハ建築地所轄警察署ヲ經由スベシ

第二條 本令ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲ス者未成年者若ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人準禁治産者ナルトキハ保佐人妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス

申請人又ハ届出ヲ爲ス者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名ヲ記載スベシ

第三條 規則第三條乃至第六條及第十條ノ申請書ハ別記様式第一號又ハ様式第二號ニ依リ正副二通ヲ提出スベシ

建築ニ付キ左ノ物資ヲ使用シ又ハ電氣瓦斯若ハ水ノ供給ヲ受クル設備ヲ爲サントスルトキハ別記様式第三號ニ依リ棟別ニ記載提出スベシ

〔靜岡令四八號〕

米
耐火木材
釘
棒
補強用鐵物
薄鋼板
メタルラス
ワイヤラス
鋼製戸
石綿スレート
セメント

第四條 規則第一條第二項同第二條第二項又ハ第七條ノ規定ニ依リ届書ハ前條ニ定ムル様式各號ニ依リ起工前十日目迄ニ正副二通ヲ提出スベシ但シ特ニ必要アリト認ムルトキハ起工期日ノ延期ヲ命ズルコトアルベシ

第五條 規則ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ建築ニ關シ臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ハ之ヲ證スルニ足ル書類ヲ添付スベシ

第六條 規則ニ依リ申請又ハ届出ヲ爲スベキ場合ニ於テ其ノ建物ニ付商工省令鐵鋼工作物築造許可規則又ハ鋼製品ノ製造制限ニ關スル件ニ依リ許可ヲ受ケベキ事項ヲ含ム場合ニ在リテハ當該事項ニ關スル許可申請書ヲ同時ニ提出スベシ

第七條 規則第三條乃至第六條及第十條ノ規定ニヨリ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築許可證トシテ副本ニ別記様式第四號ニ依リ建築許可證印ヲ押捺シ申請人ニ交付ス

規則第三條乃至第六條ノ申請ニ對シテハ第三條第二項ニ掲グル物資中使

〔靜岡令四八號〕

用シ得ルモノヲ指定シ別記様式第五號ニ依リ物資指定書ヲ交付ス

第八條 規則第一條第二項同第二條第二項又ハ第七條ノ規定ニ依リ届出ニシテ支障ナシト認ムルトキハ建築届調査證トシテ副本ニ別記様式第六號ニ依リ調査證印ヲ押捺シ届出人ニ交付ス

第九條 建築工事中ハ建築場ニ別記様式第七號ニ依リ標札ヲ掲ゲ且ツ建築ノ許可又ハ調査證ノ證印アル副本ヲ備ヘ置キ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第十條 建物又ハ建築工事ニ付必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ之ニ臨檢セシムルコトアルベシ

第十一條 市街地建築物法令ニ依リ申請又ハ届出ヲ要スル建物ニシテ規則様式第一號 (新築用)

ニ依リ建築ノ申請又ハ届出ヲ要スルモノナルトキハ市街地建築物法令ニ依リ申請書又ハ届書ニ規則所定ノ事項ヲ具シ併セ申請スルコトヲ得

第十二條 規則第九條ニ依リ届書ハ別記様式第八號ニ依ルベシ

市街地建築物法令ニ依リ其ノ工事ノ竣工又ハ廢止ノ届出ヲ爲シタルトキハ同一届書ヲ以テ規則又ハ本令ニ依リ工事竣工又ハ廢罷ノ届出ヲ爲シタルモノト看做ス

附則
本令ハ昭和十四年十一月十三日ヨリ之ヲ施行ス
規則附則第二項ノ規定ニ依リ届書ハ別記様式第一號ニ依リ正副二通ヲ提出シ當該建築工事竣工シタルトキハ様式第八號ニ依リ遲滞ナク届出ベシ

木造建物建築		警防課受付印	警察署受付印
建物ノ位置	建物ノ用途	專用兼用長屋ノ別	
新築又ハ用途ヲ變更セシトスル事由			
右關係圖書相添ヘ申請候也			
建築主氏名	建築主氏名	印	印
代理人氏名	代理人氏名	電話	電話
住所	住所	電話	電話
番	番	番	番

其ノ他必要ナル事項

- 1、本表ハ一棟毎ニ作成スルコト
- 2、所定欄内ニ所定事項ヲ記入シ難キトキハ適宜別紙ヲ用ヒ當該記入ニ其ノ旨附記スルコト

様式第五號

物資指定書

昭和 年 月 日 發行

昭和 年 月 日 第 號

静岡県 縣 團

建築許可済 建築届済(他ノ法令ニ依ル許可済認可済又ハ届出)
ノ場合ハ其ノ旨明カニスルコト

物 資 名 使 途 寸 法 數 量							

注意 一、本證ノ有効期間ハ本證發行ノ日ヨリ三ヶ月トス

二、物資ノ配給ヲ受ケル場合ハ本證ハ許可申請書又ハ届書ノ副本ト共ニ當該物資ノ配給機關ニ呈示スベシ

様式第四號

様式第六號

様式第七號

〔静岡県四八號〕

第八號様式

防木第 號 昭和 年 月 日 建築許可證 静岡県	防木第 號 昭和 年 月 日 建築届調査済證 静岡県	防木第 號 昭和 年 月 日 建築調査可済 建築主〇〇〇〇
四センチメートル	四センチメートル	四十センチメートル
ルトーメチンセ四	ルトーメチンセ四	ルトーメチンセ五十二
静岡県 防務課	静岡県 防務課	静岡県 防務課
印付受課防警	印付受署察警	
竣功届書		
敷地ノ位置	昭和 年 月 日 防木第 號	
許可届済		
年月日及番號		
備考		
右竣功致候ニ付此段及御届候也		
昭和 年 月 日		
静岡県知事 殿	申請人	

●屋上制限規程

大正九年九月二十八日
靜岡縣令第六十一號

屋上制限規程左ノ通定ム

屋上制限規程

- 第一條 家屋ヲ新築増築又ハ改築スルトキハ屋上ヲ瓦、石、金屬其ノ他ノ不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ屋上ノ改葺ヲ爲ストキ亦同シ
- 第二條 土地ノ狀況ニ依リ前條ノ規定ニ依ルコトヲ要セサルカ若ハ之ニ依リ難キ理由アルモノハ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル家屋ニシテ第一條ノ屋上制限ニ依ラシムル必要生シタリト認ムルトキハ認可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 現在ノ家屋ニシテ第一條ノ屋上制限ニ抵觸スルモノハ左ノ期限内ニ改葺ヲ爲スヘシ
靜岡市、濱松市、沼津町
大正十五年十二月三十一日
右以外ノ地
大正二十五年十二月三十一日
- 第五條 第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
- 第六條 本規程ハ左ノ地ニ之ヲ施行ス
賀茂郡下田町
田方郡三島町

- 田方郡伊東町
- 田方郡熱海町熱海
- 駿東郡沼津町
- 駿東郡御殿場町御殿場、新橋
- 駿東郡小山町小山、生土、藤曲、菅沼
- 富士郡吉原町
- 富士郡大宮町大宮、源道寺、阿幸地
- 庵原郡蒲原町
- 庵原郡興津町興津、清見寺、中宿
- 庵原郡江尻町
- 安倍郡清水町
- 安倍郡入江町入江、元追分
- 靜岡市
- 安倍郡大里村川邊
- 志太郡燒津町
- 志太郡藤枝町
- 志太郡島田町
- 榛原郡川崎町靜波
- 榛原郡相良町相良、福岡、波津
- 榛原郡金谷町金谷、金谷河原
- 小笠郡掛川町
- 周智郡森町森、天宮、城下
- 磐田郡見付町
- 磐田郡二俣町二俣

●屋上制限規程取扱心得

大正九年九月二十八日
靜岡縣訓令乙第四百十九號

警察部 警察署 (警察分署)

- 大正九年九月九日靜岡縣令第六十一號屋上制限規程取扱心得左ノ通定ム
- 屋上制限規程取扱心得**
- 第一條 家屋ヲ新築増築改築又ハ改葺スルモノアリタルトキハ規程第一條ノ構造制限ニ抵觸セサル様警告スヘシ
- 第二條 規程第二條ニ依リ認可ノ申請アリタルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且市街地ノ火災警防上支障ナシト認ムル場合ニ限り認可スヘシ
- 一 市街地ヨリ遠隔ノ地ニ在ルモノ
 - 二 一時的假設ノモノ
 - 三 神社
 - 四 庭園内ノ小亭
- 第三條 第二條各號ニ該當セサル家屋ニシテ特ニ規程第二條ニ依リ認可セムトスルトキハ狀況ヲ詳具シ警察部長ノ指揮ヲ請フヘシ

〔靜岡令〕

〔靜岡令四九號〕

第四節 警防

●警防團令施行細則

昭和十四年二月二十七日
靜岡縣令第四號

改正 昭和十四年二月九日縣令第六九號
警防團令施行細則左ノ通定ム

第一章 組織

- 第一條 市町村長警防團設置ノ申請ヲ爲サントスルトキハ申請書(様式第一號)ニ左ノ事項ヲ具シ知事ニ提出スヘシ
- 一 名稱
 - 二 區域
 - 三 組織及定員
 - 四 設備資材ノ名稱及其ノ員數
 - 五 給貸與ノ種類
- 前項第一號乃至第四號ノ事項ハ分團ヲ設ケンストスルトキハ各分團別ニ表示スヘシ
- 第一項各號ノ事項中變更ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ニ付第一項ニ準ジ申請ヲ行フベシ
- 學校、工場、會社等ニ於テ自衛ノ爲特設防衛團體ヲ設置シタルトキハ第一項ニ準ジ所轄警察署長ニ届出ツベシ
- 第二條 警防團ノ名稱ハ其ノ市町村名ヲ冠シ分團ノ名稱ハ數字ヲ以テ之ヲ表示スヘシ
- 町村組合ニシテ前項ノ規定ニ依リ難キトキハ他ノ名稱ヲ冠スルコトヲ得
- 第三條 警防團令第五條ノ規定ニ依リ組織人員左ノ如シ
- 一 團長 一名

認可年月日	申請者 住所 氏名
認可番號	家屋ノ種類
認可シタル 家屋	認可ヲ受ケタル 理由
認可取消年 月日及其理 由	
家屋廢止 年月日	
行政執行法 ニ依リ強制 シタルトキ ハ其理由	

第四條 警察官署ニハ別記様式ノ臺帳ヲ備ヘ規程第二條ニ依リ認可シタル家屋ヲ記載スヘシ

第五條 規程第三條ニ依リ認可ヲ取消ス必要アリト認メタルトキハ狀況ヲ詳具シ警察部長ノ指揮ヲ請フヘシ

第六條 規程第二條ニ依リ認可シタル家屋ニシテ廢止シタルトキ又ハ認可ヲ取消シタルトキハ臺帳ヲ整理スヘシ

屋上制限除外認可臺帳様式

- 二 副團長 一名但シ特別ノ必要アルトキハ二名ト爲スコトヲ得
 - 三 分團長 若干名但シ必要アルトキハ副分團長ヲ置クコトヲ得
 - 四 部長 若干名但シ必要アルトキハ副部長ヲ置クコトヲ得
 - 五 班長 警防員十名毎ニ一名但シ警防員ニ六名以上ノ端數アルトキハ一名ヲ増スコトヲ得
 - 六 警防員 團ニアリテハ百名以上、分團ニ在リテハ三十名以上土地ノ狀況其ノ他已ムヲ得ザル事情アルトキハ班長及警防員ノ定員ハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得
- 第四條 警防團(分團ヲ設置セルトキハ分團)ヲ部及班ニ分ツ場合ハ左ノ區分ニ依ルベシ但シ警防員多數ノ班ニ在リテハ之ヲ數班ニ分ツコトヲ得
- 一 本部 庶務班
 - 二 警報部 連絡班
信號班
傳達班
 - 三 消防部 警戒班
唧筒班
水利班
火先班
救急班
指導班
 - 四 燈火管制部 監視班
- 土地ノ狀況ニ依リ前項各號ノ外左ノ部及班ヲ置クコトヲ得
- 一 常設消防部 第一班
第二班
 - 二 交通部 整理班

〔警防令四九號〕

- 三 防毒部 指導班
第一班
第二班
 - 四 救護部 第一班
第二班
 - 五 警護部 巡邏班
警戒班
 - 六 配給部 調理班
分配班
 - 七 工作部 偽裝班
修履班
 - 八 管理處 第一班
第二班
- 第二章 資格及任免
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ警防團員タルコトヲ得ズ
- 一 設置區域内ニ居住セザル者
 - 二 十七歳未滿ノ者
 - 三 禁治産者又ハ準禁治産者
 - 四 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所犯情狀酌量スベキ者ニシテ滿期後二年ヲ經過シ改悛ノ狀著シト認メラルルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - 五 懲戒解職處分ヲ受ケ滿二年ヲ經ザル者
 - 六 平素舉動粗暴ニシテ酒癖アル者
 - 七 身體脆弱ナル者

〔警防令三九號〕

- 第六條 團長ノ任命内申ハ所轄警察署長、其ノ他ノ團員ニ在リテハ團長之ヲ行フベシ
 - 第七條 團長、副團長辭職セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事、其ノ他ノ團員ニ在リテハ所轄警察署長ニ願出ヅベシ
 - 第八條 警防團員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ失フモノトス
 - 一 設置區域外ニ轉住シタルトキ
 - 二 三月以上所在不明トナリタルトキ
 - 三 第五條第三號又ハ第四號ニ該當スルニ至リタルトキ
 - 第九條 警防團員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ職ヲ免ズルコトヲ得
 - 一 不具發疾ニ依リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ依リ職務ヲ執ルニ堪ヘザルトキ
 - 二 定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生ジタルトキ
- 第三章 服務及規律
- 第十條 警防團員ハ左ノ各號ヲ遵守スベシ
- 一 常ニ警防精神ヲ練成シ一朝有事ニ際シテハ身ヲ挺シテ難ニ赴クノ覺悟アルベキコト
 - 二 規律ヲ嚴守シ上長ノ指揮命令ニ服從シ上下一體以テ事ニ當ルベキコト
 - 三 上下同僚ノ間互ニ相敬愛シ、禮節ヲ重シ、信義ヲ敦クシ、常ニ言行ヲ慎ミ以テ鄉閭ニ範タルノ實ヲ示スベキコト
 - 四 職務ニ關シ私ニ金品ノ寄贈若ハ饗應接待ヲ受ケ又ハ之ヲ請求スル等ノ所爲アルベカラザルコト
 - 五 職務ニ關シ之ヲ知りタルト又ハ他ヨリ之ヲ聞知シタルトハ問ハズ機

- 六 密ヲ漏洩セザルコト
- 七 警防團若ハ團員ノ名義ヲ以テ政治運動ニ關與シ又ハ他人ノ訴訟若ハ紛議ニ關與スベカラザルコト
- 八 警防團若ハ團員ノ名義ヲ以テ濫ニ寄附ヲ募集シ又ハ營利行爲ヲ爲シ若ハ義務ノ負擔トナルガ如キ行爲アルベカラザルコト
- 九 平素何時ニテモ召集ニ應ジ得ルノ準備ヲ整ヘ置キ事ニ當リ不都合ナキヲ期スルコト
- 十 召集ノ命ヲ受ケザル場合ト雖非常警防事件ノ發生ヲ知りタルトキハ其ノ住宅ニ在ルト外出中ナルトニ拘ラズ直ニ所定ノ場所ニ參集スルコト
- 第十一條 警防團員ハ左ノ各號ヲ遵行スベシ
 - 一 勤務ニ服スルトキハ制服ノ服裝ヲ爲スコト
 - 二 勤務中ハ功ヲ爭ヒ又ハ故ナク持場ヲ離ルルガ如キ所爲アルベカラザルコト
 - 三 警防ノ爲ト雖警察官吏ノ指揮ヲ受クルニ非ザレバ濫ニ建造物其ノ他ノ物件ヲ毀損スベカラザルコト
 - 四 出動シタルトキハ警察官吏又ハ其ノ代理者ノ點檢ヲ受クルニ非ザレバ退散セザルコト
 - 五 長期ニ互リ疾病ニ罹リ又ハ服務地ヲ離ルル場合ハ團長、副團長ハ所轄警察署長ニ其ノ他ノ團員ハ團長ニ届出ヅベキコト
 - 六 警察署長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ濫ニ集合スベカラザルコト
 - 七 職務ニ從事中ハ飲酒スベカラザルコト
 - 八 給貸與品ハ之ヲ大切ニ保管シ服務以外ニ於テ之ヲ使用シ若ハ他人ニ貸與スルガ如キ所爲アルベカラザルコト
 - 九 警防團ノ設備資材ハ職務ヲ以テスル場合ノ外之ヲ使用セザルコト

十 設置區域外ノ警防ニ應援スル場合ハ必ず警察部長又ハ警察署長ノ指揮命令ニ從ヒ統制アル行動ヲ爲スベキコト

第十二條 團長更迭ノ場合ニ於テハ前任者ハ退職ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ擔任スル事務ヲ後任者ニ引繼ギ連署ヲ以テ所轄警察署長ニ報告スベシ後任者ニ引繼グコトヲ得ザル事情アルトキハ之ヲ副團長ニ引繼グベシ

前項ノ場合ニ於テ副團長ハ後任者ニ引繼グコトヲ得ルニ至リタルトキハ直ニ之ヲ引繼ギ第一項ニ準シ其ノ手續ヲ爲スベシ

第四章 設備資材及給與

第十三條 警防團ノ設備資材左ノ如シ但シ土地ノ狀況ニヨリ之ヲ増減スルコトヲ得

一本	團旗	一
二	警報部	若干
イ	號報器	若干
ロ	擴聲器具	同
ハ	擴聲器具	同
ニ	防護警報器具	同
ホ	其ノ他受發信具	同
三	消防部	一
イ	罐	一
ロ	高張提灯	一
ハ	唧筒	若干
ニ	給藥用具	同
ホ	防禦用具	同
ハ	破壞用具	同

〔靜岡令三九號〕

ト	照明用具	同
チ	通信器具	同
リ	擴聲器具	同
ニ	防火線設定用具	同
ル	標示用具	同
ヲ	救急用具	同
リ	貯水池	同
カ	器具藏置所	同
ヨ	火ノ見梯子	同
若	火ノ見梯子	同

四	燈火管制部	若干
イ	管制補助器具	同
ロ	擴聲器具	同
ハ	擴聲器具	若干
ニ	指導板	同
ホ	其ノ他指導用具	同
六	防毒部	若干
イ	防毒用具	同
ロ	檢知用具	同
ハ	消毒用具	同
ニ	指導用具	同
ホ	交通遮斷用具	同
七	救護部	若干
イ	擔架	同

〔靜岡令四九號〕

八	救急藥	同
ハ	治療器具及藥品	同
イ	擴聲器具	若干
ロ	照明用具	同
九	配給部	若干
イ	運搬器具	同
ロ	輸送車輛	若干
十	工作部	若干
イ	修覆材料	同
ロ	修覆用器具	同
十一	避難所管理部	若干
イ	擴聲器具	同
ロ	標識器具	同
ハ	救急藥品	同

前項第三號消防部高張提灯及同號並ニ第八號警護部照明用具トシテ用フ
ル提灯ハ別記様式第八號ニ依ルベシ

第十四條 警防團ハ左ノ臺帳及簿冊ヲ備フベシ

- 一 沿革誌(様式第二號)
- 二 團員名簿(様式第三號)
- 三 例規綴
- 四 警防團關係書類綴
- 五 勤務日誌(様式第四號)
- 六 給貨與品臺帳(様式第五號)
- 七 設備資材臺帳(様式第六號)
- 八 諸手當受拂簿(様式第七號)
- 九 管内全圖

十 水利圖面

第十五條 警防團員ノ給貨與ハ左ノ區別ニ依ルベシ

- 一 被服
- 二 手當(年手當、月手當、出勤手當、訓練手當又ハ辨當料等)
- 三 公傷治療治料
- 四 弔祭料
- 五 功勞賞與

第十六條 警防團ハ左ノ信號ヲ用フベシ

第五章 信號

- 一 防空警報信號
- 一 空襲警報信號
- イ 號報器信號
- 三秒ヲ間シ六秒宛十回(急發急止ノ裝置ナキモノニ在リテハ數秒宛斷續十回)吹鳴
- ロ 煙火信號
- 打上煙火四爆音
- ハ 打鐘信號
- 〇〇〇〇〇〇〇 (一點ト四點班打)
- ニ 電灯點滅信號
- 數秒ヲ間シ五回以上點滅
- (二) 空襲警報解除信號
- イ 號報器信號
- 一分間吹鳴
- ロ 打鐘信號
- 〇〇〇〇〇 (一點ト二點班打)

消	高	何	同	同
張	提			
燈				
部	同	同		
防				
部				

別表四

給貸與ノ種類 (其ノ一)

部名	種類	給	與	品	貨	與	品
本部	何々々	同	同	同	同	同	同
警報部	何々々	同	同	同	同	同	同

本表ハ各班ニ共通シタル各部團員一人當リニ給貸與スルモノヲ記載スルコト

別表五

給貸與ノ種類 (其ノ二)

職名	種類	手	當	公傷病療治料	弔	祭	料	功勞賞	與
團長	長		圓				圓		圓
副團長	長								
何々々									

注意 手當ハ實際支給セントスル名稱及金額ヲ記入スルコト
公傷病療治料ハ支給額又ハ其ノ標準トナルベキモノヲ記入スルコト

〔靜岡令三九號〕

様式第二號

常設消防部員等ニシテ市町吏員ノ待遇ヲ以テ諸給與ヲ爲サントスルモノハ關係條例ノ寫ヲ添附スルコト

〔靜岡令三九號〕

組織定員ノ沿革	年	月	日	記	事

記載事項

- 一 組織定員ノ沿革
- 二 警防團ノ賞罰ニ關スル沿革
- 三 團長副團長任免事項
- 四 毎年度ノ警防團費豫算及決算高
- 五 設置區域内ニ於ケル重大ナル事變ニ關スル事項

注意 本様式ハ記載事項各項毎ニ口座ヲ設ケ簿冊ハ別冊トセザルコト

様式第三號

團員名簿

役名	部	位	職	名	住	所
兵	役	步	兵	大尉	氏	名
公	職	市	會	議	職	業
勳	勳	八	等			
勤	位	八	等			
役	名	部	長			
					靜岡市追手町三五番地	
						酒造業
						天

明治三十九年六月七日 守

其 ノ 他	勤 績 表 彰	功 勞 證 書	警 防 經 歷		學 歷	
			昇 進	拜 命		
	昭和二十五年二月十一日 十年勤績 昭和三十一年二月十一日 十五年勤績	昭和十五年十一月三日 普通功勞 昭和十七年二月十一日 現場功勞	昭和十四年四月十日 警防班長 昭和十五年四月十日 警防部長 昭和十六年四月十日 警防分團長 昭和十七年四月十日 警防副團長	日 日 日 日 日 日 日 日	中學卒業	生 年 月 日

注意 團員名簿ハ分團、部及班別ニ各口座ヲ設ケ作成スルコト

〔警四令三九號〕

様式第四號

〔警四令三九號〕

勤 務 者 何々分團 何々部 何々班	勤 務 者 何々分團 何々部 何々班	勤 務 者 何々分團 何々部 何々班	勤務日誌		風位風速
			月 日	天 候	

注意 勤務日誌ハ防空、水消防其ノ他警防ノ實施及訓練ニ出動シタル場合ニ記載スルモノトス

記載ハ後日參考トナル事項ナルニ付詳細ニ互ルコト

様式第五號

給貨與品臺帳

品 名	給貨與年月日	員 數	摘 要

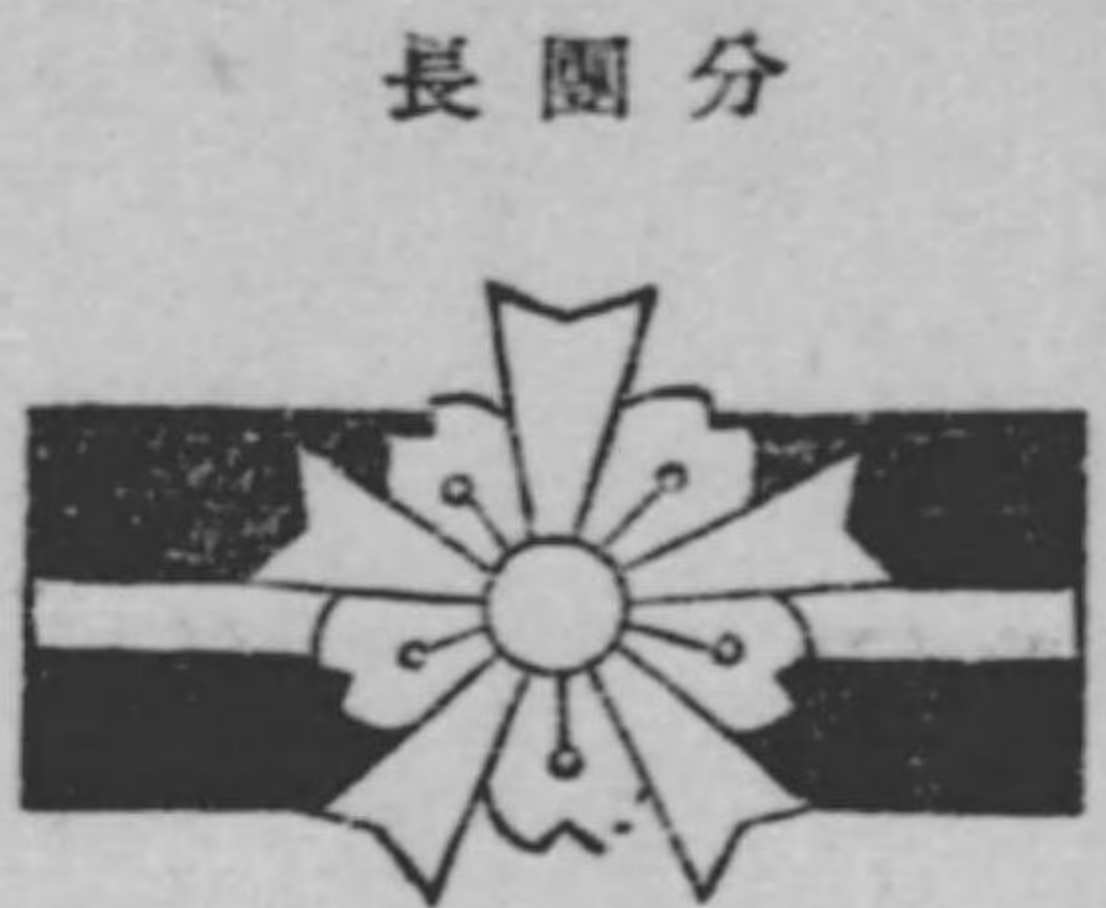
様式第六號

設備資材臺帳

品 名	設備年月日	員 數	摘 要

赤中線二本

一寸二分幅



線ノ間隔三分

赤中線一本

一寸二分幅



赤細線五本

三分幅



線ノ間隔一分
五厘

赤細線三本

三分幅



線ノ間隔一分
五厘

赤細線二本

三分幅



線ノ間隔一分
五厘

制式 筒型

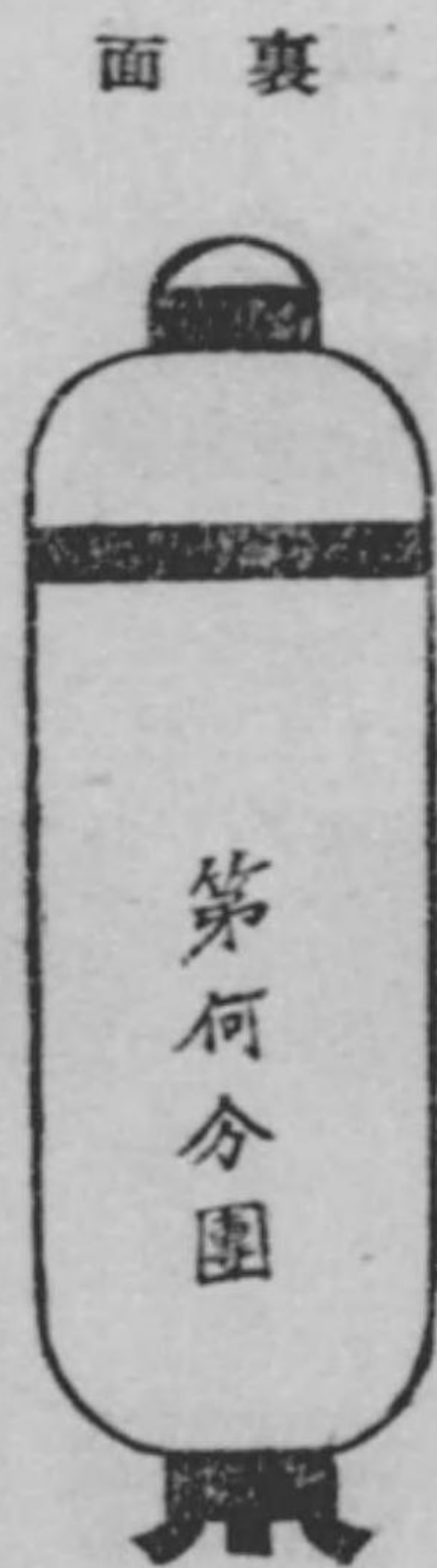
徽章

赤細線一本

三分幅



正面



裏面

班長以上ノ徽章ハ馬乘型徽章ノ十分ノ六トス

〔靜岡令四九號〕

〔靜岡令四九號〕

● 警防團令施行細則取扱規程

昭和十四年二月二十七日
靜岡縣訓令乙第五七號

警察部 警察署

警防團令施行細則取扱規程左ノ通定ム

- 第一條 警防團設置ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査ノ上意見ヲ附シ其ノ正本ヲ進達スベシ
 - 一 設置區域内ノ戸數並ニ人口
 - 二 組織及定員ハ實際活動ニ適應シ得ルヤ否ヤ
 - 三 設備資材ノ適否
 - 四 給貸與ノ當否
- 警防團令施行細則(以下細則ト稱ス)第一條第三項ニ依ル變更申請書ヲ受理シタルトキハ變更ヲ必要トスル理由ヲ調査ノ上意見ヲ附シテ其ノ正本ヲ進達スベシ警防團ヲ廢止セントスル申請アリタルトキ亦同シ
- 第二條 警防團ノ設置、廢止又ハ變更ノ必要ヲ認メタルトキハ第一條ニ準ジ調査具申スベシ
- 第三條 團長ノ任命内申ハ細則第五條第一項各號ノ外左ノ事項ヲ調査ノ上之ヲ行フベシ
 - 一 住所、位階、勳等、職業、氏名及生年月日
 - 二 資産
 - 三 活動及統率能力ノ有無
 - 四 兵役關係
 - 五 經歷ノ概要
- 第四條 副團長ノ任命内申書ヲ受理シタルトキハ前條ニ準ジ調査ノ上意見ヲ附シ進達スベシ

第五條 警防團員ノ任命内申書ヲ受理シタルトキハ細則第五條第一項各號ノ外班長以上ニ在リテハ特ニ指揮能力ノ有無ヲ審査ノ上任命スベシ

第六條 團長又ハ副團長ヨリ辭職願書ノ提出アリタルトキハ意見ヲ附シ進達スベシ

第七條 團長又ハ副團長ニシテ細則第八條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ事實ヲ調査ノ上報告スベシ

第八條 警防團ニ對シ其ノ署管外へ應援出動ヲ命ジタルトキハ其ノ概要ヲ遲滞ナク警察部長ニ報告スベシ

第九條 警察署長ハ左ノ簿冊ヲ備ヘ主任者ヲシテ處理セシムベシ

- 一 例規程
- 二 組織臺帳(申請書ヲ以テ之ニ代フ)
- 三 團員名簿(様式第一號)
- 四 賞罰名簿(様式第二號)
 - 其ノ一
 - 其ノ二
 - 其ノ三
- 五 警防團員任免内申綴
- 六 警防團ニ關スル往復書類編
- 第十條 細則第十七條ノ規定ニ基キ警防團ノ聯合訓練又ハ監査ヲ行ハントスルトキハ實施五日前ニ其ノ實施計畫書二通ヲ添附報告スベシ
- 第十一條 細則第二十條ノ規定ニ基キ警防團ヲ表彰スルノ必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ
 - 一 表彰スベキ團名
 - 二 平素訓練ノ狀況
 - 三 警防思想普及ノ狀況
 - 四 表彰スベキ事實ノ詳細
 - 五 他ノ團トノ關係

- 六 將來ニ對スル意見
 第十二條 細則第二十一條ノ規定ニ基キ警防團員ヲ表彰スルノ必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ
 一 表彰スベキ者ノ所屬團、分團、部及班名、役名、位階、勳等、氏名並ニ生年月日
 二 經歷及性行ノ大要
 三 表彰スベキ事實ノ詳細
 四 功勞證書ノ有無

- 五 他ノ團員トノ關係
 第十三條 團長又ハ副團長ヲ懲戒スルノ必要アリト認ムルトキハ其ノ事實並ニ之ニ對スル意見ヲ附シ具申スベシ
 附則
 本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 大正十二年五月警防團訓令乙第二二〇號消防規則施行細則取扱心得ハ之ヲ廢止ス

様式第一號

警防團員名簿

拜命年月日	異動年月日	住	所	職業	氏名	生年月日	摘	要

備考 名簿ハ團別ニ見出シテ附シ内容ヲ分團部班別及職名別ニ分ケルコト

様式第二號 其ノ一

警防團賞罰名簿

表彰年月日	表彰種類	表彰團名	摘	要

様式第二號 其ノ二

〔警防令四九號〕

警防團員表彰名簿

〔警防令四九號〕

表彰年月日	表彰種類	所屬團名	職名	氏名

様式第二號 其ノ三

警防團員懲罰名簿

懲罰年月日	懲罰種類	所屬團名	職名	氏名

本様式ニ依ル名簿ハ各別冊トナスコト

右方第五搖桿手ハ以上ノ動作ヲ終リテ前進シ吸管締皮ノ延線ニ至リテ止リ右向ヲナシ第四搖桿手ト共ニ第三吸管ヲ取り車轂ノ延線六歩ノ地點ニ置ク

同第四搖桿手ハ前進シ前鐵把ノ延線ニ至リテ右向ヲナシ第五搖桿手ト共ニ吸管ヲ取り頭上ヲ越ヘシメツ、左向ヲナシ車轂ノ延線八歩ノ地點ニ置ク

同第三搖桿手ハ第五、第四搖桿手ノ吸管ヲ取りテ前進スルヲ待チテ前進シ第二吸管ヲ取り頭上ヲ越ヘシメツ、右向ヲナシ前進シ第三吸管ト結合シ得ヘキ地點ニ至リテ之ト右噴遠ニ置ク

同第二搖桿手ハ第五、第四搖桿手ノ吸管ヲ取りテ前進スルヲ待チテ前進シ前鐵把ノ延線ニ至リテ右向ヲナシ第三搖桿手ト共ニ第二吸管ヲ取りテ前進シ第三搖桿手ノ停止スルト共ニ停止シ之ヲ置ク

同第一搖桿手ハ第三、第二搖桿手ノ第二吸管ヲ取りテ前進スルヲ待チテ前進シ第三搖桿手ノ要領ニテ第一吸管ヲ取り第二吸管ト結合シ得ヘキ地點ニ於テ右噴遠ニ置キ第三消防員ヨリ螺旋廻ヲ受取り一本ヲ取りテ順次第二第三第五搖桿手ニ渡ス（螺旋廻ヲ必要トセサルモノハ本動作ヲ省略ス）

第一消防員ハ第一搖桿手前進スルト同時ニ右向ヲナシ更ニ斜右向ヲナシ一步前進シ右向ヲナシ第一搖桿手ト第一吸管ヲ取りテ之ヲ置キ第三消防員ヨリ螺旋廻三本ヲ取りテ其ノ場ニ停止ス

第二消防員ハ左向ヲナシ更ニ斜左向ヲナシ左方第五、第四搖桿手ノ通過スルヲ待チ前進シ左向止レヲナシ車轂ヨリ十五糎（五寸）ヲ距テテ停止ス

第三消防員ハ車匣ヨリ螺旋廻ヲ取り出シ車ヨリ吸管ヲ卸シタル時右方車匣ノ線ニ至リ第一搖桿手ニ四本ヲ第一消防員ニ三本ヲ渡シ車轂ノ延線ニ至リ

〔靜岡令〕

線ニ於テ轂ヨリ十五糎（五寸）ヲ距テ、左向ヲナシ停止ス

左方第五搖桿手ハ前進シ車轂前ニ至リ左向止レヲナシ左右ニ一步宛開キテ第二木挺ヲ取り水平ニ持シテ右向ヲナシ前進シ唧筒ノ後方九十糎（三尺）ノ地點ニ至リ木挺ヲ立テ、右手ニ把持ス

同第四搖桿手ハ第五搖桿手木挺ヲ取りテ前進スルヲ待チテ前進ヲ起シ第五搖桿手ト同一要領ニテ第一木挺ヲ取りテ之ヲ水平ニ持シ左向ヲナシ三步前進シ更ニ右向ヲナシ木挺ヲ立テ、把持ス

五、唧筒——卸セ

左方第一搖桿手ハ一步前進シ上體ヲ俯シ兩手ニテ鼻栓ヲ拔キ右向ヲナシ轆木ノ側面ニ面シ左手ハ掌ヲ下ニ向ケ唧筒ノ臺盤止際ニ於テ轆木ノ上面ヲ押握シ右手ハ掌ヲ上ニ向ケ轆木ノ近キ轆木ノ下面ヲ握リ上體ヲ起シツ、靜カニ車頭ヲ扛ケ車尾ヲ地上ニ達セシメ左向ヲナシ唧筒ニ正面シ同時ニ右手ヲ左手ノ前方ニ移シテ轆木ノ上面ヲ押握シ以テ轆木ヲ右肩ニ擔ヒ上體ヲ稍前方ニ傾ケ其ノ儘後退シツ、唧筒ヲ地上ニ下シ車轆ヲ唧筒ノ後方二米（六尺六寸）ノ地點ニ置キテ舊位ニ復ス

第二、第三消防員ハ兩手ヲ伸シテ水槽ノ縁ヲ押握シ車尾ニ近キ足ヲ其ノ方向ニ開キ唧筒ヲ壓下スルガ如クシテ之ヲ卸シ終レハ第二消防員ハ左足ヲ開キ前鎖ヲ外シ之ヲ水槽内又ハ鎖懸ニ懸垂シ左足ヲ右足ニ引付ケ更ニ右足ヲ開キテ後鎖ヲ外シ右足ヲ左足ニ引付ケ更ニ右足ヲ後方ニ開キ「カラン」ヲ開キ右足ヲ舊ニ復シテ停止ス

第三消防員ハ第二消防員ト同時ニ之ト左右反對ノ動作ヲナス

六、放水備方始メ

第一消防員ハ第一搖桿手ノ補助ヲ得テ吸管ヲ結合シ吸口前ニ停止ス第一搖桿手ハ其ノ場ニ後向ヲナス

右方搖桿手ハ一齊ニ吸管ニ跨キテ之ヲ結合シ終レバ吸管ノ右ニ出テ第一、第二、第三消防員ハ左向ヲナシ駢足ニテ水管理ヲ擴メ擴メ終レバ捻ヲ直シ第二消防員ハ右向ヲナシ停止シ第三消防員ハ直チニ左手ニテ口端ヲ握リ右手ハ管槍ノ下部ヲ持シ右足ヲ一步後方ニ引キ火點ニ位置ヲ定ムルモノトス

右方搖桿手ハ一齊ニ行進ヲ起シ第一搖桿手ハ前方木挺左端ノ内側ニ著ク

同第二搖桿手ハ第一搖桿手ト向合ヒテ前木挺ノ左端ニ著ク

第三搖桿手ハ前木挺ノ中央ニ著ク

第五搖桿手ハ前木挺右端外側ニ著ク

第四搖桿手ハ前木挺ノ右端内側ニ著ク

左方第四搖桿手ハ左向ヲナシ第一消防員ノ後方ヲ通過シ後方木挺ノ右内側ニ著ク同第三搖桿手ハ右向ヲナシ前進シ後方木挺ノ左内側ニ著ク

同第二搖桿手ハ右向更ニ右向ヲナシ前進シ後方木挺右端ニ著ク

八、始メ——

第三消防員ヨリ第二第一消防員ニ復唱ス搖桿手ハ第一消防員ノ復唱ヲ待チテ前木挺ヨリ運轉ヲ開始ス

九、止メ——

前同様復唱ス

一〇、放水備方——崩セ

第一消防員ハ上體ヲ俯シテ吸口ノ結合部ヲ外シ右方第四搖桿手ノ補助ニ依リ六十糎（二尺）後退シテ地上ニ置ク

第二消防員ハ第一第二水管ノ結合部ヲ外シ後方二米（六尺六寸）ノ地點ニ停止ス

第三消防員ハ管槍ヲ少シク左方ニ傾ケツ、右向ヲナシ右足ニテ水管ヲ踏ミ右手ヲ添ヘテ管槍ヲ水管ヨリ取外シ右脇下ニ挾持シ停止ス

四搖桿手ハ塵除機ヲ水中ニ入レ第一、第三搖桿手ト共ニ廻レ右ヲナシ唧筒ニ面シ停止ス

第二消防員ハ左手ニテ第二水管ヲ取り右手ヲ添ヘテ水槽ヨリ出シ左足ヲ一步右足ノ後方ニ開キツ、左向ヲナシ右足ヲ引付ケ更ニ一步左ニ開キテ之ヲ開キ螺旋廻ヲ左手ニ持チテ停止ス

第三消防員ハ水槽ヨリ管槍ヲ取出シ右脇下ニ挾持シ前進シ第二消防員ノ一步前ニ至リテ第二消防員ト結合シ左手ニ管槍ヲ立テ、持シ右手ニ水管ヲ持チテ停止ス

左方第五搖桿手ハ木挺ヲ水平ニ持チ直シ前進シ挺鐵ニ付兩足ヲ開キテ之ヲ締メ終レバ足ヲ舊位ニ復シ木挺ヲ約二十四糎（八寸）壓下シ停止ス

同第四搖桿手ハ木挺ヲ水平ニ持チ直シ三步前進シ右向ヲナシ第五搖桿手ト同一要領ニテ之ヲ取付ケ其ノ儘停止ス

同第三搖桿手ハ唧筒臺盤ニアル螺旋廻ヲ取り腹掛ニ入レ水槽ノ左方ニ至リ左手ニテ第一水管ヲ取り右手ヲ添ヘテ水槽ヨリ取出シ左足ヲ一步右足ノ後方ニ開キツ、左向ヲナシ其ノ結合部ヲ放口ニ向ケ之ヨリ十五糎（五寸）ヲ距テ、置キ左手ニテ螺旋廻ヲ取りテ第二搖桿手ニ渡シ螺旋ヲ取りテ水管ニ跨リツ、右向ヲナシ唧筒ニ面シ水管ヲ放口ニ結合シ停止ス

同第二搖桿手ハ前進シ第三搖桿手ヨリ螺旋廻ヲ取り第一第二水管ノ結合部ヲ終レハ螺旋廻シト共ニ第二消防員ニ渡シ其ノ場ニ停止ス

同第一搖桿手ハ前進シ第二第三搖桿手ノ間ヲ通過シ後方木挺ノ左端ニ著ク

七、水管——擴メ

第一消防員ハ其ノ場ニ停止ス

〔靜岡令〕

第二、第三消防員ハ左向ヲナシ駢足ニテ水管理ヲ擴メ擴メ終レバ捻ヲ直シ第二消防員ハ右向ヲナシ停止シ第三消防員ハ直チニ左手ニテ口端ヲ握リ右手ハ管槍ノ下部ヲ持シ右足ヲ一步後方ニ引キ火點ニ位置ヲ定ムルモノトス

右方搖桿手ハ一齊ニ行進ヲ起シ第一搖桿手ハ前方木挺左端ノ内側ニ著ク

同第二搖桿手ハ第一搖桿手ト向合ヒテ前木挺ノ左端ニ著ク

第三搖桿手ハ前木挺ノ中央ニ著ク

第五搖桿手ハ前木挺右端外側ニ著ク

第四搖桿手ハ前木挺ノ右端内側ニ著ク

左方第四搖桿手ハ左向ヲナシ第一消防員ノ後方ヲ通過シ後方木挺ノ右内側ニ著ク同第三搖桿手ハ右向ヲナシ前進シ後方木挺ノ左内側ニ著ク

同第二搖桿手ハ右向更ニ右向ヲナシ前進シ後方木挺右端ニ著ク

八、始メ——

第三消防員ヨリ第二第一消防員ニ復唱ス搖桿手ハ第一消防員ノ復唱ヲ待チテ前木挺ヨリ運轉ヲ開始ス

九、止メ——

前同様復唱ス

一〇、放水備方——崩セ

第一消防員ハ上體ヲ俯シテ吸口ノ結合部ヲ外シ右方第四搖桿手ノ補助ニ依リ六十糎（二尺）後退シテ地上ニ置ク

第二消防員ハ第一第二水管ノ結合部ヲ外シ後方二米（六尺六寸）ノ地點ニ停止ス

第三消防員ハ管槍ヲ少シク左方ニ傾ケツ、右向ヲナシ右足ニテ水管ヲ踏ミ右手ヲ添ヘテ管槍ヲ水管ヨリ取外シ右脇下ニ挾持シ停止ス

右方第四搖桿手ハ右向ヲナシ前進シ塵除器ヲ水中ヨリ出シ第一消防員ノ吸管ヲ吸口ヨリ外スヲ待チテ二尺後方ニ引キ停止ス
 他ノ右方搖桿手ハ左向ヲナシ一齊ニ行進シ唧筒卸方始メノ位置ニ付吸管ニ跨リテ結合部ヲ外シ吸管ヲ卸シタル時ノ位置ニ停止ス
 左方第一、第二搖桿手ハ左向ヲナシ前進シ集リタル時ノ位置ニ復ス
 同第五搖桿手ハ後方木挺ヲ取り兩手ニテ水平ニ持シ一歩後退シ右手ニ木挺ヲ立テ停止ス
 同第四搖桿手ハ左向ヲナシ更ニ左向ヲナシテ前進シ前方木挺ヲ取り兩手ニテ水平ニ持シ右向ヲナシ三歩前進シ廻レ右ヲナシ木挺ヲ立テ右手ニ把持シ停止ス
 一、水管ノ水ヲ出セ

- 一、消防員ハ右向ヲナシ前進前方挺鑽前ニ至リ前鎖ヲ掛ケ終レバ兩手ヲ以テ第三消防員ノ後鎖ヲ掛ケ補助ヲナス
- 二、消防員ハ第二水管ヲ取り兩手ヲ肩ノ廣サニ伸バシ其ノ掌ヲ上ニシ左足ヲ開クト同時ニ右手ハ肩ヨリ六十度高ク上ゲ左手ハ其ノ掌中ニ水管ヲ滑走セシメツ、肩ヨリ四十度低ク伸右足ヲ左足ニ引付ケ順次同一方法ヲ繰返シ左方ニ進ミ管中ノ水ヲ流下ス次ニ水管ヲ四ツ折又ハ八ツ折トナシ其ノ螺旋部ヲ右方ニシテ兩手ニ把持シ駆足ニテ放口前十五糎(五寸)ノ地點ニ至リ之ヲ水槽内ニ納メカラシメ廻シテ停止ス
- 三、消防員ハ前進シ管槍ヲ右側水槽ニ入レ後鎖ヲ掛ケ右向ヲナシ前進シ右足ヲ一歩後方ニ引キカラシメ廻シ右足ヲ引付ケ停止ス
- 左方第三搖桿手ハ第一水管ノ放口結合部ヲ外シ第二消防員ト同一要領ニテ管内ノ水ヲ出シ駆足ニテ水槽内ノ舊位ニ納メ螺旋廻ヲ第二消防員ニ渡シ集合時ノ位置ニ復ス
- 一、唧筒——積メ

〔靜岡令〕

第一消防員ハ兩掌ヲ上ニシ唧筒臺盤ノ前縁ヲ握リ唧筒ノ前部ヲ扛ケ六十五度ノ角度ヲ起タシメ前鐵把ノ位置ニ停止シ第一搖桿手ヨリ螺旋廻ヲ取りテ第三消防員ニ渡ス
 第二消防員ハ一歩前進シ前鐵把ヲ右手ニテ握リ唧筒ヲ第一、第三消防員ト協力腕骨ノ高サニ扛ケ鐵把ヲ左手ニ持替ヘツ、半右向ヲナシ右足ヲ一歩右方ニ開キ右手ヲ以テ水槽ノ縁ヲ握リ左向ヲナシツ、左足ヲ廣ク左方前面ニ開キ右肘ヲ屈シ左肘ヲ伸シ唧筒ヲ支持シ第一搖桿手ノ車ヲ付ケルヲ待チテ唧筒ヲ置キ第三消防員ト協力シテ車上ニ置キ第一搖桿手ノ轆木ヲ置クヲ待チテ螺旋廻ヲ第三消防員ニ渡ス
 第三消防員ハ左向ヲナシ二歩前進シ前鐵把ヲ右手ニテ握リ以下第二消防員ト共同動作ヲナシ唧筒ヲ積ミ終レバ右向ヲナシ唧筒ノ後方ニ至リ螺旋廻ヲ取り停止ス
 左方第一搖桿手ハ轆木前ニ進ミ轆臂ニ面シテ停止シ掌ヲ下ニ向ケ兩手ヲ以テ轆臂ノ左右ヲ握リ之ヲ腕骨ノ高サニ扛ケ唧筒ヲ車臺ニ登載シ得ヘキ度ヲ圓リツ、之ヲ押シ前進シ唧筒ノ下部ニ押込ミ第四項ニ於テ轆木ヲ肩ニ擔ヒタルト同一動作ニヨリ之ヲ擔ヒテ車輛ヲ支持シ第二、第三消防員ノ唧筒ヲ置クヲ待チテ右手ヲ放チ右足ヲ一歩後方ニ開キツ、右向ヲナスト同時ニ兩手ヲ以テ轆木ヲ上部ヨリ押ヘテ壓下シ轆臂ヲ地上ニ著カシメ左向ヲナシテ唧筒ニ面シ兩手ニテ鼻槍ヲ差シ終レバ轆臂ノ前ニ出テ停止ス
 右方搖桿手ハ順次第一搖桿手ニ螺旋廻ヲ渡シ第一搖桿手ハ之ヲ第一消防員ニ渡ス
 一三、吸管積メ
 第一消防員ハ第一吸管ヲ積ミ右向ヲナシ前進シ右轆臂ノ内側ニ入りテ停止ス

〔靜岡令〕

第二消防員ハ左向ヲナシ行進シ左轆臂ノ内側ニ入りテ停止ス
 第三消防員ハ車匣ノ蓋ヲ開キテ螺旋廻ヲ納ム
 右方第一搖桿手ハ第一消防員ト共同ニテ第一吸管ヲ積ミ右向ヲナシ前進シ集レノ位置ニ著ク
 同第二、第三搖桿手ハ第一消防員第一搖桿手第一吸管ヲ取りテ前進スルヲ待チテ第二吸管ヲ取りテ前進之ヲ積ミ終レバ右向ヲナシ行進シ集合位置ニ復ス
 同第四、第五搖桿手ハ第二、第三搖桿手ノ第二吸管ヲ取りテ前進スルヲ待チ第三吸管ヲ取りテ前進之ヲ積ミ終レバ右向ヲナシ舊位ニ復ス
 左方第四搖桿手ハ右向ヲナシ第一木挺ヲ兩手ニテ水平ニ持シ二歩前進シ車臺ノ延線ニ至リ之ヲ車ニ付ケ左向ヲナシ集合位置ニ復ス
 同第五搖桿手ハ第四搖桿手ノ木挺ヲ車ニ付ケ終ルヲ待チテ第四搖桿手ト同一要領ニテ第二木挺ヲ持シ斜左ニ前進車臺ノ延線ニ至リ之ヲ車ニ付ケ左向ヲナシ舊位ニ復ス

第三節 應急操法

- 一、集レ——
- 二、氣ヲ付ケ——
- 三、各員番號
- 四、急ギ備ヘ——
- 五、正員及搖桿手ハ前節第四、第五、第六、第七ノ各項ノ動作ヲナス
- 六、始メ——
- 前節第八項ノ動作ヲナス
- 七、止メ——
- 前節第九項ノ動作ヲナス
- 七、崩セ——

前節第十項以下各項ノ動作ヲナス
 第四節 行進法

- 一、集レ——
- 二、氣ヲ付ケ——
- 三、各員番號
- 四、轆木ヲ——扛ケ
- 第一、第二消防員ハ同時ニ兩手ヲ以テ轆臂ヲ握リ之ヲ腕骨ノ高サニ扛ケ
- 第三消防員ハ右手ヲ以テ水槽ノ左端上部ヲ握ル搖桿手ハ上體ヲ俯シ右方ハ左手ニ左方ハ右手ニ轆網ヲ持チ起立ス
- 五、唧筒前へ——進メ
- 六、唧筒右(左)へ——進メ
- 第三消防員ハ唧筒ニ從ヒテ行進ス
- 第一、第二消防員ハ半右方(半左方)ニ進ミツ、右方(左方)ニ旋廻シ搖桿手ハ右方(左方)ニ大廻リヲナシテ行進ス
- 七、唧筒半輪ニ右(左)へ進メ
- 第三消防員ハ唧筒ニ從ヒテ行進ス
- 第一、第二消防員ハ半右方(半左方)ニ進ミツ、右方(左方)ニ旋廻シ全ク背面向キトナリテ行進ス
- 搖桿手ハ右方(左方)ニ大廻リヲナシ全ク背面向トナリテ行進ス
- 八、唧筒——止レ
- 九、轆木——置ケ
- 第三消防員ハ右手ヲ放ツ
- 第一、第二消防員ハ上體ヲ俯シ靜ニ車頭ヲ地上ニ置キ第一消防員ハ第

三消防員ノ補助ニ依リ輓網ヲ轆轤ニ結束ス
搖桿手、輓網ヲ地上ニ置キ其ノ場ニ停止ス

第二章 瓦斯倫及蒸汽唧筒操法

第一節 總則

- 一、操縦スヘキ消防員ハ七名トシ唧筒ノ後方六尺ノ位置ニ整列ス
- 二、號令者ノ位置ハ唧筒ノ前方十五尺以上トス
- 三、吸管ハ三本放水ハ二放口トシ水管ハ二本連續トス
但シ放水一口ノ瓦斯倫唧筒ニ在リテハ人員五名トシ水管取扱者二名ヲ以テ水管車ヲ操縦ス
- 四、水管車ノ位置ハ唧筒ノ左方六尺ノ地點トス
- 五、動作ニシテ本章ニ定メサルモノハ總テ前章ニ準シ行フヘシ
- 六、唧筒若ハ附屬器具ノ構造異リテ本章ニ據リ難キモノハ凡テ本章ニ準シ斟酌シテ操縦スヘシ
- 七、操縦困難ノ唧筒ニ在リテハ補助員ヲ加フルコトヲ得

第二節 普通操法

- 一、集マレ——
消防員ハ駈歩ニテ唧筒ノ後方六尺ヲ距テタル一列横隊ニ集リ
- 二、氣ヲ付ケ——
第三消防員ハ唧筒ノ中央部ニ位置ス
- 三、番號——
四、右ヘ——準ヘ
- 五、直レ
- 六、定位ヘ——進メ
第一消防員ハ唧筒ノ右側ニ沿ヒテ行進シ轆木轆轤間ニ至リ轆轤ニ正面シテ停止ス

〔靜岡令〕

第二消防員ハ半右向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ右側前車軸ト後車軸トノ中間ニ停止シ左向ヲ爲シ唧筒ニ正面ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ唧筒ノ後部中央ヨリ一尺ノ位置ニ至リ停止ス

- 「蒸汽唧筒」ニ在リテハ汽缸ノ焚口前一尺ノ位置ニ至リ停止ス
- 第四消防員ハ半左向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ左側前車軸ト後車軸トノ中間ニ至リ停止シ右向ヲナシ唧筒ニ正面ス
- 第五消防員ハ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ行進シ轆木轆轤間ニ至リ轆轤ニ正面シテ停止ス
- 第六消防員ハ左向ヲ爲シテ行進シ水管車ノ轆木轆轤間ニ至リ轆轤ニ正面シテ停止ス
- 第七消防員ハ左向ヲ爲シテ行進シ水管車ノ後部ヲ通過シ轆木轆轤間ニ至リ轆轤ニ正面シテ停止ス

七、放水備ヘ方——始メ
第一消防員ハ左向ヲ爲シ上體ヲ俯シ轆木ヲ扛クルト共ニ直立シ左向ヲ爲シテ行進シ轆木ヲ唧筒臺ヨリ一部ニ折リテ寄リテ停止シ第五消防員ヨリ捻廻二個ヲ右手ニ受取り左向ヲ爲シ唧筒ニ沿ヒテ行進シ前車軸ノ位置ニ至リテ停止シ第二消防員ニ捻廻一個ヲ渡シ一個ハ之ヲ收メ右向ヲナシ唧筒ニ正面ス
第二消防員ハ右向ヲ爲シ第一消防員ヨリ捻廻一個ヲ受取りテ是ヲ收メ廻レ右ヲ爲シテ行進シ後車軸ノ位置ニ至リテ停止シ右向ヲ爲シ唧筒ニ正面ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ其ノ儘「蒸汽唧筒」ニ在リテハ「マツチ」ヲ取り出シ上體ヲ俯シ焚口ヲ開キテ點火シ火力ニ注意シツツ蒸汽ノ昇騰ヲ待チテ開轉充分ナリト認メタルトキハ氣笛一聲ヲ發ス

〔靜岡令〕

- 第四消防員ハ左向ヲ爲シ第五消防員ヨリ捻廻ヲ受取りテ是ヲ收メ廻レ右ヲ爲シテ行進シ後車軸ノ位置ニ至リテ停止シ左向ヲ爲シ唧筒ニ正面ス
- 第五消防員ハ右向ヲ爲シ上體ヲ俯シ兩手ニテ轆木ヲ扛クルト共ニ直立シ右向ヲ爲シテ行進シ轆木ヲ唧筒臺ヨリ上部ニ折リテ半右向ヲ爲シ前車軸ノ位置ニ至リテ停止シ左向ヲ爲シ匣内ヨリ捻廻四個ヲ取出シ二個宛兩手ニ持チテ左向ヲ爲シ左足ヲ一步踏ミ出シ第一消防員ニ二個ヲ渡シ左足ヲ舊位ニ復スト共ニ右向ヲ爲シ第四消防員ニ捻廻一個ヲ渡シ一個ハ之ヲ收メテ半左向ヲ爲ス
- 第六、第七消防員ハ轆木ヲ扛テ行進ノ準備ヲ爲ス

八、吸水管——著ケ

第一消防員ハ左足ヲ一步左方ニ開キ兩手ニテ吸管ノ革紐ヲ解キ第二消防員ノ補助ニ依リ第一吸管ノ軋螺旋口ヲ唧筒ニ對セシメ唧筒ノ吸口直下ノ地上ニ唧筒ト直角ニ置キ次ニ第二、第三吸管ヲ卸シ第一吸管ノ後方ニ順次並置シ其ノ食違ヒハ六寸トス、次ニ唧筒ニ面シ吸管ノ右側ニ沿ヒテ行進シ唧筒吸口ノ前一尺ノ位置ニ停止シ左足ヲ一步後方ニ開キ上體ヲ俯シ第一吸管ノ軋螺旋口ヲ取り是ヲ吸口ニ引寄セ左足ヲ舊位ニ復シツツ是ニ跨リ兩脚ニ挾持シツツ第二消防員ノ補助ニ依リ結合シ次ニ跨リタル吸管ヲ左足ニテ外シツツ右ニ廻リ吸管ニ沿ヒテ行進シ第二吸管ノ軋螺旋口ニ於テ右ニ廻リツツ左足ニテ第二吸管ニ跨リ兩脚ニ挾持シツツ第二消防員ノ補助ニ依リ第二吸管ヲ第一吸管ニ結合シ次ニ第三吸管ヲ第二吸管ニ於ケルト同様ノ動作ニ依リ結合シ跨リタル吸管ヲ左足ニテ外シツツ右ニ廻リ吸管ニ沿ヒテ行進シ塵除器ニ至リ停止シ是ヲ水中ニ投シ右向ヲ爲シ送水ニ支障無キ様注意ス
第二消防員ハ右足ヲ右方ニ開キ兩手ニテ吸管ノ革紐ヲ解キ第一消防員

ト協力シテ第一吸管ヨリ順次卸ス、次ニ唧筒ニ面シ吸管ノ後側ニ沿ヒテ行進シ第一吸管ノ中央ヨリ稍唧筒ニ近キ位置ニ停止シ吸管ヲ右手ニ挾持シ左手ヲ前方ニ添ヘテ右足ヲ一步後方ニ開キ上體ヲ俯シテ第一消防員ノ補助ヲ爲シ次ニ廻レ右ヲ爲シ第一吸管ノ軋螺旋口ニ至リテ停止シ左足ヲ開キテ吸管ニ跨リ第一消防員ト相對シ兩手ニ同吸管ヲ取り其ノ補助ヲ爲ス、次ニ跨リタル左足ヲ舊位ニ復シ吸管ノ後側ニ沿ヒテ行進シ第二吸管ノ軋螺旋口ニ至リテ停止シ左足ヲ開キテ吸管ニ跨リ前同様ニ第一消防員ノ補助ヲ爲シ終リテ左足ヲ舊位ニ復シ廻レ右ヲ爲シテ行進シ唧筒ヨリ一尺ノ位置ニ至リテ停止シ機關ニ面シ運轉ノ準備ヲ爲ス

第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ瓦斯倫ノ調節ヲ圖リテ舊位ニ復シ左足ヲ前方ニ出シ上體ヲ俯シテ兩手ニテ「ハンドル」ヲ回轉シ機關ノ空運轉ヲ爲スト共ニ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ前車輪ト後車輪トノ中間ニ至リ停止シ右向ヲ爲ス
「蒸汽唧筒」ニ在リテハ火力ニ注意ス
第四消防員ハ管槍備付箇所ニ至リテ管槍ヲ取り外シ右手ニ持チテ舊位ニ至リ唧筒ニ背面シテ停止シ是ヲ地上ニ置キ第六、第七消防員ノ牽出シ來レル水管車ノ後部ヨリ水管ノ軋螺旋口ヲ取外シ廻レ右ヲ爲シ左足ニテ水管ニ跨リ上體ヲ俯シテ唧筒ノ放口ト水管トヲ結合シ次ニ左足ヲ舊位ニ復シテ廻レ右ヲ爲シ管槍ヲ左手ニテ取上ケ水管車ノ行進ト共ニ進ミ水管車ノ停車シタルトキハ管槍ヲ右手ニ持チ替ヘテ地上ニ置キ左足ヲ一步出シテ上體ヲ俯シ水管車ヨリ水管ヲ取外シ軋螺旋口ノ腹部ニ當テテ直立シ第七消防員ト協力シテ管槍ト結合セシメ兩者相對シテ火點ニ向ヒ放水ノ準備ヲ爲ス
第五消防員ハ第六消防員ト協力シテ第四消防員ト同様ノ動作ヲ爲ス

第六消防員ハ第七消防員ト共ニ水管車ヲ牽出シテ右向前ヘテ爲シ唧筒ノ六尺前方ニ於テ半輪ニ右ヘテ爲シテ停止シ第四、第五消防員水管ヲ取外スト共ニ行進シ水管ノ終點ニ至リテ停止シ第四、第五消防員水管ヲ取外スト共ニ水管車ヲ右ニ向ケ六尺後進セシメテ停止シ轆木ヲ地上ニ置キ第五消防員ノ正面ニ至リ管槍ヲ取り上ケ水管ト結合シ兩者相對シテ火點ニ向ヒ放水ノ準備ヲ爲ス

第九、始メ
第二消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ機關ノ運轉ヲ補助ス「蒸汽唧筒」ニ在リテハ機關ノ運轉ヲ開始ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ左足ヲ一歩出シテ機關ノ運轉ヲ爲シ左足ヲ舊位ニ復シ機關ノ運轉ニ注意ス
「蒸汽唧筒」ニ在リテハ汽笛短聲二聲ヲ發シ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ前車軸ト後車軸ノ中央ニ至リ第二消防員ト對立シテ機關運轉ノ補助ヲ爲シ舊位ニ復シ火力ニ注意ス

第十、止メ
第一消防員ハ左向ヲ爲シ塵除器ヲ水中ヨリ取出シ廻レ右ヲ爲シ第三吸管ノ下部ヲ越ヘテ塵除器ヨリ三尺上方ニ於テ唧筒ニ面シ停止ス
第二消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ機關ノ運轉中止ノ補助ヲ爲ス
「蒸汽唧筒」ニ在リテハ機關ノ運轉ヲ中止ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ左足ヲ出シテ運轉ヲ休止セシメ瓦斯倫ノ閉止ヲ爲シ左足ヲ舊位ニ復ス
「蒸汽唧筒」ニ在リテハ汽笛短聲三聲ヲ發シ焚口戸扉ヲ開キ燃燒物ヲ取出シ運轉ヲ休止セシム
第四消防員ハ其ノ儘

〔警同令〕

第五消防員ハ其ノ儘
第六消防員ハ其ノ儘
第七消防員ハ其ノ儘

第十一、放水備方崩セ——始メ
第一消防員ハ半右向ヲ爲シ上體ヲ俯シテ第三吸管ヲ兩手ニ持チ第二消防員ノ吸口ヨリ吸管ヲ取外スヲ待チテ是ヲ後部ニ去ラシメ地上ニ置キ右足ヨリ吸管ヲ越ヘテ吸管ノ前側ニ停止ス
第二消防員ハ吸管ヲ右足ニテ跨リ吸口ヨリ吸管ヲ取外シ地上ニ置キ右足ヲ舊位ニ復ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ第一放口ノ水管ニ跨リテ上體ヲ俯シ水管ノ結合部ヲ取外シテ地上ニ置キ更ニ第二放口ヨリ水管ヲ取外シテ地上ニ置キ其ノ儘直立ス

「蒸汽唧筒」ニ在リテハ左向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ行進シ前車軸ト後車軸トノ中間ニ至リテ停止シ右向ヲ爲シ第一放口ノ水管ニ跨リ上體ヲ俯シ水管ノ結合部ヲ取外シテ地上ニ置キ更ニ第二放口ヨリ水管ヲ取外シテ地上ニ置キ其ノ儘直立ス
第四消防員ハ第七消防員ト協力シ管槍ト水管トノ結合ノ際ヲ兩手ニ持チテ腹部ニ當テ管槍ヲ取外シ次ニ右手ニ水管ヲ持チテ直立ス
第五消防員ハ第六消防員ト協力シテ第四消防員ト同一ノ動作ヲ爲ス
第六消防員ハ管槍ヲ持チ第五消防員ト協力シテ水管ヨリ取外シ是ヲ地上ニ置キ水管車ノ轆木ノ位置ニ至リ停止ス
第七消防員ハ第六消防員ト同一ノ動作ヲ爲ス

第十二、吸水管——積メ

第一消防員ハ吸管ニ沿ヒテ唧筒ノ位置ニ行進シ第一、第二吸管ノ結合部ヲ一歩通過シタル地點ニ於テ左ニ廻リツツ右足ヲ開キ吸管ニ跨リ第

〔警同令〕

二消防員ニ相對シ兩脚ニ第一吸管ヲ挾持シ兩手ニテ其ノ結合部際ヲ握リ第二消防員吸管取外ノ補助ヲ爲ス次ニ吸管ニ跨リタル右足ヲ外シツツ行進シ第二、第三吸管ノ結合部一歩前ニ於テ右足ヲ開キ是ニ跨リ前同様吸管取外ノ補助ヲ爲シ次ニ吸管ニ跨リタル右足ヲ外シツツ行進シ第三吸管塵除器際ニ至リ兩手ニテ吸管ヲ握リ第二消防員ト協力シテ是ヲ唧筒ニ積込ミ同様に第二、第一吸管ヲ順次積込ミ次ニ前車軸ノ地點ニテ唧筒ニ面シテ停止シ捻廻リ第二消防員ヨリ受取りテ右向ヲ爲シ唧筒ニ沿ヒテ轆木折扛ノ箇所ヲ過キタル位置ニテ停止シ左向ヲ爲シ第五消防員ニ捻廻リ二個ヲ渡シ更ニ左向ヲ爲シテ行進シ舊位ニ至リテ停止シ唧筒ニ正面ス

第二消防員ハ廻レ右ヲ爲シ唧筒ニ背面シテ行進シ第一、第二吸管ノ結合部ヲ一歩通過シタル地點ニ於テ左ニ廻リツツ右足ニテ吸管ニ跨リ第一消防員ト相對シ兩脚ニ第二吸管ヲ挾持シ兩手ニテ其ノ結合部際ヲ握リ第一消防員ノ補助ニ依リ吸管ヲ取外シ次ニ吸管ニ跨リタル右足ヲ外シツツ左ニ廻リ吸管ニ沿ヒテ行進シ第二、第三吸管ノ結合部一歩通過シタル地點ニ於テ左ニ廻リツツ是ニ跨リ前同様ニ吸管ヲ取外シ次ニ右足ヲ外シ第三吸管ノ軋螺旋際ニ面シ兩手ニテ吸管ヲ握リ第一消防員ト協力シテ是ヲ唧筒ニ積込ミ同様に第二、第一吸管ヲ順次積込ミ次ニ前車軸ト後車軸トノ中央ニ至リテ停止シ第一消防員ニ捻廻リ渡シ左向ヲ爲シテ後車軸ノ位置ニ至リテ停止シ唧筒ニ面ス

第三消防員ハ左向ヲ爲スト共ニ左足ヲ一歩後方ニ開キ上體ヲ俯シテ兩水管ノ結合部ヲ押ヘ水ノ流出ニ注意シ第四、第五消防員ノ到着シタルトキハ水管ヨリ兩手ヲ放シテ直立スルト同時ニ廻レ右ヲ爲シ唧筒ノ後方ニ沿ヒテ中央ニ至リ停止シ左向ヲ爲ス
第四消防員ハ第六、第七消防員ノ牽出シ來レル水管車後部ニ面シタル

第五消防員ハ其ノ儘
第六消防員ハ其ノ儘
第七消防員ハ其ノ儘

第十一、放水備方崩セ——始メ
第一消防員ハ半右向ヲ爲シ上體ヲ俯シテ第三吸管ヲ兩手ニ持チ第二消防員ノ吸口ヨリ吸管ヲ取外スヲ待チテ是ヲ後部ニ去ラシメ地上ニ置キ右足ヨリ吸管ヲ越ヘテ吸管ノ前側ニ停止ス
第二消防員ハ吸管ヲ右足ニテ跨リ吸口ヨリ吸管ヲ取外シ地上ニ置キ右足ヲ舊位ニ復ス
第三消防員ハ「瓦斯倫唧筒」ニ在リテハ第一放口ノ水管ニ跨リテ上體ヲ俯シ水管ノ結合部ヲ取外シテ地上ニ置キ更ニ第二放口ヨリ水管ヲ取外シテ地上ニ置キ其ノ儘直立ス

「蒸汽唧筒」ニ在リテハ左向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ行進シ前車軸ト後車軸トノ中間ニ至リテ停止シ右向ヲ爲シ第一放口ノ水管ニ跨リ上體ヲ俯シ水管ノ結合部ヲ取外シテ地上ニ置キ更ニ第二放口ヨリ水管ヲ取外シテ地上ニ置キ其ノ儘直立ス
第四消防員ハ第七消防員ト協力シ管槍ト水管トノ結合ノ際ヲ兩手ニ持チテ腹部ニ當テ管槍ヲ取外シ次ニ右手ニ水管ヲ持チテ直立ス
第五消防員ハ第六消防員ト協力シテ第四消防員ト同一ノ動作ヲ爲ス
第六消防員ハ管槍ヲ持チ第五消防員ト協力シテ水管ヨリ取外シ是ヲ地上ニ置キ水管車ノ轆木ノ位置ニ至リ停止ス
第七消防員ハ第六消防員ト同一ノ動作ヲ爲ス

第十二、吸水管——積メ

第一消防員ハ吸管ニ沿ヒテ唧筒ノ位置ニ行進シ第一、第二吸管ノ結合部ヲ一歩通過シタル地點ニ於テ左ニ廻リツツ右足ヲ開キ吸管ニ跨リ第

トキハ左足ヲ一歩前ニ開キ上體ヲ俯シテ水管ヲ水管車ニ取付ケ左足ヲ舊位ニ復シ右手ニ管槍ヲ取上ケ廻レ右ヲ爲シ水管車ノ唧筒ニ行進スルニ隨ヒ水管ヲ左手ニ持チ順次唧筒ニ向ヒ行進シ唧筒ヨリ一尺ノ位置ニ停止シ廻レ右ヲ爲シテ管槍ヲ地上ニ置キ水管ノ軋螺旋口ヲ取上ケ水管車ニ緊結シ管槍ヲ取上ケ廻レ右ヲ爲シ管槍備付場所ニ至リ是ヲ收メテ舊位ニ復シ第五消防員ニ捻廻リ渡シ廻レ右ヲ爲シ唧筒ノ後車軸ノ位置ニ停止シ唧筒ニ面ス
第五消防員ハ第四消防員ト同一ノ動作ヲ爲シ唧筒ノ前車軸ノ位置ニ停止シテ第四消防員第一消防員ヨリ捻廻リ受取り是ヲ匣内ニ收メ舊位ニ復シ唧筒ニ面ス

第六消防員ハ第七消防員ト共ニ轆木ヲ扛ケテ牽出シ第四、第五消防員ノ前方ニ行進シ水管車ヲ左ニ向ケ後部ヲ唧筒ニ對シメテ左向ヲ爲シツツ第四、第五消防員ト水管車ノ後部ト接近スル迄後退シ第四、第五消防員水管ノ軋螺旋口ヲ水管車ニ緊結シ終レハ轆木ヲ第七消防員ニ託シ右向ヲ爲シ轆木ニ沿ヒテ前側ニ至リ水管車ニ正面シ轆木ノ腹部ニ當テ水管ノ卷キ付クニ隨ヒテ行進シ唧筒ヨリ三尺ノ位置ニ至リテ停止シ第四、第五消防員水管ノ軋螺旋口水管車ニ緊結シ終レハ再ヒ轆木ヲ第七消防員ニ託シ轆木ノ内部ニ至リ第七消防員ト協力シテ是ヲ牽出シ水管車ヲ舊位置ニ復シメテ轆木ヲ置キ停止ス
第七消防員ハ第六消防員ト共ニ轆木ヲ扛ケテ牽出シ第四、第五消防員ノ前面ニ行進シ水管車ヲ左ニ向ケ後部ヲ唧筒ニ對シメテ右向ヲ爲シツツ第四、第五消防員ト水管車ノ後部ト接近スル迄後退シ第四、第五消防員水管ノ軋螺旋口ヲ水管車ニ緊結シ終レハ第六消防員ノ轆木ニ至ルヲ待チ轆木ヨリ離レ右向ヲ爲シ一歩前進シ水管車ノ行進ニ隨ヒ水管車ヲ爲シツツ行進シ唧筒ヨリ三尺ノ位置ニ至リ停止シ水管軋螺旋口

ヲ緊結シ終レハ廻レ右ヲ爲シ一步進ミテ轆木ヲ持チ第六消防員轆木ノ内部ニ至ルヲ待チテ共ニ行進シ水管車ヲ舊位ニ復セシメテ轆木ヲ置キ停立ス

十三、定位へ——進メ

第一消防員ハ右向ヲ爲シ唧筒ニ沿ヒテ轆木折扛ケノ位置ニ至リテ停立シ轆木ヲ折下ケツツ右向ヲ爲シテ前進シ轆臂ニ至リテ停立ス
第二消防員ハ右向ヲ爲シ唧筒ノ前車軸ト後車軸トノ中央ニ停立シ左向ヲ爲ス
第三消防員ハ其ノ儘

第四消防員ハ左向ヲ爲シ唧筒ノ前車軸ト後車軸トノ中央ニ停立シ右向ヲ爲ス
第五消防員ハ左向ヲ爲シ唧筒ニ沿ヒテ轆木折扛ケノ位置ニ至リテ停立シ轆木ヲ折下ケツツ左向ヲ爲シテ前進シ轆臂ニ至リテ停立ス

第六消防員ハ其ノ儘
第七消防員ハ其ノ儘

十四、車ノ後へ——進メ

第一消防員ハ廻レ右ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ右側ニ沿ヒテ舊位ニ至リテ停立シ廻レ右ヲ爲ス
第二消防員ハ左向ヲ爲シテ行進シ第一消防員ノ左側ニ至リ停立シ廻レ右ヲ爲ス
第三消防員ハ廻レ右ヲ爲シテ行進シ第二消防員ノ左側ニ至リ停立シ廻レ右ヲ爲ス
第四消防員ハ右向ヲ爲シテ行進シ第三消防員ノ左側ニ至リ停立シ廻レ右ヲ爲ス
第五消防員ハ廻レ右ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ第四消防員ノ

左側ニ至リ停立シ廻レ右ヲ爲ス
第六消防員ハ廻レ右ヲ爲シ半左向ヲ爲シテ行進シ舊位ニ復ス
第七消防員ハ廻レ右ヲ爲シ半右向ヲ爲シテ行進シ舊位ニ復ス

第三節 應急操法

一、集マレ——

二、氣ヲ付ケ

三、番號

四、右へ——準へ

五、直レ

六、定位へ——進メ

以上各項ハ前節第一項乃至第六項ノ動作ニ同シ

七、急キ備へ——

八、始メ——

九、止メ——

一〇、崩セ——

一一、積メ——

一二、車ノ後へ——進メ

前節第十四項ノ動作ニ同シ

第四節 行進法

一、集マレ——

〔靜岡令〕

向、後列ハ右向ヲ爲シテ相對峙ス

七、轆木折ケ

第一、第五消防員ハ兩手ヲ以テ轆臂ヲ握リ是ヲ腕骨ノ高サニ上ケ輓出ス準備ヲ爲ス
第二消防員ハ右向ヲ爲シ第四消防員ハ左向ヲ爲ス
第六、第七消防員ハ水管車ノ轆臂ヲ握リ是ヲ腕骨ノ高サニ上ケ輓出ノ準備ヲ爲ス

唧筒牽出員ハ一齊ニ上體ヲ俯シ前列員ハ左手ニ後列員ハ右手ニ輓網ヲ持チ起立スルト同時ニ前列員ハ右向、後列員ハ左向ヲ爲シ前進ノ準備ヲ爲ス

八、唧筒前へ——進メ

各消防員ハ一齊ニ左足ヨリ行進ヲ始メ水管車ハ唧筒ノ後方ニ隨ヒテ行進ス

九、唧筒右へ(左へ)——進メ

第一、第五消防員ハ半右方(半左方)ニ進ミツツ右方(左方)ニ旋廻シ第二、第三、第四消防員ハ其ノ儘唧筒ノ行進スル方向ニ行進シ唧筒牽出員ハ右方(左方)ニ大廻ヲ爲シテ行進ス水管車ハ是ニ倣フ

十、唧筒半輪ニ右(左)へ——進メ

第一、第五消防員ハ半右方(半左方)ニ進ミツツ右方(左方)ニ旋廻シ全ク背面向トナリテ行進シ第二、第三、第四消防員ハ其ノ儘唧筒ノ行進スル方向ニ進ミ、唧筒牽出員ハ右方(左方)ニ大廻ヲ爲シ全ク背面向トナリテ行進ス水管車ハ是ニ倣フ

十一、唧筒止レ

各員其ノ儘停立ス

十二、轆木——置ケ

消防員ハ駆歩ニテ唧筒車ノ後方六尺ヲ距テヌル一線上ニ集リ唧筒牽出員ハ二列横隊ニ編成シ消防員整頓線ノ後方三尺ヲ距テテ整列ス
二、氣ヲ付ケ——
三、番號
四、右へ——準へ
五、直レ
六、定位へ——進メ
第一消防員ハ其ノ儘行進シテ唧筒ノ右側ニ沿ヒ轆木ノ所ニ至リ轆臂ニ正面シテ停立シ輓網ヲ解キ前方ニ投ス
第二消防員ハ半右向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ右側前車軸ト後車軸トノ中間ノ位置ニテ停止シ左向ヲ爲シ唧筒ニ面ス
第三消防員ハ其ノ儘行進シ唧筒ノ後部汽罐口前方一尺ノ位置ニ停立ス
其四消防員ハ半左向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ左側前車軸ト後車軸トノ中間ノ位置ニ停立シ右向ヲ爲シ唧筒ニ面ス
第五消防員ハ其ノ儘行進シ唧筒ノ左側ニ沿ヒ轆木ノ位置ニ至リ轆臂ニ正面シテ停立シ輓網ヲ第一消防員ト共ニ解キ前方ニ投スル補助ヲ爲ス
第六消防員ハ左向ヲ爲シ第七消防員ノ後ヲ追ヒテ行進シ水管車ノ後部右側車輪ノ位置ニ至リテ右向ヲ爲シツツ水管車ノ轆木ノ位置ニ至リ轆臂ニ正面シテ停立ス
第七消防員ハ左向ヲ爲シテ行進シ水管車ノ後部左側車輪ノ位置ニ至リテ右向ヲ爲シツツ水管車ノ轆木ノ位置ニ至リ轆臂ニ正面シテ停立ス
唧筒牽出員ノ前列ハ右向ヲ爲シ後列ハ左向ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ側面ヲ通過シ轆臂ノ前方相當ノ距離ヲ距テヌル一線上ニ停立シ前列ハ左

第一、第五消防員ハ同時ニ上體ヲ俯シ車頭ヲ地上ニ置キ第一消防員ハ第五消防員ノ補助ニ依リ輾綱ヲ輾臂ニ結束シ其ノ位置ニ停止ス

第十三、車ノ後へ——進メ

第一消防員ハ廻レ右ヲ爲シテ行進シ唧筒ノ右側ニ沿ヒテ舊位ニ至リ停止シ廻レ右ヲナス
第二消防員ハ左向ヲ爲シテ行進シ第一消防員ノ左側ニ至リ停止シ廻レ右ヲ爲ス
第三消防員ハ廻レ右ヲ爲シテ行進シ第二消防員ノ左側ニ至リ停止シ廻レ右ヲ爲ス
第四消防員ハ右向ヲ爲シテ行進シ第三消防員ノ左側ニ至リ停止シ廻レ右ヲ爲ス
第五消防員ハ廻レ右ヲ爲シ唧筒ノ左側ニ沿ヒテ行進シ第四消防員ノ左側ニ至リ停止シ廻レ右ヲ爲ス
第六消防員ハ廻レ右ヲ爲シ半左向ヲ爲シテ行進シ水管車ノ車軸ノ位置ヨリ半右向ヲ爲シテ行進シ左向前ヘヲ爲シ第五消防員ノ左側ニ至リテ停止シ左向ヲ爲ス
第七消防員ハ廻レ右ヲ爲シ半右向ヲ爲シテ行進シ水管車ノ車軸ノ位置ヨリ半左向ヲ爲シテ行進シ左向前ヘヲ爲シ第六消防員ノ左側ニ至リテ停止シ左向ヲ爲ス
唧筒牽出員ハ前列員ハ左向、後列員ハ右向ヲ爲シテ行進シ車後整列位

〔静岡令〕

置ニ就ク

火災場取締規則

明治三十一年十一月八日 静岡縣令第六十一號

改正 大正七年縣令第二五號
火災場取締規則左ノ通相定ム
但明治十八年十二月本縣甲第百十三號布達ハ本則實施ノ日ヨリ廢止ス

火災場取締規則

第一條 火災アルトキハ其場所ヨリ方二丁乃至三丁以内ノ地ニ於テ適宜非常線ヲ區畫シ第四條ニ列記シタルモノノ外線内ニ入ルヲ遮斷ス
第二條 非常線内ニ在ル家屋ハ可成門戸ニ點燈ヲナシ屋根ニ楮梯、箆、水ヲ盛りタル桶等ヲ備ヘ火粉ノ消滅ニ便スヘシ
第三條 (削除)
第四條 左ニ記載シタルモノハ守線警察官吏ニ其氏名ヲ告ケ郵便電信集配人ニシテ其集配ニ從事スルモノハ氏名ヲ告グルヲ要セス其線内ニ入ルコトヲ得
一 線内ニ家屋ヲ有シ又ハ住居スル者
二 同上ノ親戚知人若クハ其雇人ニシテ救援ヲナサントスル者
三 線内ノ官公衙等ニ奉仕シ又ハ公用ヲ帶タル者
四 電氣其他線内ニ施設シアル事業ノ係員
五 醫師及産婆
六 大工左官ニシテ線内ニ職業場アル者
第五條 第四條ノ事項ヲ詐稱シテ非常線内ニ入りタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

水防委員設置規程

明治四十五年七月十九日 静岡縣令第七十六號

改正 大正六年縣令第三〇號、昭和三年第二六號
水防委員設置規程左ノ通定メ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水防委員設置規程

第一條 水防委員ハ河川法施行ノ河川並河川法ヲ準用シタル河川ニ於ケル洪水防禦ノ爲之ヲ設置ス
第二條 水防委員ハ水防本部長、水防本部長、水防監視員、水防區委員長、水防區副委員長、水防本部長、水防區委員トナシ水防本部又ハ水防區ニ屬スルモノトス
第三條 水防本部長ハ内務部長、水防本部長ハ警察部長、水防監視員ハ地方課長、土木課長、保安課長、土木事務ニ關係アル技師ヲ以テ之ニ充ツ水防區委員長及水防區副委員長ハ當該水防區所轄ノ警察署長、土木出張所長中ヨリ知事之ヲ任命ス
水防本部長、水防區委員ハ警部、警部補及土木事務ニ關係アル技師、土木職員ノ中ニ就キ、水防區委員ハ警部警部補ノ中ニ就キ知事之ヲ任命ス土木出張所長中ヨリ知事、土木職員ハ關係水防區ニ於ケル水防區委員タルモノトス
必要アル場合ハ前二項以外ノ官吏職員ニ水防區委員ヲ命スルコトアルヘシ
第四條 左ノ水防委員ニハ河川法第二十三條第一項第二項ニ據ル權限ヲ委任ス
一 水防本部長
二 水防本部長
第十三編 警察 第二章 保安

〔静岡令四三號〕

水防監視員

水防區委員長

水防區副委員長

第五條 水防本部長事務所ハ縣廳内ニ之ヲ置キ水防區事務所ハ左ノ水防區内適宜ノ場合ニ水防區委員長必要ノ都度之ヲ定メ直ニ本部長ニ報告スヘシ

水防區	管轄河川名	關係郡市名
第一水防區	狩野川	田方郡
第二水防區	狩野川	駿東郡
第三水防區	富士川東岸、潤井川	富士郡
第四水防區	富士川西岸	庵原郡
第五水防區	安倍川、藥科川	靜岡市
第六水防區	大井川東岸、瀬戸川	志太郡
第七水防區	大井川西岸	榛原郡
第八水防區	菊川、原野谷川	小笠郡
第九水防區	太田川	周智郡
第十水防區	天龍川東岸、太田川、原野谷川	磐田郡
第十一水防區	天龍川西岸	濱名郡

第六條 削除

第七條 各水防區事務所ノ開閉ハ水防區委員長之ヲ命シ直ニ水防本部長ニ所屬水防委員ニ通報スヘシ但シ水防本部長必要アリト認ムルトキハ其ノ開閉ヲ命スルコトアルヘシ

●水防委員職務規程

明治四十五年七月十九日 靜岡縣訓令甲第五十四號

修正 大正六年訓令甲第一二號、昭和三年第五號

〔内務部〕 警察部 市役所 警察署 土木出張所 町村役場 水害豫防組合

水防委員職務規程左ノ通定ム

水防委員職務規程

第一條 水防本部長ハ水防委員ヲ指揮監督シ水防事務ヲ統理ス 水防本部長ハ本部長ヲ補佐シ本部長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス 水防監視員ハ水防區ヲ巡視シ水防區委員長ト協議シテ防禦上必要ナル處置ヲ爲スモノトス

〔靜岡令四三號〕

〔靜岡令〕

水防區委員長ハ其ノ管轄區内公共團體ノ水防員ヲ指揮監督シテ水防事務ヲ掌理ス

水防區副委員長ハ水防區委員長ヲ輔佐シ水防區委員長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

水防本部長ハ水防本部長ノ指揮ニ從ヒ水防事務ニ從事ス

水防區委員ハ水防區委員長ノ指揮ニ從ヒ其ノ區内ノ水防事務ニ從事ス

第二條 水防委員ハ出水ノ虞アルトキハ晝夜ヲ論セス出發ノ準備ヲ整ヘ其ノ命ヲ待ツヘシ

第三條 出水又ハ其ノ虞アルトキハ水防區委員長ハ水防委員ヲ適當ニ部署シテ急派セシメ其ノ旨水防本部長ヘ報告スヘシ

第四條 水防委員設置規程第四條ニ依リ洪水防禦ノ權限ヲ有スル官吏ニ於テ河川法第二十三條第二項ノ命令ヲ發スルトキハ文書ヲ以テ之ヲ交付スヘシ

第五條 河川法第二十三條ノ命令ヲ發シタル者ハ直ニ水防本部長ニ報告スヘシ

第六條 水防委員ノ分擔事項概ネ左ノ如シ

- 一 土木技術員タル委員ハ主トシテ水防作業ニ關スルコト
- 二 警察官タル委員ハ主トシテ人夫ノ取締家屋其ノ他障害物ノ破毀處分並ニ水量其ノ他ノ報告通信ニ關スルコト
- 三 屬、土木職員タル委員ハ主トシテ土地ノ使用材料器具ノ徵收並ニ夫役集配ニ關スルコト
- 前項分擔ノ委員現場ニ在ラサルトキハ他ノ委員ハ便宜臨機ノ處置ヲ爲スヘシ
- 第七條 水防委員ハ擔任區域外ト雖危險切迫ノ狀アルトキハ相互ニ援助ヲ爲スヘシ

第八條 擔任區域ノ水防委員ハ左ノ場合ニ遭遇シタルトキハ直ニ之ヲ水防區委員長ニ報告シ水防區委員長ハ之ヲ水防本部長ニ報告スヘシ

- 一 防禦ノ必要ヲ生シタルトキ
- 二 危險ノ虞アルトキ
- 三 防禦ノ效果アリタルトキ又ハ之ナカリシトキ但シ堤防破壞シタル場合ニ於テハ其ノ狀況及浸水區域別並家屋ノ數人畜ノ死傷有無
- 四 擔任區域ヲ離レ援助ニ赴クノ要アルトキ
- 五 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 水防委員ハ擔任ノ區域ニ於テ危險ノ時機已ニ經過シ警戒ノ要ナシト認メタルトキハ水防區委員長ニ報告シテ指揮ヲ承クヘシ

第十條 水防委員ハ左ノ徽章ヲ左腕ニ付シ夜間ハ別記制式ノ提灯ヲ携帯スヘシ

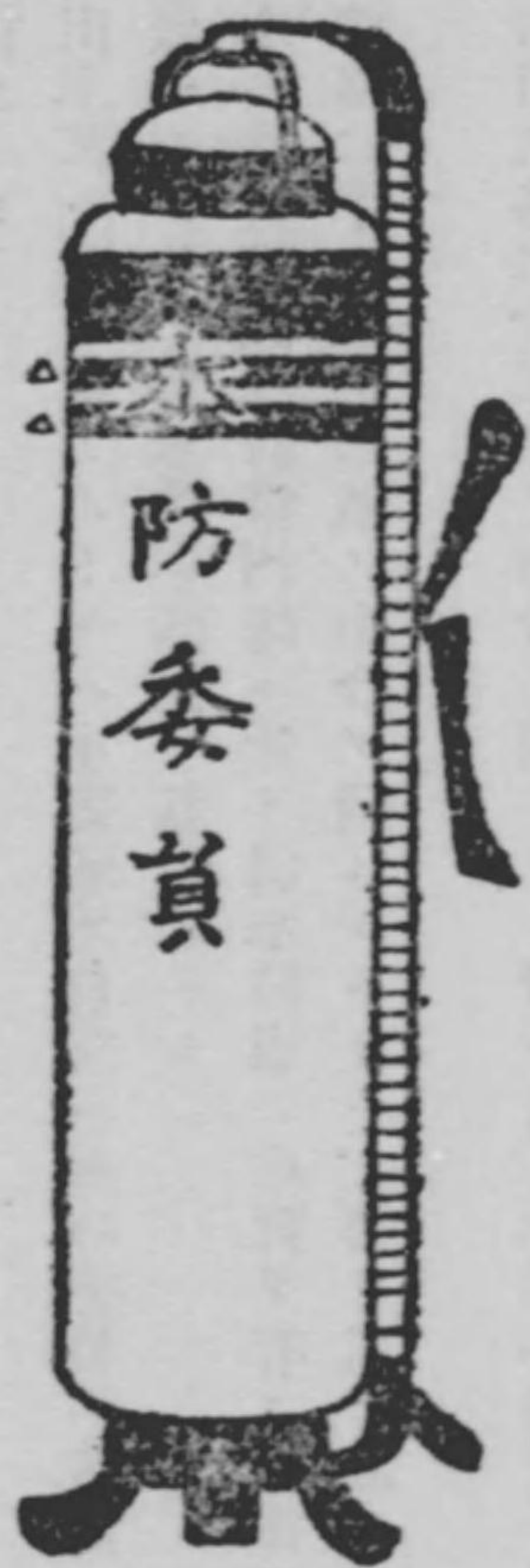
- 一 水防本部長本部副長 紫色布三寸
- 二 水防 監視員 綠色布三寸
- 三 水防區 委員長 赤色布三寸
- 四 水防區 副委員長 赤色布二寸
- 五 其ノ他ノ 委員 黄色布二寸

第十一條 本規程ニ依リ報告ハ電信又ハ電話ヲ以テ之ヲ爲スヘシ已ムヲ得サル場合ハ脚夫ヲ以テスルコトヲ得但シ報告書ニハ必ス所在地名ヲ肩書スヘシ

第十二條 水防事務ヲ終了シタルトキハ水防區委員長ハ左ノ書類ヲ添ヘ水防本部長ニ提出スヘシ

- 一 水防ノ狀況書
- 二 河川法第二十三條第二項ニ依リ下級公共團體ニ命シテ供給セシメタルモノアルトキハ其ノ人夫員數物件ノ種類數量及價格調書

- 三 河川法第四十條ニ依リ損害ノ補償ヲ要スヘキ物件アルトキハ其ノ種類、員數及金額並氏名調査
- 四 水防ニ關シ特ニ功勞アリト認メタルトキハ其ノ市町村又ハ水防組合ノ名稱個人ノ氏名並其ノ水防ニ關スル功勞調査



黑線幅三寸
朱線幅一寸

△印ハ朱線
黑線二寸 朱線八分
但シ監視員、委員長ハ朱線四、
〔管理區〕主幹タル副委員長ハ朱線三

〔靜岡令〕



△印ハ朱線

●燈火管制規則第五條第二號ニ依ル光指定

昭和十三年九月十五日
靜岡縣告示第八百五號

〔靜岡令三九號〕

- 燈火管制規則第五條第二號ニ依リ特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ左記光ヲ指定ス
- 一、實施及訓練ノ場合ヲ通シ
 - 1、規則第一號表屋外作業燈類中起重機ヲ用フル作業燈火ニシテ特ニ已ムヲ得ザルモノニ就テハ關係者ノ申請ニ依リ規則第五號表埠頭起重機外燈ニ準ジ處置ス
 - 前項ニ基テ申請ハ別記様式ニ依リ所轄警察署長ヲ經テ行フモノトス
 - 2、規則第三號表自動車燈類中前照燈及普通車輛燈類中自轉車燈ニシテ左記ニ屬スル車輛ノ該燈火ハ空襲管制時イニ在リテハ所定ノ記號ヲ附シ警戒管制ノ程度(ロ)ニ在リテハ總テ警戒管制甲ノ程度ニ於テ點燈スルコトヲ得
 - イ、防空實施又ハ訓練ノ指導監督並警報傳達ノ爲メ府縣市町村ノ使用スル必要最少限度ノ車輛其ノ記號ニ付定ムルコト左ノ如シ

種	類	記	號
官	公	署	公
警	察	署	市

- 3、規則第三號表交通標記燈類及第四號表信號合圖燈類並ニ地上標識燈類中、接近標示燈及信號機附隨ノ識別燈ノ光ノ秘匿ハ季節及天候上運轉ニ支障アルトキハ日没後二十分迄ハ平常ノ儘存置スルコトヲ得
- 4、規則第四號表特種照明燈中屋内各種表示燈ニ屬スル信號所「モデル」警ノ燈火ハ空襲管制時警戒管制程度ニ減光シ且開口部ノ上部三分ノ二以上ヲ蔽ヒ遮光シタル場合ハ殘置スルコトヲ得
- 二、訓練ノ場合ニ限リ
 - 1、鐵道軌道(國有鐵道ヲ除ク)關係ノ左ノ燈火ハ運管上特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ限リ空襲管制時警戒管制甲程度ニ於テ殘置スルコトヲ得
 - イ、規則第一號表屋外作業燈中荷物積卸場屋外燈
 - ロ、規則第四號表車輛燈類中車内照明燈(ロ)ノ指定ヲ受ケタル車輛ノ車内照明燈ハ空襲管制時警戒管制甲(ロ)ノ程度トナスコトヲ得
 - ハ、規則第四號表點檢燈類中點檢燈及巡檢燈
 - ニ、規則第四號表特殊照明燈類中列車披掛内照明燈、入換作業用構内照明燈、乘降場屋外燈、屋外各種標示燈
 - 出札口屋外燈及車輛ノ入換作業ニ必要ナル車庫屋外燈
 - 2、規則第四號表踏切燈類中踏切照明燈ニシテ特ニ殘置ヲ必要トスルモノニ就テハ警戒管制甲及空襲管制ヲ通シ警戒管制乙ノ程度ト爲スコトヲ得
 - 3、規則第一號表屋外燈類ニ屬スル誘蛾燈(警戒管制甲程度ヲ實施スル

区域内ニ在ルモノニ限ルニシテ迅速ニ消燈シ得ル装置ヲナセルモノハ警戒管制時ニ限リ乙程度ノ管制ヲナスコトヲ得

起重機ヲ用フル屋外作業燈申請

- 一、作業場ノ位置名稱
 - 二、作業ノ種類
 - 三、使用セントスル燈火ノ數及燭光
 - 四、遮光ノ方法
- 右起重機ヲ用フル屋外作業燈ハ燈火管制規則第五號表埠頭燈類埠頭起重機外燈ニ準シ御取扱相成度此段及申請候也

靜岡縣知事宛

住所
申請者 氏
名印

年月日

〔靜岡令三三號〕

〔靜岡令〕

第五節 電氣 瓦斯 汽罐

●發電用水利使用規程

大正六年七月六日
靜岡縣令第二十六號

改正 大正七年縣令第七三號、二二年第七號
發電用水利使用規程左ノ通定ム

發電用水利使用規程

- 第一條 發電原動力ニ供スル爲水ヲ使用セムトスルモノハ本規程ニ依リ直接當處ニ出願スヘシ但シ出願地點ノ二縣以上ニ跨ルカ又ハ對岸他縣ニ屬スルモノニ在リテハ他縣ヘ願書提出ト同時ニ當處ニ提出スヘシ
- 第二條 前條ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備シ水力百馬力以上ノモノハ各三通百馬力未満ノモノハ水路一覽圖ニ限リ二通其ノ他ハ一通ヲ提出スヘシ但シ五馬力未満ノモノハ取水河川ノ水量測定ニ關スル書類並圖面ヲ省略スルコトヲ得
- 第一 起業ノ概要
- 一、起業者ノ住所職業及氏名(會社ナルトキハ其ノ社名)
 - 二、起業ノ目的
 - 三、電燈及電力供給事業ナルトキハ其ノ供給區域鐵道軌道ノ動力ニ使スルモノナルトキハ其ノ線路經過地自家用ニ在リテハ其ノ工場製造所等ノ所在地並其ノ圖面(縮尺二十萬分ノ一)
 - 四、取水河川(他ノ公有水面ヲ含ム以下同シ) 名並取水口及放水口ノ位置(例取水河川支(派)何川取水口何縣何郡何町何大字何字何字地先地番放水口何縣何郡何町何大字何字何字地先地番) 使用水量(毎秒時何立方尺)

- 六、有效落差(曲尺ニテ示シ其ノ計算) 說明ヲ附記スルコト
- 七、馬力數(使用水量及有效落差ヨリ計算) 及發電力(キロワ) シタル理論馬力數及其ノ計算) 及發電力(キロワ)
- 八、水ノ使用期間

第二 水路工事

- 一、水路一覽圖 縮尺五萬分一トシ堰堤取水口隧道開渠發電所放水口等ノ位置及取水筒所ニ於ケル流域境界線ヲ記載シ尙附近ニ於テ灌漑其ノ他既許可ノ水利事業アルトキハ其ノ位置ヲ記入スルコト
- 二、水路豫測圖 特ニ貯水池又ハ河水ノ調整池ヲ設ケルモノニ在リテハ其ノ位置ヲ記載スルコト
- 三、水路豫測圖 縮尺一萬分一以上トシ地形ノ概略ヲ表ハシ地名ヲ詳記シ取水口水路發電所放水口ノ位置ヲ記載スルコト
- 四、堰堤及水路ノ定規圖 縮尺六千分一以上縱二百分一以上トシ堰堤取水口隧道開渠發電所放水口其ノ他主要工作物ノ位置取水口及發電所附近ニ於ケル最高水位平水位最低水位ヲ記入シ高低ノ基準ハ可成陸地測量部ノ水準ニ準據スルコト
- 五、計劃說明大要 堰堤ハ適宜トシ形狀材質及構造ノ大要ヲ示スコト
- 六、計劃說明大要 取水河川ノ狀態及勾配(取水口ノ上流一千間ノ地點ヨリ放水口ノ下流一千間ノ地點) 取水方法ノ

大要使用水量決定ノ理由水路断面算定ノ方法水車ノ種類箇數堰壩土砂ノ數量及處理方法切取盛土法面ノ保護及山地崩壊防止ノ方法等ヲ記載スルコト

第三 取水河川ノ水量測定

- 一、流域面積(方里ヲ以テ示スコト)
二、流域ニ於ケル植林狀態(裸地耕地林野ノ面積歩合等)
三、雨量觀測表(附近觀測所ノ調査ニシテ可成五ヶ年以上ニ互ルモノ)
四、取水口附近ニ於ケル流量及其ノ測定ノ方法時期並測定場所ノ横断面圖

横断面圖ノ縮尺ハ適宜トシ湧水低水及最高水位ヲ記入スルコト水量測定ハ成ルヘク前後地形同一ノ場所ヲ選ミ異ナリタル數種ノ方法ニ依リ且湧水時ニ於テ數回之ヲ行フコト

第四 水量測定ニ關スル擔當技術者名ヲ附記スルコト

- 一、灌溉其ノ他既許可ノ水利事業ニ及ホス影響並之ニ關スル施設ノ大要(例取水口放水口間及其ノ上下附近ニ於テ本起業ノ爲影響スル河所ヨリ灌溉時期何方)
二、舟筏ノ通航流木及漁業ニ及ホス影響並之ニ關スル施設ノ大要(例義ノ通航或ハ流木ノ慣行ナシ若ハ漁業ノ利ナシ又ハ堰壩ニ舟筏路若ハ魚道ヲ設ケル等ノ類)
三、名勝舊蹟等ニ及ホス影響並之ニ關スル設備ノ大要
四、取水口堰壩ノ爲洪水時ニ於ケル水面ノ隆起ニ起因スル影響ノ程度

〔靜岡令〕

二、構造圖

- イ、堰堤(流水路舟筏路魚道)取水口沈砂池土砂吐餘水路制水門隧道開渠木樋水路管水路橋水榭放水路水壓管吸出管水車發電所並貯水池河水ノ調整池等ノ構造圖
縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入スルコト
ロ、水路開設ニ伴ヒ施設スヘキ各種工作物ノ構造圖
縮尺ハ適宜トシ構造ノ適否ヲ判定スル爲必要アル水位ハ之ヲ記入シ尙水路ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及断面圖ヲ添付スルコト
堀壑土砂捨場附屬工作物ノ構造ハ特ニ之ヲ記載スルコト

三、工事説明書

水路選定ノ理由水路實測圖及構造圖ニ示シタル各種工事設計ノ要領(算式ヲ以テ計算シタルモノハ)工事施行ノ順序作業方法堀壑土砂處理方法(土坪計算表及土砂捨場圖ヲ添付シ各箇所ノ)等ヲ記載シ尙堰堤ニ付テハ地質ノ説明(試鑽ヲ行ヒタルモノハ其)ヲ爲シ且洪水時ニ於ケル水面ノ隆起及嵩水ノ影響ヲ圖示スルコト
貯水池及河水ノ調整池ヲ設ケル場合ニハ貯水容量(立方尺トシ其ノ計)及其ノ使用方法ヲ記載スルコト

四、漬地處分方及漬地一筆限調書並圖面

五、工事費概算書
工事費概算書中水路工事費ニ關スル各費目ヲ細別シ工事種類長數量單價金額及工法ノ摘要ヲ示スコト但シ特種ノモノニ付テハ別ニ設計書ヲ添付スルコト

〔靜岡令〕

並之ニ關スル設備ノ大要(例洪水時ニ於ケル水面ノ隆起堰堤ニ於テ何尺嵩水ノ影響約何間何々縣道ノ上置工事ヲ爲シ何橋ヲ)
五、貯水池設置ニ因リ流出水量ニ増減ヲ來タス結果取水河川ノ下流ニ於ケル用惡水路並舟筏ノ通航及流木ニ及ホス影響ノ程度並之ニ關スル施設ノ大要
六、放水口ヲ他ノ河川ニ設ケル場合關係河川ノ治水及水利上ニ及ホス影響ノ程度並之ニ關スル設備方法ノ大要
第五 工事費概算書(別紙様式)
第三條 水ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ知事ノ指定シタル期間内ニ左記ノ書類及圖面ヲ添付シ工事施行ノ認可ヲ出願スヘシ
一、水路實測圖
イ、平面圖
縮尺六千分一以上トシ水路ノ中心線測點番號水路及附帶工作物ノ位置ヲ記入シ附近ノ地形ヲ明カナラシムルコト
ロ、縦断面圖
縮尺六千分一以上縱二百分一以上トシ測點番號基準線(高ハ可測量部水準ニ)距離追加距離地盤高切取盛土ノ高水路底面ノ高計測水位置(水面勾配ヲ記)並實測平面圖ニ示シタル水路及附帶工作物ノ位置等ヲ記入シ取水口及放水口ニハ最高水位平水位最低水位ヲ記入スルコト尙取水口ニハ堰堤築設後ニ於ケル洪水水位ヲ記入スルコト

ハ、横断面圖
縮尺二百分一以上トシ切取盛土面坪計劃水位法勾配法面保護工事等ヲ記入シ各断面間ノ距離ハ土坪計算ニ必要ナル程度ト爲スコト

第四條 左記ノ場合ニ於テハ前各條ニ準シ關係書類(圖面ヲ要スルモノ)ヲ添付シ出願スヘシ

- 一、第二條第一號又ハ第二號ノ事項ノ變更
二、水ノ使用ノ許可ヲ受ケタル者ノ追加脱退若ハ除名ノ場合
三、實施設計ノ變更
四、電氣事業法施行規則第八條及第十條ニ該當スル場合又ハ其ノ他ノ場合ニ於ケル水ノ使用權ノ讓渡
第五條 水ノ使用ニ關スル工事ニ就テハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除キ大正九年八月靜岡縣令第三十九號土木工事取締規則ノ規定ヲ適用ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正二年一月靜岡縣令第二號電氣事業ノ爲水力使用出願手續ハ之ヲ廢止ス

工事費概算書

Table with 5 columns: 項目 (Item), 目 (Category), 數量 (Quantity), 單價 (Unit Price), 金額 (Amount). Rows include 創立費 (Construction Fee) and 水路工事費 (Waterway Work Fee) with sub-items like 用地費 (Land Fee), 堰堤費 (Weir Fee), 取水口費 (Intake Fee), 開渠費 (Canal Fee), 隧道費 (Tunnel Fee).

●電氣事業法施行規則ニ依ル申請 届出事項處理ノ件

大正四年四月二十四日
静岡縣訓令乙第百五十三號

警察署長〔警察分署長〕

明治四十四年九月逕信省令第二十五號電氣事業法施行規則ニ依ル申請届出事項ニ關シテハ左記各項ニ依リ處理スヘシ
但シ明治四十五年一月訓令乙第二號ハ之ヲ廢止ス

調査事項

- 第一 電氣事業法施行規則第五條ニ依リ電氣事業經營許可申請書ノ副本ヲ受理シタルトキハ左ノ各號ノ事項詳細取調意見ヲ具シテ進達スヘシ
- (イ) 起業能力及起業ノ組織
起業者ハ其ノ職業、資力、信用ノ程度等ニ徴シ果シテ起業遂行ノ見込アルモノナリヤ否(必要ノ場合ニハ起業者ノ職業、資力、信用ノ)公共團體ノ起業ニ在リテハ該資金調達ノ確否
 - (ロ) 公共團體以外ノ起業者ニシテ株式會社ノ組織ニ依ラサルモノナルトキハ該會社組織ト爲スヲ欲セサル事由及之カ適否
 - (ハ) 起業ノ適否
土地ノ狀況、需用ノ程度等ニ徴シ該事業ハ果シテ豫定ノ收入ヲ得テ確實ニ成立維持シ得ヘキ見込アリヤ否
 - (ニ) 他ノ同一事業者ニ對スル關係
同一ノ供給區域又ハ之ニ近接セル地域ニ於テ同一事業者ニ就キ他ニ已許可ノモノアルトキハ該事業者相互間ノ關係又同一ノ供給區域ニ於テ他ニ申請若ハ計畫中ノモノアルトキハ該事業者相互間ノ關係及比較並關係事業者妥協合同等ノ見込ノ有無

計	電氣工事費	餘水吐土砂
	測量及工事	吐其他水路
監督費	付替工事費	
豫備費	水槽費	
	鐵管費	
	放水路費	
	堀鑿土砂處	
	埋費	
	水車費	
	諸建物費	
	補償費	
	何々費	
	雜工事費	

〔静岡令〕

〔静岡令〕

(ニ)電氣工作物施設ニ關スル故障ノ有無

發電所、變電所、蓄電所等ノ近傍及電線路沿道ノ人民又ハ公共團體等ニ於テ右施設ニ關シ故障ヲ唱フルコトナキヤ否又起業地域内ニ於テ已許可事業者アルトキハ電線路其ノ他工作物施設上土地使用ニ關シ支障ヲ生スルコトナキヤ否

ホ以上各號ノ外意見ヲ附スヘキ必要アリト認ムル事項

- 第二 電氣事業法施行規則第十一條ニ依リ起業目論見書又ハ工事設計書中ノ事項變更許可申請書、電氣事業讓渡認可申請書、會社合併認可申請書ノ副本ヲ受理シタルトキ又ハ大正四年四月逕信省令第二十三號ニ依リ電氣事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ニ關スル申請書ノ副本ヲ受理シタルトキハ前項ニ準シ其ノ關係事業ノ外事業ノ讓渡又ハ會社合併ニ在リテハ料金等ノ變動ニ依リ需用者ニ及ホスヘキ影響及讓渡又ハ合併手續ノ適否、準用事業ノ認定ニ在リテハ重要ナル産業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ナリヤ否等取調意見ヲ具シテ進達スヘシ
- 第三 大正四年二月逕信省令第十三號ニ依リ電氣供給規程ノ副本ヲ受理シタルトキハ料金額其ノ他供給上ノ條件ノ適否ヲ調査シ必要ノ場合ニ於テハ意見ヲ具シテ進達スヘシ
- 第四 電氣事業ノ許可ニ附シタル命令ニ依リ事業開始期間又ハ會社成立期間伸長ノ許可又ハ認可申請書若ハ他ノ事業兼營ノ認可申請書ヲ受理シタルトキハ期間ノ伸長ニ在リテハ延期ノ事由及申請期間内成立又ハ開業ノ見込ノ有無(電氣鐵道事業ノ開業延期ニ封シテハ軌道又ハ鐵道ノ特許又ト)兼業ニ在リテハ兼營事業ノ計畫及本業ニ及ホスヘキ影響等取調意見ヲ具シテ進達スヘシ

第五 電氣事業法又ハ同施行規則等ニ依ル犯罪事項ニ就キ告訴、告發又ハ

處罰セラレタルモノアルトキハ其ノ都度其ノ年月日、事由、適用條項及違反者ノ身分氏名等ヲ具シ報告スヘシ

●農業關係自家用電氣工作物電氣 主任技術者兼任ニ關スル件

昭和三年十一月五日
農第三二九四號內務部長通牒

市町村長宛

産業組合、耕地整理組合等ノ施設ニ係ル標記工作物ノ電氣主任技術者ノ兼任ニ關シ今逕信省電氣局長ヨリ農林省農務局長ヲ經テ左記新標準ニ依リ認可スル旨通知有之候ニ付貴部内關係ノ當業者ニ周知方御取計相成度

- 一、電氣事業ノ主任技術者ハ左ノ場合ニ限り自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スルコトヲ得
 - (イ) 何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在リ且當該電氣事業ト其ノ經營者ヲ同シウスル自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合
 - (ロ) 第二種以上ノ資格ヲ有スル者何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在ル高壓又ハ低壓(試驗用ニ特別高壓電氣ヲ特定ノ室内ノミニ使用スルモノヲ含ム)ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合但シ兼務ハ二箇所以内ニ限ルモノトス
 - (ハ) 第三種ノ資格ヲ有スルモノ何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在ル五十「キロワット」以下ノ高壓又ハ低壓ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合但シ兼務ハ一箇所ニ限ルモノトス

二、自家用電氣工作物ノ主任技術者ハ左ノ場合ニ限リ他ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スルコトヲ得

- (イ)何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在リ且當該自家用電氣工作物ト其ノ經營者ヲ同シウスル他ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合
(ロ)第二種以上ノ資格ヲ有スル者何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在ル高壓又ハ低壓(試験用ニ特別高壓電氣ヲ特定ノ室内ノミニ使用スルモノヲ含ム)ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合但シ兼務ハ二箇所以内ニ限ルモノトス
(ハ)第三種ノ資格ヲ有スル者何時ニテモ凡ソ三時間以内ニ到達シ得ヘキ距離ニ在ル五十「キロワット」以下ノ高壓又ハ低壓ノ自家用電氣工作物ノ主任技術者ヲ兼務スル場合但シ兼務ハ一箇所ニ限ルモノトス

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行細則

行細則

昭和十一年八月一日 靜岡縣令第二十一號

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行細則左ノ通定ム

- 第一條 本令ニ於テ法ト稱スルハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法、施行令ト稱スルハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行令ヲ謂フ
第二條 法又ハ施行令ニ依リ知事ニ提出スベキ申請書其ノ他ノ書類ハ所轄警察署ヲ經由スベシ但シ施行令第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依ル書類ハ直接知事ニ提出スベシ
第三條 施行令又ハ本令ノ規定ニ依ル届出ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外届出事由發生ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ爲スベシ

〔靜岡令七號〕

第四條 施行令第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル工事竣功シタルトキハ其ノ旨届出ヅベシ

- 第五條 施行令第十一條第一項ノ申請書ニハ履歷書、卒業證書ノ寫、化學主任者ニ在リテハ其ノ製造ニ從事シタル瓦斯名及各瓦斯毎ノ從事期間、機械主任者ニ在リテハ其ノ運轉セル各壓縮機ノ種類、型式、構造(回轉數、ピストン行程、氣筒内徑、段數)、能力(各段ノ壓力、毎時壓縮量)、製作所名及各壓縮機毎ノ從事期間ヲ具シタル作業履歷書其ノ他資格ヲ證明スベキ書類ヲ添附スベシ但シ丙種機械主任者免狀申請書ニハ履歷書及其ノ取扱タル壓縮機ノ構造(氣筒内徑、ピストン行程、回轉數、氣筒數)、能力(常用壓力、毎時ピストン押ノケ量、製作所名)、從事期間、冷媒タル液化瓦斯ノ名稱及原動機ノ馬力等ヲ記載シタル作業履歷書ヲ添附スベシ
第六條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造業者他人ノ容器ニ瓦斯ヲ充填セントスルトキハ其ノ容器證明書寫ヲ作成シ充填ノ日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ
第七條 施行令第二十四條第二項ノ規定ニ依ル試験ニ合格セザル容器ニハ申請者ニ於テ太サ約二耗、大サ約二十耗平方ノ「不」ノ文字ヲ刻印スベシ
第八條 容器ノ製造輸入又ハ販賣ヲ營ム者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨届出ヅベシ
第九條 第六條乃至第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
附則 本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令取扱心得

〔靜岡令七號〕

昭和十一年八月一日 靜岡縣令乙第二六九號

警察部 警察署

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令取扱心得左ノ通定ム

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令取扱心得

- 第一條 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行令(以下單ニ施行令ト稱ス)第四條(製造)ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スベシ
一 申請者ノ資産及信用程度
二 事業ノ成否
三 製造所ノ構造設備ハ施行令第十六條ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
四 一日ニ付十立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ在リテハ施行令第十九條ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
五 電氣瓦斯石油又ハ火氣ヲ使用スル工場鐵道軌道國道府縣道其ノ他樞要ナル道路トノ距離
六 製造所附近住民ノ意嚮
七 其ノ他必要ト認ムル事項
第二條 施行令第五條(貯藏)ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スベシ
一 申請者ノ資産及信用程度
二 貯藏所ノ構造設備ハ施行令第十六條第一項第二號及第三號ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
三 位置ハ施行令第十九條ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
四 電氣瓦斯石油又ハ火氣ヲ使用スル工場鐵道軌道國道府縣道其ノ他樞要ナル道路トノ距離
五 其ノ他必要ト認ムル事項

第三條 施行令第六條第一項(販賣)ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スベシ

- 一 申請者ノ資産及信用程度
二 貯藏スベキ瓦斯ノ最大數量壓縮瓦斯ニ在リテハ二十立方メートル液化瓦斯ニ在リテハ二百キログラムヲ超ユル貯藏室ノ構造設備ハ施行令第十六條第一項第二號及第三號ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
三 百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯ヲ貯藏スル貯藏室ノ位置ハ施行令第十九條ノ制限ニ適合シ居ルヤ否
四 其ノ他必要ト認ムル事項
第四條 施行令第七條第一項(變更)ノ申請書ヲ受理シタルトキハ變更事項ノ適否ヲ調査ノ上進達スベシ
第五條 施行令第八條第二項(讓渡)ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スベシ
一 讓受人ノ資産及信用程度
二 事業ノ成否
三 其ノ他必要ト認ムル事項
第六條 施行令第六條第二項第七條第八條第一項第二十九條第一項並壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第八條ノ届書ヲ受理シタルトキハ臺帳作製又ハ訂正整理ノ上進達スベシ
第七條 施行令第三十條ノ届書ヲ受理シタルトキハ内容精査ノ上進達スベシ
第八條 細則第四條ノ工事竣功届ヲ受理シタルトキハ構造設備ヲ調査ノ上進達スベシ
第九條 左ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ報告スベシ
一 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造貯藏又ハ販賣ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ

第十三編 警察 第二章 保安

- 一 事業ヲ停止若ハ制限スルノ必要アリト認メタルトキ
- 二 危害豫防又ハ衛生ノ爲メ壓縮瓦斯液化瓦斯ノ製造所貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命ジ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ニ關シ若ハ其ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
- 三 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受運搬又ハ携帯ヲ禁止シ又ハ制限スルノ必要アリト認メタルトキ
- 四 作業主任者ノ變更ヲ命ズル必要アリト認メタルトキ
- 五 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法關係法令違反ニ依リ處罰セラレタルトキ
- 第十條 施行令第三十五條ノ届出アリタル場合其ノ他壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ニ關スル災害發生シタル場合ハ電信電話又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ左ノ各號ノ事項ヲ即報スベシ但シ第七號ノ圖面並寫眞ハ作製後速ニ送附スベシ
 - 一 事故發生ノ日時
 - 二 事故發生ノ場所
 - 三 瓦斯ノ種類及名稱
 - 四 事故發生ノ原因及其ノ狀況
 - 五 被害ノ狀況(死傷及損害ノ程度)
 - 六 事故ニ對スル措置
 - 七 現場ノ圖面並寫眞
- 第十一條 警察署長ハ毎月二回以上受持警察官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所貯藏所販賣所ヲ臨檢セシムベシ
- 第十二條 警察部警察署ニハ別表第一號乃至第八號様式ノ臺帳ヲ備付ケ異動アル毎ニ之ヲ整理スベシ

〔附則七號〕

附則
大正十二年六月訓令乙第二四五號壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令取捨心得ハ之ヲ廢止ス
第一號様式
壓縮瓦斯及液化瓦斯製造業臺帳

壓力計	壓縮機	原料ノ種類	製造所ノ位置	一日内ノ製造最大數量	瓦斯ノ種類	製造ノ目的	備用許可使用	指令番號	許可	申請	製造者		貯藏者		販賣者	
											姓名	住所	姓名	住所	姓名	住所
型式	種類						年月日	第	年月日	年月日	姓名	住所	姓名	住所	姓名	住所
目盛	型式						年月日	號	年月日	年月日	姓名	住所	姓名	住所	姓名	住所
箇數	箇數						年月日		年月日	年月日	姓名	住所	姓名	住所	姓名	住所
作業主任者	瓦斯溜	置及筒數	室藏貯	最大貯藏數量	面積	位置	年月日		年月日	年月日	姓名	住所	姓名	住所	姓名	住所
化學主任者	型式															
機械取捨主任者	構造															
	容量															

備考欄

〔附則七號〕

第二號様式

壓縮瓦斯及液化瓦斯貯藏所臺帳

申請	許可	指令番號	設備檢査	備用許可使用	貯藏者	貯藏	貯藏
年月日	年月日	第	年月日	年月日	姓名	住所	

第三號様式

壓縮瓦斯及液化瓦斯販賣業臺帳(施行令第六條第一項)

備考欄	販賣所ノ位置	名瓦斯ノ種類	備用許可使用	設備檢査	指令番號	許可	申請	販賣者	貯藏者	貯藏室	貯藏最大數量	貯藏面積	貯藏位置	販賣者	貯藏者	貯藏室	貯藏最大數量	貯藏面積	貯藏位置

第四號樣式

壓縮瓦斯及液化瓦斯販賣業臺帳(施行令第六條第二項)

欄	考	備	室	藏	貯	位	販	名	屆
									年 月 日
									販
									住
									所

〔警岡令七號〕

第六號樣式

壓縮瓦斯及液化瓦斯容器製造業臺帳

欄	考	備	氏	住	使	鑄	塊	用	業	材	者	名	種	充	種	容	位	營	製	屆		
																					製造所	置
																					年 月 日	
																						製
																						住
																						所

〔警岡令七號〕

第七號樣式

壓縮瓦斯及液化瓦斯容器輸入業臺帳

欄	考	備	ノ	容	種	容	位	營	製	屆
										年 月 日
										輸
										住
										所

第五號樣式

壓縮瓦斯及液化瓦斯容器證明臺帳

施	試	驗	歷	番	容	內	名	充	氏	住	容

〔警岡令七號〕

第四條 警察官吏ハ前條ノ外臨時ニ検査ヲ爲シ其構造尙不完全又ハ破損ノ爲メ危険ト認ムルトキハ相當ノ修理ヲ命シ若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第五條 第一條第二條第三條ニ違背シ又ハ第四條ノ命令ニ従ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス

第六條 此規則發布以前ニ設置シタル煤爐及煙筒ニシテ前數條ノ規程ニ概觸スルモノハ明治二十七年二月二十八日迄ニ改造シ第三條ノ手續ヲナスヘシ

汽罐取締令施行規則

昭和十年六月四日 靜岡縣令第十九號

汽罐取締令施行規則左ノ通定ム

汽罐取締令施行規則

- 第一條 汽罐取締令第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル汽罐設置者左ノ各號ノ一ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク知事ニ届出ヅベシ
一 事業ノ名稱又ハ種類
二 設置者住所氏名(法人ノ場合ニ在リテハ名稱、主タル事務所所在地、代表者)
三 汽罐室(蒸氣設置室)ノ構造及床面積
四 燃料ノ種類
五 汽罐附屬設備(焚燒裝置ヲ除ク)
六 煙突ノ種類又ハ大サ

〔靜岡令〕

前項ノ場合ニ於テ汽罐検査證記載事項ニ異動アルトキハ届書ニ之ヲ添附シ書換受ケベシ

第二條 汽罐取締令ノ規定ニ依リ提出スベキ圖面ノ用紙ノ大サハ美濃判以下トスベシ但シ汽罐ニ關スル構造圖ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

汽罐取締令第一號様式(汽罐設置願)第四號ノ圖面ニハ汽罐ノ周圍二百メートル内ノ狀況ヲ記載スベシ

第三條 汽罐取締令第九條第二項ノ規定ニ依ル汽罐設置許可承繼ノ届出ニハ左ノ事項ヲ具備スルノ外前設置者ノ連署ヲ要ス但シ連署シ能ハザルトキハ其ノ旨附記シ權利承繼ノ事實ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ添附スベシ

一 事業ノ名稱及種類
二 設置者住所氏名(法人ノ場合ニ在リテハ名稱、主タル事務所所在地、代表者氏名)
三 汽罐検査證番號

第四條 更新検査、臨時検査及再使用検査ノ場合ニハ汽罐取締令第十五條ノ規定ニ依リ煙道ヲ冷却シ煙道ヲ掃除スルノ外左ノ準備ヲ爲シ置クベシ
一 煙水ヲ排除スルコト(鑄鐵製汽罐ヲ除ク)
二 人孔蓋、検査孔蓋、掃除孔蓋ヲ取外スコト
三 桁格(鑄鐵製汽罐ヲ除ク)、火橋及焚燒裝置ヲ取外スコト
四 煙道ヲ清掃スルコト
五 安全弁、硝子水面計及其他ノ附屬品ヲ清掃スルコト

第五條 汽罐取締令第二十一條第二項ノ規定ニ依ル汽罐管理人ノ選任認可ノ申請ニハ左ノ事項ヲ具備スベシ
一 事業ノ名稱及種類
二 設置者住所氏名(法人ノ場合ニ在リテハ名稱、代表者氏名)
三 汽罐検査證番號
四 燃料ノ種類
五 汽罐附屬設備(焚燒裝置ヲ除ク)
六 煙突ノ種類又ハ大サ

〔靜岡令〕

及願書提出ノ期日ハ之ヲ告示ス

第九條 汽罐取締令又ハ本令ノ規定ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スベシ

第十條 第一條又ハ第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十一條 汽罐取締令第二十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル汽罐管理人ハ本令ノ適用ニ付汽罐設置者ト看做ス但シ第一條第一項第二號、第三條第二號、第七條第三號ノ記載ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 汽罐設置者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十三條 汽罐設置者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本令ノ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第十四條 本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條 昭和六年十二月 靜岡縣令第六十三號汽罐取締規則及昭和六年十二月 靜岡縣令第六十四號簡易汽罐取締規則ハ之ヲ廢止ス

第十六條 汽罐取締令第五十二條ノ規定ニ依リ新ニ許可及検査ヲ要スル汽罐ニシテ同令施行ノ日ヨリ一年以内ニ於テ同令第十號ノ様式ニ依ル更新検査願ヲ提出シ検査ニ合格シタルモノハ同令ニ依リ許可及検査ヲ受ケタルモノト看做ス

第十七條 汽罐取締令第五十三條第一項ノ規定ニ依リ汽罐ノ取扱ニ從事スル者ニ付同令施行ノ日ヨリ一年以内ニ同令第三十九條ノ規定ニ依ル汽罐

第八條 汽罐取締令第三十三條ノ規定ニ依ル汽罐士試験施行ノ日時、場所

五 取扱主任者ノ住所氏名

四 汽罐検査證番號(同一設置地ニ於ケル汽罐ニ付包括取扱主任ナルトキハ其ノ旨)

三 設置者氏名(法人ノ場合ニ在リテハ其ノ名稱、代表者氏名)

二 設置地地名番號

一 事業ノ名稱及種類

四 性行又ハ經歷上汽罐管理人タルニ適セズト認ムルモノ

七 汽罐取扱主任者選任ノ届出ニハ汽罐取締令第三十九條第三項ノ規定ニ依ルノ外左ノ事項ヲ具備スベシ

二 設置地地名番號

一 事業ノ名稱及種類

五 取扱主任者ノ住所氏名

四 汽罐検査證番號(同一設置地ニ於ケル汽罐ニ付包括取扱主任ナルトキハ其ノ旨)

三 設置者氏名(法人ノ場合ニ在リテハ其ノ名稱、代表者氏名)

二 設置地地名番號

一 事業ノ名稱及種類

四 性行又ハ經歷上汽罐管理人タルニ適セズト認ムルモノ

七 汽罐取扱主任者選任ノ届出ニハ汽罐取締令第三十九條第三項ノ規定ニ依ルノ外左ノ事項ヲ具備スベシ

二 設置地地名番號

一 事業ノ名稱及種類

取扱主任者選任届ヲ爲ス場合ニ於テハ汽罐士免許證寫ノ添附ヲ要セズ

●汽罐取締令取扱心得

昭和十年六月四日
静岡縣訓令乙第二百號

警察部 警察署

汽罐取締令取扱心得左ノ通定ム

汽罐取締令取扱心得

- 第一條 所轄警察署ニ於テ汽罐取締令第五條ノ規定ニ依ル汽罐設置許可ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査ノ上意見ヲ具シ進達スベシ但シ増設又ハ變更ニヨル設置許可申請ナルトキハ其ノ旨副申スルヲ以テ足ル
- 一 附近ニ於ケル官公署、學校、社寺、教會所、御料地、病院、公園、興業場其ノ他常人ノ群集スル場所ヘノ距離
- 二 附近住民ニ於テ故障ヲ唱フル者ノ有無
- 第二條 汽罐取締令第五條ノ規定ニ依ル處分在リタルトキハ願書ノ副本及汽罐明細書ニ指令ヲ附シテ交付スベシ但シ體檢未済ノ明細書ニ付テハ汽罐取締令第七條ノ規定ニ依ル體檢検査ニ合格ノトキハ體檢検査済印ノ押捺ノ外設置許可ノ旨記入シ之ヲ交付スベシ
- 第三條 汽罐取締令第七條第二項ノ規定ニ依ル刻印ノ押刻ハ検査官吏之ヲ爲スベシ
- 第四條 警察部ニ於テ汽罐取締令第七條第三項ノ規定ニ依ル汽罐明細書ノ書換申請ヲ受理シタル場合必要アリト認ムルトキハ検査ヲ行ヒタル上書換交付スベシ但シ體檢主要部分ニ變更アリタルモノナルトキハ書換ヲ拒否ノ上其ノ旨記入シ之ヲ交付スベシ

〔静岡令〕

〔静岡令三號〕

第十條 所轄警察署ニ於テ汽罐取締令第二十一條第二項ノ規定ニ依ル汽罐管理人認可ノ願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査ノ上意見ヲ具シ進達スベシ

- 一 汽罐取締令第二十一條第二項及汽罐取締令施行規則第五條第一項ノ規定ニ依ル事項ヲ具備スルヤ否
- 二 汽罐取締令施行規則第六條各號ノ該當者ニアラザルヤ否

第十一條 所轄警察署ニ於テ汽罐取締令第三十六條ノ規定ニヨル汽罐士免許ノ願書ヲ受理シタルトキハ汽罐取締令第三十二條各號ノ一ニ該當スル者ニアラザルヤ調査ノ上意見ヲ具シ進達スベシ

第十二條 警察部ニ於テ汽罐取締令第三十七條ノ規定ニ依リ汽罐士免許ノ取消處分アリタルトキハ其ノ旨内務省並各廳府縣ニ通報スベシ
前項ノ場合他府縣ニ於テ免許ヲ受ケタルモノナルトキハ返納ヲ受ケタル免許證ヲ當該廳府縣ニ送附スベシ

第十三條 所轄警察署ニ於テ汽罐取締令第二十三條又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル處分ヲ爲ス必要アリト認メタルトキ其ノ旨詳細具申スベシ

第十四條 所轄警察署ニ於テ汽罐取締令第四十三條第一項ノ規定ニ依リ印紙ヲ貼付シタル願書ヲ受理シタルトキハ其ノ金額ヲ願書ノ餘白ニ明記シ其ノ儘進達スベシ警察部ニ於テ前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ印紙ノ消印ヲ爲スベシ

第十五條 警察部ニ於テハ別ニ定ムル汽罐臺帳、汽罐検査符牒、汽罐士試験合格者名簿及汽罐士免許臺帳ヲ備フベシ

第十六條 所轄警察署ニ於テハ別記様式ノ汽罐臺帳ヲ備ヘ必要事項ヲ記載スベシ

- 第五條 警察部ニ於テ汽罐取締令第七條ノ規定ニ依リ提出シタル汽罐明細書ニシテ體檢検査ニ合格シタルモノニ付テハ設置工事竣功検査ニ合格ノ事實アル迄保存スベシ
他府縣ニ於テ體檢検査ヲ受ケタル汽罐ニシテ設置工事竣功検査ニ合格シタルトキハ當該廳府縣ニ其ノ旨通知スベシ
- 第六條 左ノ場合ニ於テ必要アリト認メタルトキハ臨時検査ヲ行フベシ
一 汽罐取締令第十條ノ規定ニ依リ汽罐ノ制限壓力又ハ水頭壓變更ノ許可出願アリタルトキ
二 汽罐取締令第十條ノ規定ニ依リ許可シタル焚燒装置又ハ汽罐据付基礎ニ付修繕又ハ變更ノ工事竣功シタルトキ
三 汽罐ノ設置場所火災ニ罹リタルトキ
- 第七條 汽罐取締令第十條ノ規定ニ依ル處分アリタルトキハ願書ノ副本ニ指令ヲ附シテ交付スベシ
汽罐取締令第十條ノ規定ニ依リ提出アリタル汽罐検査證ハ汽罐取締令第十一條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケル場合ニ於テハ其ノ検査ニ合格シタルトキ其ノ他ノ場合ニ於テハ處分在リタルトキ其ノ旨記入シ之ヲ交付スベシ
- 第八條 汽罐取締令第十一條第一項(修繕、變更検査)、第十三條第一項(更新検査)又ハ第十九條第五項(再使用検査)ノ検査ニ合格シタルトキハ検査官吏ニ於テ汽罐検査證ニ有効期間ヲ記入認印スベシ
- 第九條 警察部ニ於テ汽罐検査ヲ行フトキハ其ノ旨所轄警察署及設置者又ハ出願者ニ通知スベシ但シ汽罐取締令第十三條第三項ノ規定ニ依ル検査期日ノ通知ハ可成一週日前ナルコトヲ要ス
所轄警察署ニ於テ更新検査、臨時検査又ハ再使用検査ノ通知ヲ受ケタルトキハ汽罐取締令第十五條及汽罐取締令施行規則第四條ノ規定ニ依ル受檢ノ準備ヲ履行セシムベシ

No.	標事記	取扱主任者	制限壓力 水頭壓	検査證 番號	設置者 氏名	設置地 地名	許可年月日	昭和年月日	指令番號	工第	號ノ
				第							
			傳熱面積 又ハ内容積								

汽罐士試験規程

昭和十一年四月十一日
静岡縣告示第二百八十號

汽罐取締令ニ依ル汽罐士試験規程左ノ通定メ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

汽罐士試験規程

- 第一條 汽罐士試験ハ汽罐取締令及同令施行規則ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 汽罐士試験ハ毎年四月及十月ニ行フ但シ必要ニ應ジ臨時ニ之ヲ行フコトアルベシ
- 第三條 汽罐士試験出願者中試験ヲ受クベキ者ニ付テハ受験票ヲ交付ス
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ汽罐士試験ヲ受クルコトヲ得ズ
 - 一 女子
 - 二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

〔静岡令三號〕

〔静岡令九號〕

モノナルトキハ試験ノ全部ヲ省略ス

第九條 汽罐士試験ヲ受ケントスル者試験ノ一部又ハ全部省略ノ取扱ヲ受ケントスルトキハ願書ニ其ノ旨記載シ且省略取扱ヲ受クベキ事由ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ添付スベシ

汽罐士試験ノ全部ヲ省略シタル場合ニ在リテハ試験合格證ノ交付ヲ省略スルコトアルベシ

第十條 汽罐士試験ノ全部省略ノ取扱ヲ受ケントスル者ハ隨時願書ヲ提出スルコトヲ得

第十一條 受験者試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ試験ヲ停止シ又ハ其ノ合格ヲ無効トス

試験合格證交付後前項ニ該當ノ事實ヲ發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ取消シ合格證ヲ返納セシム

第十二條 汽罐士試験施行ノ指定日時ニ受験セザルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

汽罐取締令第三十四條第二項第一號ニ依ル學校指定

昭和十一年十月八日
静岡縣告示第九百十五號

昭和十年四月内務省令第二十號汽罐取締令第三十四條第二項第一號ノ規定ニ依ル青年學校トシテ左ノ者ヲ指定シタリ

静岡縣立静岡工業青年學校

汽罐士試験委員規程

第十三編 警察 第二章 保安

三 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルコトヲ發覺シ一年ヲ経過セザル者

第五條 汽罐士試験ヲ分チテ一級汽罐士試験及二級汽罐士試験ノ二種トシ各技術科及法規科ニ區別シ筆記ニ依リ試験ヲ行フ

前項ノ技術科トハ汽罐取締令第三十三條第一號乃至第三號ノ科目ヲ、法規科トハ同條第四號ノ科目ヲ謂フ

第六條 一級汽罐士試験ヲ受ケントスル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ技術科ニ關スル試験ハ之ヲ省略ス

一 汽罐取締令第三十四條第一號ニ該當スル者

二 海軍機關科准士官以上及海軍一等機關兵曹ニシテ現役中汽罐ノ取扱ニ從事シタル者

三 海軍三等機關兵曹以上ニシテ現役中汽罐ノ取扱ニ從事シ且現役滿期後二年以上汽罐ノ取扱ニ從事シタル者

四 近海汽船二等機關士免狀(發動機船ニ效力ヲ限リタルモノヲ除ク)以上ノ免狀受有者

第七條 二級汽罐士試験ヲ受ケントスル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ技術科ニ關スル試験ハ之ヲ省略ス

一 汽罐取締令第三十四條第二項第一號ニ該當スル者

二 海軍三等機關兵曹以上ニシテ現役中汽罐ノ取扱ニ從事シタル者

三 海軍一等機關兵ニシテ普通科機關術練習生(掌機術專修)教程ヲ卒業シタル者

四 海軍機關兵ニシテ現役中汽罐ノ取扱ニ從事シ且現役滿期後三年以上汽罐ノ取扱ニ從事シタル者

五 三等機關士免狀及汽船三等機關士免狀受有者

第八條 汽罐士試験ヲ受ケントスル者汽罐取締令第三十四條第一項第一號及第二項第一號ニ該當シ且在學中汽罐取締令ニ關スル法令ニ付修得シタル

昭和十一年四月二十八日
静岡縣訓令乙第一八一號

警察部

汽罐士試験委員規程左ノ通定ム

汽罐士試験委員規程

第一條 汽罐士試験ヲ管掌セシムル爲試験委員長一名、副委員長一名、委員若干名ヲ置ク

第二條 委員長ハ警察部長、副委員長ハ警察部工場課長ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ警察部所屬ノ技師、屬、技手中ヨリ之ヲ命ス

第三條 委員長ハ汽罐士試験ヲ統轄シ委員長事故アルトキハ副委員長之ヲ代理シ委員ト共ニ汽罐士試験ニ從事ス

第四條 委員長ハ試験並ニ試験場ノ秩序ヲ保持スル爲必要ナル指示若ハ措置ヲ爲スコトヲ得

第五條 汽罐士試験ニ關シ書記若干名ヲ置キ庶務ニ從事セシム

第六條 書記ハ警察部所屬ノ判任官及吏員中ヨリ之ヲ命ス

第六節 狩獵 威銃 射擊

●狩獵法施行細則

大正十五年三月十九日
靜岡縣令第十七號

狩獵法施行細則左ノ通定ム

狩獵法施行細則

- 第一條 狩獵法(以下法ト稱ス)狩獵法施行規則(以下規則ト稱ス)並本則ニ依リ農林大臣又ハ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第二條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ規則第五條第二項ニ定ムル事項ノ外獵具ノ種類並名稱ヲ記載スヘシ
- 規則第五條第二項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ハ出願人戸主ナルトキハ其ノ戸主家族ナルトキハ其ノ家族並戸主各別ノ當該年度所得稅額ニ付納稅地市町村長ノ證明シタルモノナルコトヲ要ス
- 規則第五條第三項ニ定ムル事項ニ付テハ本籍地市町村長ノ證明ヲ要ス
- 第三條 有害鳥獸驅除ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ願書ニ規則第七條第二項ニ定ムル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 被害ノ狀況
 - 二 驅除用獵具ノ種類並其ノ使用方法
 - 三 驅除費並其ノ支出方法
 - 四 被害區域略圖
- 第四條 狩獵免許又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者死亡シタルトキ又ハ一月間所在不明トナリタルトキハ戶籍法ニ依リ届出義務者ハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ十四日以内ニ免狀又ハ許可證ヲ添附シテ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ免狀又ハ許可證ヲ添附シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

〔靜岡令〕

- 第十條 規則第二十六條ニ定ムル入獵規程ハ第四號様式ニ準スヘシ
- 第十一條 土地所有者ノ申請ニ依リ設定シタル禁獵區ノ廢止又ハ市町村ノ設定シタル獵區ノ廢止若ハ設定認可ノ取消アリタル場合ニ於テハ其ノ木標又ハ制札ハ土地所有者又ハ市町村ニ於テ運滞ナク之ヲ撤去スヘシ
- 第十二條 第四條第六條及第八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ土地所有者ニシテ第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
- 附則
- 第十三條 大正八年十月靜岡縣令第五十一號狩獵法施行細則ハ之ヲ廢止ス

〔靜岡令〕

鳥獸捕獲屆

住所 氏名
種等 氏名
年月日生

大正 年 月 日
靜岡縣知事宛

別紙様式 鳥獸捕獲調書

之候間狩獵免許狀相添ヘ此段及御届候也

鳥獸名	捕獲場所	捕獲場所	捕獲場所	計
き	何羽	何羽	何羽	何羽
じ	何羽	何羽	何羽	何羽

やまどり	計	何匹	匹	匹	匹	匹
うさぎ	計	匹	匹	匹	匹	匹
たぬき	計					

第二號様式

鳥獸捕獲(卵採取)届

住所 氏名
學術研究又ハ有害鳥獸驅除
其ノ他特別ノ事由ニ依リ鳥獸捕獲者 氏
飼養ノ目的ニ依リ鳥獸捕獲者 氏
年月日生

一 捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數

二 捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ處置

右之通相違無之候間鳥獸捕獲許可證相添ヘ此段及御届候也

第三號様式

飼鳥受拂簿

大正 年 月 日
靜岡縣知事(農林大臣)宛
氏 名

第二號

第十三編 警察 第二章 保安



金屬製
エナメル塗
白地黒文字入
直徑一寸二分

第三號

三寸三分

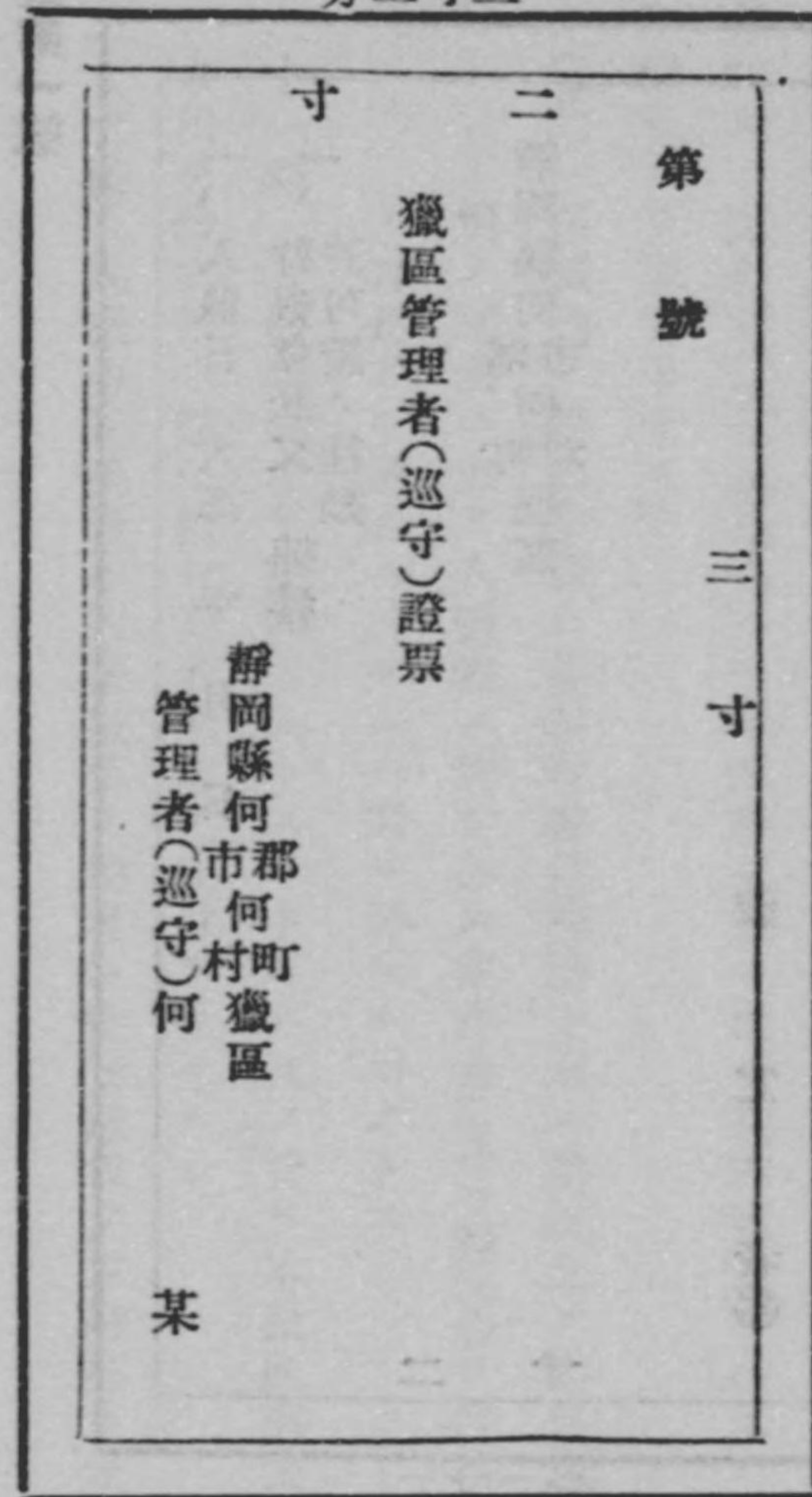


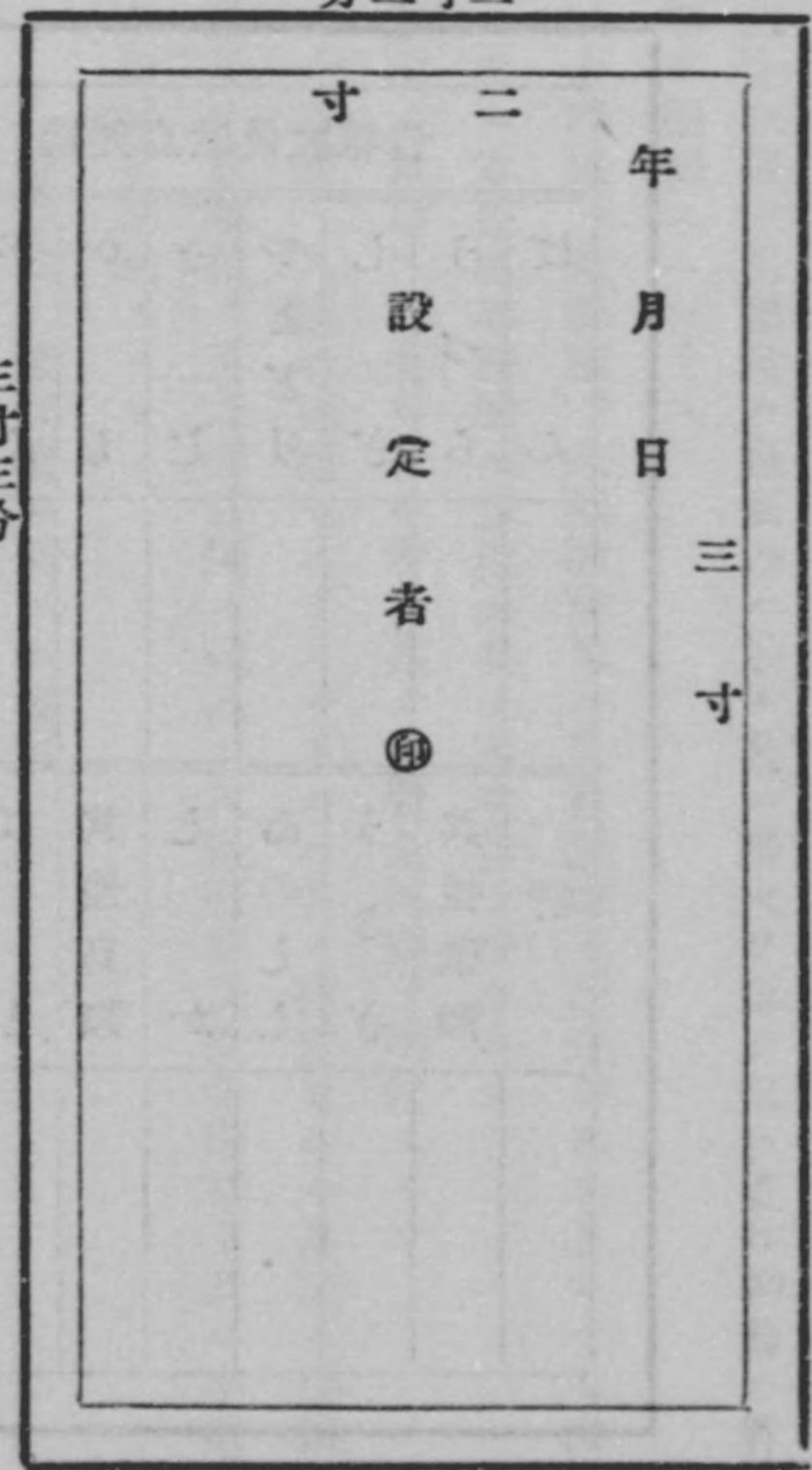
表
分二寸二

獵區管理者(巡守)證票
静岡縣何市郡何町獵區
管理者(巡守)何
某

〔静岡令〕

三五六

裏
分二寸二



三寸三分

第四號



金屬製
エナメル塗
赤地黒文字入
直徑一寸二分

〔静岡令〕

第五號



金屬製
エナメル塗
青地白文字入
直徑一寸二分



金屬製
エナメル塗
白地黒文字入
直徑一寸二分

第六號



金屬製
エナメル塗
黄地白文字入
直徑一寸二分



同上

第十三編 警察 第二章 保安

三五七

●狩獵法令取扱心得

大正十五年三月十九日
靜岡縣訓令乙第九十六號

警察部 警察署 (警察分署)

狩獵法令取扱心得左ノ通定ム

狩獵法令取扱心得

- 第一條 狩獵免許願ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ狩獵免許原簿ニ登錄シタル後狩獵免許狀ヲ下付スヘシ
 - 一 願書ハ規則第五條第二項及細則第二條所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ
 - 二 願人ハ法第六條ノ規定ニ抵觸スル者ニ非サルヤ
 - 三 願人ハ法第七條ノ規定ニ抵觸スル者ニ非サルヤ
 - 四 願人ノ性質、素行
- 前項ノ狩獵免許狀ニハ免許番號、下付年月日、種類及等級ヲ記載シ免許番號ハ年度毎ニ改メ所轄警察官署ノ頭字ヲ冠スヘシ
- 願書ニ貼付セル収入印紙ニハ狩獵免許狀下付後直ニ消印ヲ爲スヘシ
- 第二條 法第八條ノ規定ニ適用ニ付テハ左ノ如ク取扱フヘシ
 - 一 所得稅ヲ納ムル家族ノ出願ニ在リテハ其ノ所得稅額其ノ戶主ノ所得稅額ヲ超ユル場合ニ於テノミ其ノ家族ノ所得稅額ニ依ル
 - 二 前號ノ場合ノ外ハ凡テ戶主ノ所得稅額ニ依ル
- 第三條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除其ノ他特別ノ事由ニ依ル鳥獸捕獲許可願又ハ卵採取許可願ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ鳥獸捕獲許可原簿ニ登錄シタル後意見ヲ付シテ進達スヘシ
 - 一 願書ハ規則第七條第二項及有害鳥獸驅除ノ場合ニ在リテハ細則第三條所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ
 - 二 願人ノ性質、素行及狩獵法令ニ依ル處罰ノ有無

〔靜岡令〕

- 三 鳥獸捕獲又ハ卵採取ノ目的確實ナリヤ
- 第四條 飼養ノ目的ニ依ル鳥獸捕獲許可願ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ鳥獸捕獲許可原簿ニ登錄シタル後鳥獸捕獲許可證ヲ下付スヘシ
 - 一 願書ハ規則第七條第二項所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ
 - 二 願人ノ性質、素行
 - 三 現在飼養鳥獸ノ有無並營業行爲ヲ爲ス者ニ非サルヤ
- 前項ノ鳥獸捕獲許可證ニハ許可番號、下付年月日ヲ記載シ許可番號ハ年度毎ニ改メ所轄警察官署ノ頭字ヲ冠スヘシ
- 第五條 規則第八條ノ規定ニ依ル住所若ハ氏名ノ變更ノ届出ヲ受理シタルトキハ狩獵免許原簿及狩獵免許狀ヲ訂正シ舊住所地方他ノ警察官署ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ旨警察官署ニ報告シ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ其ノ旨報告スヘシ
- 第六條 狩獵免許狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ死亡ノ届出アリタルトキ若ハ乙種狩獵免許狀ノ下付ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者トナリタル届出アリタルトキハ其ノ旨報告スヘシ
- 第七條 細則第四條ノ規定ニ依リ死亡ノ届出アリタルトキハ原簿ヲ抹消シ所在不明ノ届出アリタルトキハ其ノ旨原簿ニ記載シ有効期間内ハ免狀又ハ許可證ヲ保管スヘシ但シ學術研究又ハ有害鳥獸驅除其ノ他特別ノ事由ニ依ル鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ届書ヲ進達スヘシ
- 第八條 規則第十一條第一項ノ規定ニ依リ狩獵免許狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ返納アリタルトキ又ハ前條ノ規定ニ依ル免狀及許可證ノ有効期間經過シタルトキハ其ノ都度原簿ニ返納又ハ有効期間經過ノ期日ヲ登錄シ該免狀又ハ許可證ハ之ヲ裁斷スヘシ但シ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ニ關スル鳥

〔靜岡令〕

- 歌捕獲許可證ハ之ヲ進達スヘシ
- 第九條 規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ左ノ如ク取扱フヘシ
 - 一 狩獵免許狀ノ下付ヲ受ケタル者ノ鳥獸捕獲届書ハ免狀返納期間滿了後十四日以内ニ之ヲ整理シ各鳥獸別ニ集計ノ上報告スヘシ
 - 二 鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ノ鳥獸捕獲又ハ卵採取ノ届書ハ學術研究又ハ有害鳥獸驅除其ノ他特別ノ事由ニ依ルモノニ在リテハ其ノ届出事項ヲ鳥獸捕獲許可原簿ニ記入ノ上進達スヘシ
 - 飼養ノ目的ニ依ルモノニ在リテハ鳥獸捕獲許可原簿ニ捕獲鳥獸別員數ヲ明記スヘシ
- 第十條 細則第七條ノ規定ニ依リ鳥獸又ハ卵ノ讓渡讓受ノ届出ヲ受理シタルトキハ其ノ目的ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ之ヲ許可シ鳥獸捕獲許可原簿ヲ整理スヘシ
- 第十一條 狩獵免許狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ再渡ノ請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ事由並狩獵免許狀ノ再渡ノ請求ニ在リテハ規則第十條第一項ノ規定ニ依ル収入印紙ヲ貼付シタルヤ否ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキハ狩獵免許原簿又ハ鳥獸捕獲許可原簿ニ登錄シタル後下付スヘシ但シ學術研究又ハ有害鳥獸驅除其ノ他特別ノ事由ニ依ル鳥獸捕獲許可證ノ再渡ノ請求書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ付シテ進達スヘシ
- 細則第八條ノ規定ニ依リ舊免狀又ハ舊許可證ヲ受理シタルトキハ之ヲ裁斷スヘシ
- 第十二條 細則第六條ノ規定ニ依リ飼鳥受渡簿ノ檢印ノ届出ヲ受理シタル第一號様式

甲(乙)種狩獵免許原簿

免狀番號	下付年月日	返納年月日	摘
要	身分	職業	住
所	氏	名	年月日生

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域 靜岡縣賀茂郡三濱村伊濱字瓜森磯山、大窪段、波勝岬、日面、高見場平ノ地域

二、禁獵ノ期間 自昭和九年一月十三日 至昭和十九年一月十三日

昭和九年九月二十日 靜岡縣告示第千五百五十五號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣引佐郡奥山村大字奥山千五百七十六番地ノ三ノ六ノ五ノ二ノ一ノ山林一圓

二、禁獵ノ期間

自昭和九年九月二十日 至昭和十九年九月十九日

昭和九年十一月一日 靜岡縣告示第千二百十七號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣田方郡伊東町岡字片倉ノ内片倉千四百四十一番地ヨリ中央防火線ニ沿ヒ同區界ニ至リ岡區界及伊東町界ニ沿ヒテ舊柏峠隧道ニ達シ之ヨリ伊東、大仁線舊道ニ沿ヒテ片倉千四百四十一番ニ至ル一圓

二、禁獵ノ期間

自昭和九年十一月一日 至昭和十四年十月三十一日 五箇年

〔靜岡令三七號〕

●禁獵區設置

昭和八年四月八日 靜岡縣告示第百三十六號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣野田郡久努村村松七十番地 油山寺境内及同寺所有林地一圓

二、禁獵ノ期間

自昭和八年四月八日 至昭和十八年四月七日

昭和九年一月十三日 靜岡縣告示第百三十六號

〔靜岡令二四號〕

靜岡市根古屋ノ内左ノ區域

靜岡市根古屋四百三十二番地ヨリ靜岡、久能線ニ沿ヒテ百六十六番地ノ二ニ至リソレヨリ高川原ヲ上リ六百七十六番地ヲ經テ清水市境(日本平)ニ沿ヒテ六百七十四番地ニ至リ西川原ヲ下リ四百三十二番地ニ至ル地域内

一、禁獵ノ期間

自昭和拾壹年拾壹月七日 至昭和貳拾壹年拾壹月六日 拾箇年間

昭和十二年十月二十三日 靜岡縣告示第千七十二號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣周智郡一宮村字五川地内小國神社境内、同神社所有林及一宮村、村有林地一圓

二、禁獵ノ期間

自昭和十二年十月二十三日 至昭和二十二年十月二十二日

昭和十二年十二月十一日 靜岡縣告示第千二百二十四號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣田方郡内浦村重寺區内淡島一圓

自昭和十二年十二月十一日 至昭和二十二年十二月十日

昭和十年十月三日 靜岡縣告示第千號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣田方郡中大見村宮上四拾八番地ノ壹最勝寺境内及接續同寺所有林地一圓

二、禁獵ノ期間

自昭和十年十月三日 至昭和二十年十月二日

昭和十年十月三日 靜岡縣告示第千一號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

靜岡縣熱海市熱海字長畑山千八百拾五番地ノ貳山林地點ヨリ初川本流ニ沿フテ北上シ一里茶屋ニ於テ縣道熱海線ニ合シ同線ニ依リ同市熱海字笹尻千八百四番地北端ニ至リ同線ヨリ分岐シテ舊道熱海輕井澤線ニ沿フテ熱海梅園ヨリ輕井澤ニ通スル間道トノ交叉點ニ達シ夫ヨリ同間道ヲ下リ基點ニ合スル地域

二、禁獵ノ期間

自昭和十年十月三日 至昭和十五年十月二日

昭和十一年十一月七日 靜岡縣告示第千十三號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

昭和十三年十一月一日
静岡縣告示第九百二十八號

狩獵法第九條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

静岡縣小笠郡佐倉村大字佐倉及宮内ノ内左ノ區域

西北府縣道相良、池新田線ニ據リ西方新野川ヲ以テ界シ南方府縣道相良、
横須賀線ニ兩垂橋ヨリ同縣道ニ據リ賣田ニ至リ分岐シ西佐倉池ノ山道ヲ
經テ玄保西ノ腰道ニ接續シ字池ノ山ヨリ池ノ山、石山道ヲ通シ字石山ヨ
リ石山、中田道ヲ經テ比木村界ニ至ル區域
〔但佐倉村大字宮内字大兼ヲ除ク〕

一、禁獵ノ期間

自昭和十三年十一月一日 拾ケ年間
至昭和二十三年十月三十一日

昭和十三年十二月三日
静岡縣告示第五十一號

狩獵法第八條ニ依リ左ノ通禁獵區ヲ設定ス

一、禁獵ノ區域

静岡縣田方郡小室村川奈ノ内

川奈ゴルフ場及字ダン、小室山、上野、上ミアラカシ、下アラカシ地内

一、禁獵ノ期間

自昭和十三年十二月三日 拾ケ年間
至昭和二十三年十二月二日

〔静岡令三七號〕

銃獵禁止區域

昭和八年一月十九日
静岡縣告示第六十一號

狩獵法第十條ニ依リ左ノ通銃獵禁止區域ヲ設定ス

一、銃獵禁止區域

静岡縣田方郡小室村川奈千四百五十八番地株式会社川奈ホテル所有小
室村大字川奈及吉田區内ゴルフ場一圓

二、銃獵禁止ノ期間

自昭和八年一月二十日
至昭和十三年一月十九日

威銃取締規則

大正八年十月十日
静岡縣令第五十號

明治二十六年一月一號 静岡縣令第二號 威銃取締規則左ノ通改正ス

威銃取締規則

第一條 威銃ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ別ニ從事者アルトキハ其
ノ連署ヲ以テ使用地所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

一 住所職業氏名年齢法人又ハ組合ナルトキハ其ノ事務所ノ所在地及代
表者ノ住所職業氏名年齢
二 被害ノ狀況

第十三編 警察 第二章 保安

〔静岡令一號〕

三 有害ナル鳥獸ノ種類

四 區域

五 期間

六 別ニ從事者アルトキハ其ノ住所職業氏名年齢

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ許可ヲ受ケヘシ

第二條 前條ノ許可ヲ爲ストキハ別記様式ノ威銃從事許可證ヲ下付ス

第三條 未成年者、白痴者、瘋癲者其ノ他警察官署ニ於テ不適當ト認メタ
ル者ニハ威銃ヲ許可セズ

第四條 威銃ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 許可ヲ受ケタル以外ノ者ヲシテ威銃ニ從事セシムヘカラス

二 威銃從事許可證ヲ亡失又ハ毀損シ若ハ記載事項ニ異動ヲ生シタルト
キハ五日以内ニ届出テ再渡又ハ書替ヲ受ケヘシ

三 期間ノ滿了、許可ヲ取消又ハ死亡等ニ因リ威銃ヲ爲ス事能ハサルニ
至リタルトキハ五日以内ニ威銃從事許可證ヲ返納スヘシ

第五條 威銃從事者ハ威銃ニ關シ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 從事中ハ威銃從事許可證ヲ携帯スヘシ

二 彈丸其ノ他固形物ヲ裝填スヘカラス

三 火藥類其ノ他發火又ハ爆發質物ノ藏置場又ハ人家道路等ニ向ケ發砲
スヘカラス

四 警察官吏憲兵森林官吏又ハ市町村長ノ求メアリタルトキハ速ニ威銃
從事許可證ヲ提示スヘシ

五 威銃從事許可證ヲ他人ニ貸與スヘカラス

第六條 警察官署ハ本則ニ違反シ又ハ公安ヲ害スルノ虞アリト認メタルト
キ若ハ公益上必要アルトキハ許可ヲ取消制限又ハ從事ノ禁止ヲ命スルコ
トアルヘシ

第七條 第一條第四條第五條ニ違反シ又ハ第六條ノ處分ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第八條 本則施行ノ際現ニ威銃ノ許可ヲ受ケタル者ハ本則ニ據リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

別記様式 (用紙半紙半野紙)

威銃從事許可證

住所 職業 氏名 生年月日

許可ヲ受ケタル者 警察官 署印

威銃取締規則取扱心得

大正八年十月十日 静岡縣訓令乙第三百七十八號

警察署 (警察分署)

威銃取締規則取扱心得

第一條 威銃ノ出願アリタル時ハ出願者從事者ノ性行被害ノ狀況必要ノ有

〔静岡令〕

無ヲ調査シ支障ナキモノニ對シテハ之ヲ許可スヘシ

第二條 威銃許可ニ際シテハ各從事者ニ對シ從事許可證ヲ下付スヘシ

第三條 許可ノ期間ハ二ヶ月以内トス狩獵期間中ハ特別ノ事情アル場合ノ外許可スヘカラス

第四條 威銃從事者ニシテ本則又ハ狩獵法令ニ違反シテ處罰セラレ情狀重キトキハ許可ノ取消又ハ禁止ヲ爲スヘシ

第五條 前條ニ依リ取消又ハ禁止ヲ爲シタル場合ニ於テハ處分後一ケ年間威銃又ハ其ノ從事者トシテ許可スヘカラス

射撃取締規則

大正十五年四月九日 静岡縣令第四十二號

改正 昭和二年縣令第一三號

射撃取締規則左ノ通定ム

第一條 射撃ニ使用スル銃器ヲ分チテ軍用銃及非軍用銃トス

第二條 射撃場ヲ分チテ常設射撃場及假設射撃場トス

第三條 射撃場ヲ設置セムトスルキハ左ノ事項ヲ具シ常設射撃場ニ在リテハ知事ニ、假設射撃場ニ在リテハ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受ケル

第四條 射撃場ノ事項ヲ變更セムトスルキ亦同シ

第五條 願人ノ本籍、住所、職業、氏名、生年月日、法人又ハ團體ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、定款又ハ規約寫並代表者ノ住所、氏名ニ常設又ハ假設ノ區別

〔静岡令〕

三 假設ニ在リテハ其ノ設置期間

四 使用銃器及射撃ノ種類

五 射撃場ノ位置

六 左ノ地域内ニ於ケル地物ヲ表示シタル平面圖

イ 小銃射撃場ニ在リテハ射撃ノ後方三千五百メートル其ノ兩側各一千メートル發射場ノ兩側各三百メートル各地點ヲ連結セル線内

ロ 狹窄射撃場ニ在リテハ射撃ノ後方二十メートル射撃場ノ兩側各十メートルノ地域内

ハ 散彈射撃場ニ在リテハ射撃場ノ中心トシ射方向半圓形五百メートルノ地域内

七 射撃場ノ構造仕様書及圖面

八 射撃場敷地他人ノ所有ナルトキハ所有者ノ承諾書

九 使用料ヲ徴收スルモノニ在リテハ其ノ定額並徴收方法

第三條 射撃場ヲ設置セムトスルキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシム

一 御用邸、禁獵區ヘ一千メートル以上

二 官公署、學校、圖書館、病院ヘ百メートル以上

三 學生生徒ノ教科トシテ使用スル狹窄射撃場ニ在リテハ其ノ學校ニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第四條 小銃射撃場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 位置ハ射撃ノ後方及射場ノ兩側ニ成ルヘク天然ノ高地ヲ有シ危險ノ虞ナキ場所ヲ撰定スルコト但シ地形上射場外ヘノ飛超彈ヲ防止スルコト能ハサル場合ニ於テハ射撃ノ後方三千五百メートル其ノ兩側各一千メートル發射場ノ兩側各三百メートル各地點ヲ連結セル線内ニ交通路、建造物等アル箇所ハ勉メテ之ヲ避クルコトヲ要ス

二 射距離ノ最大限ハ三百メートルトス

三 射撃ハ成ルヘク高地ノ斜面ヲ利用スルコト

四 直接高地脚ヲ利用セムトスル射撃場ニ在リテハ左ノ制限ニ從ヒ第一圖ノ如キ構造ト爲スコト

イ 高地ハ少クとも四十メートルノ高サアルコトヲ要ス

ロ 射撃ノ高サハ三メートル以上トス

ハ 射撃ノ正面幅ハ標的の五的以内ヲ使用スルモノニ在リテハ二十メートル以上トス更ニ一のヲ増ス毎ニ四メートル乃至五メートルヲ増加スルコトヲ要ス

ニ 射撃ノ斜面ハ一分ノ一以上ノ傾斜ト爲スコトヲ要ス

ホ 射撃ノ内斜面ニ岩石露出シタルトキハ一メートル以上掘鑿シ土層ヲ以テ完全ニ被覆スルコトヲ要ス

ヘ 射撃ノ脚部ト標的トノ距離ハ三メートル乃至四メートルトス

五 高地脚ノ前方ニ設ケムトスル射撃場ニ在リテハ左ノ制限ニ從フノ外前號ニ依リ第二圖ノ如キ構造ト爲スコト

イ 射撃ノ高サハ五メートル以上トス

ロ 射撃頂部ノ厚サハ百四十センチメートル以上トス

六 監的壕ハ第三圖ノ如キ構造ト爲スコト

第五條 常設狹窄射撃場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 位置ハ標的ノ後方二十メートル以上ノ高サヲ有スル天然又ハ人造ノ掩體ヲ有シ且ツ射場ノ兩側及發射臺ノ後方各二十メートルノ地域内ニ交通路、建造物等アラサル危險ノ虞ナキ場所ヲ撰定スルコト

二 射距離ノ最大限ハ十五メートルトス

三 射撃ハ左ノ構造ト爲スコト

イ 高地脚ヲ直接利用スル場合ノ外高サハ三メートル以上トス

正面幅ハ標的の二の以内ヲ使用スルモノニ在リテハ六メートル以上トス更ニ一のヲ増ス毎二百五十七センチメートルヲ増加スルコトヲ要ス

ハ 斜面ノ傾斜ハ一分ノ一以上トス
ニ 築造スル射撃場ノ厚サハ五十七センチメートル以上トス

四 射撃ノ内斜面其ノ他射撃場内ニハ岩石ノ類ヲ露出セシメサルコト
五 監的壕ハ深サ二メートル以上底部ノ幅ハ一メートル以上トシ排水ノ設備ヲ爲スコト

六 監的壕ヲ設ケサルトキハ第四圖ノ如キ監的場掩體ヲ設クルコト但シ一監的場ヨリ監的スル標的ハ二の以内トス
前項第一號ニ該當セサル場所ニ設置スル場合ニ於テハ發射臺ニ立チテ射撃ノ後方ヲ望見シ狹窄實包有效著彈距離内ニ土地又ハ建造物ヲ略透シ得ルトキハ厚サ三センチメートルノ松板ノ裏面ニ三ミリメートルノ鉛引鐵板ヲ打付ケタルモノ又ハ二十センチメートルノ松板(薄キ松板ヲ數枚重ねテ)以上ノ寸法トスルモ差支ナシ)ヲ以テ之ヲ略透スコトヲ得サル程度ノ高サヲ有スル防壁ヲ射撃ノ後方ニ設クルコト

第六條 常設散彈射撃場ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一 位置ハ射撃ヲ中心トシ射方向半圓形百メートル以上ノ空地ヲ有シ且五百メートル以内ニ交通路、建造物等アラサル場所ヲ撰定スルコト

二 標的放出機ノ避彈掩體ハ第五圖ノ如キ構造トシ其ノ長サハ一機ニ付二メートル以上ト爲スコト

第七條 假設射撃場ノ構造ハ前二條ニ準スヘシ但シ所轄警察官署ハ危險ヲ防止シ得ヘキ限度ニ於テ其ノ制限ヲ斟酌スルコトヲ得
第八條 土地ノ狀況其ノ他特別ノ事情アルトキハ前四條ノ規定ニ拘ラス許

〔靜岡令〕

〔靜岡令〕

二 散彈射撃場ニ在リテハ散彈射撃又ハ狹窄射撃

三 狹窄射撃場ニ在リテハ狹窄射撃

假設射撃場ニ在リテハ狹窄射撃又ハ散彈射撃ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス拳銃ニ依ル射撃ハ小銃射撃ト看做ス

第十五條 射撃ハ日出前又ハ日没後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 射撃ノ標的ニハ鳥獸等ノ動物ヲ使用スルコトヲ得ス

第十七條 射撃ヲ爲サムトスルトキハ主催者ヨリ左ノ事項ヲ具シ小銃射撃ニ在リテハ七日、其ノ他ノ射撃ニ在リテハ二十四時間前マテニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ學生生徒ノ教科トシテ狹窄射撃ヲ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 主催者ノ住所、職業、氏名、生年月日

二 日時及場所

三 使用銃器及射撃ノ種類並標的ノ種類箇數、小銃射撃ニ在リテハ射距離

四 射手ノ豫定人員

五 彈藥ノ數量及供給方法

六 射撃場他人ノ所有ナルトキハ其ノ使用承諾書

七 懸賞射撃ヲ行フトキハ其ノ方法及賞品ノ箇數並各箇ノ價格

第十八條 射撃ノ主催者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
一 射撃當日早朝射撃場ノ周圍外方ヨリ見易キ箇所ニ赤旗ヲ掲ケ危險ノ防止ニ努ムルコト

二 監的壕又ハ標的放出機ノ避彈掩體内ニ危險信號用ノ赤旗ヲ準備シ置クコト

三 射撃下監的壕内トノ連絡通信ニハ電話、電鈴若ハ喇叭ノ類ヲ用ヒ應答通信ニ據ルコト

可ヲ爲ス行政官廳ハ特殊ノ施設ヲ命シ又ハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

第九條 射撃場ノ設置又ハ其ノ他ノ工事竣功シタルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ届出テ使用ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ届出ツヘシ

一 第二條第一號及第九號ノ事項ニ變更アリタルトキ

二 相續ニ依リ射撃場ヲ繼承シタルトキ

三 常設射撃場ヲ廢止シタルトキ

第十一條 常設射撃場ヲ讓受ケムトスルトキハ讓渡人ト連署ノ上知事ニ願出許可ヲ受クヘシ

第十二條 射撃場ノ構造ニシテ危險豫防上必要アリト認メタルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳ハ其ノ變更改修其ノ他必要ナル施設ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ射撃場設置ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ停止スルコトアルヘシ

一 許可ノ日ヨリ六月ヲ經過スルモ工事ニ著手セサルトキ

二 許可ノ日ヨリ一年ヲ經過スルモ工事竣功セサルトキ

三 本則又ハ本則ニ基ク命令ニ違反シタルトキ

四 前各號ノ外危險豫防上支障アリト認メタルトキ

第十四條 射撃ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタル射撃場ニ於ケルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス但シ軍隊所屬ノ射撃場ヲ借用スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
射撃場ニ於テハ左ノ區別ニ依リ射撃ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

一 小銃射撃場ニ在リテハ各種ノ射撃

四 銃器置場、彈藥置場及射手控所ヲ設クルコト

五 射撃ニ關係ナキ者ヲ場内ニ立入ラシメサルコト

六 彈藥ノ散逸盜取ノ防止ニ努ムルコト

七 前各號ノ外特ニ警察官吏ヨリ命セラレタル事項

第十九條 射撃ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一 射撃場ニ於テ照準ノ豫行演習ヲ爲ササルコト

二 射撃前銃器ヲ検査シ異狀ナキコトヲ確認シタル後使用スルコト

三 彈藥ハ射撃ニ於テ發射直前銃口ヲ標的ノ方面ニ向ケ裝填スルコト

四 射撃退去ノ際ハ銃器ヲ検査シ彈藥ノ裝填シ居ラサルコトヲ確ムルコト

五 酒氣ヲ帶ヒテ射撃ヲ爲ササルコト

六 前各號ノ外主催者又ハ警察官吏ヨリ命セラレタル事項

第二十條 彈藥置場又ハ其ノ附近ニ於テ若ハ彈藥ヲ携帯シタル俵煙煙シ又ハ火氣ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 射撃場以外ノ場所ニ於テ空包發射ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ學生生徒ノ教科トシテ所屬學校ノ運動場ニ於テ行フ場合若ハ配屬將校監督ノ下ニ行フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 願人ノ住所、職業、氏名、生年月日、團體ニ在リテハ代表者ノ住所、職業、氏名、生年月日

二 日時及場所

三 目的

四 使用銃器ノ種類並空包ノ箇數

五 参加人員

中等以上ノ學校ニ於テ配屬將校監督ノ下ニ野外演習ノタメ空包發射ヲ行

フ場合ハ前日迄ニ日時場所ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第二十二條 所轄警察官署ハ公安又ハ風俗上支障アリト認メタルトキハ射撃若ハ空包ノ發射ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

第二十三條 本則ニ依リ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十四條 第二條、第九條、第十一條、第十四條乃至第二十一條ノ規定ニ違反シ又ハ第十二條、第十三條及第二十二條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

第十條ノ規定ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

第二十五條 射撃ノ主催者ハ其ノ代理人雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ事務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ハ之ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附則

第二十六條 從前ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル常設射撃場ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ本則ニ適合セサルモノハ一年以内ニ改築シ使用ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ其ノ效力ヲ失フ

第二十七條 明治三十六年十月靜岡縣令第五十二號銃砲射撃場取締規則ハ之ヲ廢止ス

(圖略ス)

射撃取締規則取扱心得

大正十五年四月九日 靜岡縣訓令乙第百五十二號

〔靜岡令〕

警察部 警察署 (警察分署)

射撃取締規則取扱心得左ノ通定ム

射撃取締規則取扱心得

第一條 射撃場設置願ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ常設射撃場ニ在リテハ意見ヲ具シテ進達シ、假設射撃場ニ在リテハ支障ナシト認ムルトキ許可スヘシ

一 願人(法人又ハ團體ニ在リテハ其ノ代表者)ノ性質、素行、前科ノ有無並危險思想ヲ抱持シ又ハ其ノ疑アル者ニ非サルヤ

二 願書ハ所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ

三 規則第三條第一項各號ヘノ距離

四 周圍ノ狀況及附近民ノ意圖

五 構造ハ規則第四條、第五條又ハ第六條若ハ第七條ノ規定ニ概觸スルコトナキヤ

六 規則第七條但書ノ規定ニ依リ其ノ制限ヲ斟酌シ若ハ規則第八條ノ規定ニ依リ特殊ノ施設ヲ命シ又ハ其ノ制限ヲ斟酌スルノ要アリト認ムルトキハ其ノ事由

七 前各號ノ外參考トナルヘキ事項

第二條 規則第九條ノ規定ニ依リ竣功届ヲ受理シタルトキハ常設射撃場ニ在リテハ速力ニ進達シ、假設射撃場ニ在リテハ實地檢査ヲ遂ケ支障ナシト認ムルトキ其ノ使用ヲ認可スヘシ

第三條 規則第十條第二號ノ規定ニ依リ相續届又ハ第十一條ノ規定ニ依リ讓受願ヲ受理シタルトキ相續人又ハ讓受人ノ性質、素行、前科ノ有無並危險思想ヲ抱持シ又ハ其ノ疑アル者ニ非サルヤヲ調査シ意見ヲ具シテ進達スヘシ

第四條 常設射撃場ニシテ規則第十二條ノ規定ニ依リ處分ノ必要ヲ認メタルトキ又ハ規則第十三條ノ規定ニ依リ處分ノ必要ヲ認メタルトキハ詳細ニ報告スヘシ

第五條 射撃開催ノ届出アリタルトキハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ支障ナシト認メタルトキ受理スヘシ

前項ノ届出ヲ受理シタルトキハ直ニ要所ニ公告シ一般ニ周知セシムヘシ

射撃當日ニハ成ルヘク警察官吏ヲ臨場セシメ取締ヲ爲サシムヘシ

第六條 空包發射願ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ支障ナシト認ムルトキ許可スヘシ

一 願人(團體ニ在リテハ其ノ代表者)ノ性質、素行、前科ノ有無並危險思想ヲ抱持シ又ハ其ノ疑アル者ニ非サルヤ

二 願書ハ所定ノ事項ヲ具備シ居ルヤ

三 發射地域ハ耕作物等ヲ荒廢スルノ虞ナキ場所ナルヤ

四 發射地域他ノ警察官署管内ニ跨ルトキハ當該官署ノ意見

第七節 寄附金品募集 講會

寄附金募集取締規則

明治三十四年六月七日 靜岡縣令第四十六號

寄附金募集取締規則左ノ通定ム

寄附金募集取締規則

第一條 神社寺院祠宇佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスルニアラシテ金錢物品ノ寄進惠與若クハ義捐ヲ勸誘募集セントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ所轄警察官署ヲ經由テ縣知事ニ願出許可ヲ受クヘシ但他管下ノ者ニ在リテハ直ニ當廳ヘ差出スヘシ

一 住所氏名年齢

一 募集ニ從事スル者ノ住所氏名年齢

一 募集ノ金額

一 募集ノ方法及方法

一 募集ノ區域及期限

一 現金領收並ニ保管方法

第二條 前條各號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第三條 本規則ニ違背シ又ハ募集ニ關シ不都合ノ行爲アリト認メタルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第四條 第一條及第二條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第五條 明治二十九年二月縣令第十一號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

不發彈取扱二關スル注意

明治三十四年三月一日 諭告第一號

兵器彈藥等ハ其改良進歩ニ隨ヒ危險ノ度モ益加ハリ特ニ大砲彈ノ不發彈

(射撃ノ節破裂セザリシ彈丸)ヲ玩弄スルハ極メテ危險ニシテ苟モ之ニ觸接

スヘカラサルモノニ有之候處今後師團ノ砲兵隊ニ於テ之ヲ發射シ其發彈ノ

野外ニ遺タレ居ル場合モ有之然ルニ若シ之ニ觸接スルニ於テハ極テ危險ニ

シテ現ニ之レカ爆發ニ遇ヒ悲慘ノ死傷ヲ招キシ例モ候條篤ト注意セラルヘシ

●孤兒貧兒ノ扶養者又ハ其他ノ金品募集員等ニ付取締方ノ件

明治四十年十月二日
静岡縣訓令乙第七百六十六號

警察署長〔警察分署〕

近時孤兒貧兒ノ扶養者又ハ其他ノ金品募集員等ト稱シ金品ノ喜捨募集又ハ會員募集ヲ爲サントスル者農家繁忙ノ秋ヲ利用シ殊更ニ主人ノ不在等ヲ奇貨トシテ民家ニ至リ強テ應募ヲ迫リ又ハ往々恐喝若ハ詐欺的行爲ヲ敢テナスヤノ聞ヘ有之果シテ事實ナリトセハ甚々不都合ノ所爲ニ候條此際部下一般ニ訓示シ斯ル奸策ニ陥ラサル様周ク一般民家ニ注意ヲ與ヘシメ又一面ニハ右等ノ者共ニシテ犯法行爲アル者ヲ發見セハ假借ナク處分スル等嚴重取締ニ留意スヘシ

●〔清國〕ニ渡航シ又ハ人ヲ〔清國〕ニ派遣シテ寄附金品ヲ募集セントスル者ノ届出方

明治三十九年六月二十九日
静岡縣令第四十號

改正 大正一四年縣令第一六號

〔清國〕ニ渡航シ又ハ人ヲ〔清國〕ニ派遣シテ寄附金品ヲ募集セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ヘ届出承認ヲ受ケヘシ違フ者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

- 一 族籍、住所、職業、氏名、年齢
- 二 募集ノ場所

●講會取締規則

昭和七年十二月二十八日
静岡縣令第七十二號

〔静岡令〕

講會取締規則左ノ通定ム

講會取締規則

- 第一條 本令ニ於テ講會ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外定期ニ掛金ヲ醸出セシメ抽籤、入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ講員ニ對シ金錢又ハ物品ノ給付ヲ爲スモノヲ謂フ
 - 一 無盡業法ノ適用ヲ受ケルモノ
 - 二 親族、故舊又ハ同一公務所、會社、工場若ハ商店ノ公務員、社員、勞務者若ハ店員ノ間ニ於テ行フモノニシテ報酬ヲ得テ講會ノ事務ニ當ル保員ヲ置カザルモノ
- 第二條 講會ヲ組織セムトスルトキハ發起人ニ於テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受ケベシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ講則ノ變更ニ付テハ講員三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス
 - 一 發起人ノ本籍、住所、職業、氏名及年齢
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 講會ノ名稱及目的
 - 四 講員ノ募集區域
 - 五 保員ノ本籍、住所、職業、氏名、年齢及其ノ擔當事務
 - 六 講則
- 第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル後三箇月以内ニ第八條ノ届出ヲ爲サザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ已ヲ得ザル事由ニ依リ所轄警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 一口ノ總掛金額五百圓、一組ノ口數五十口、存續期間三年六箇月

- 三 募集ノ目的
- 四 募集金品ノ豫定額
- 五 募集ノ方法

●〔清國〕ニ於テ寄附金品募集届出ニ關スル取扱手續

明治三十九年六月二十九日
静岡縣訓令乙第六百九號

警察署長〔警察分署〕

明治三十九年六月縣令第四十號取扱手續左ノ通定ム

静岡縣令第四十號取扱手續

- 第一條 縣令第四十號ノ届書ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ速ニ進達スヘシ
 - 一 經歷、性行、資産
 - 二 募集ノ目的正否
 - 三 募集者團體ナルトキハ其組織
- 第二條 承認ヲ拒否シタル者同一ノ目的ヲ以テ密ニ渡航シ又ハ人ヲ派遣セントスルトキハ速ニ其ノ出發日時及發航地名等ヲ報告スヘシ
- 第三條 違犯行爲者ニ對シ處分ヲナシタルトキハ速ニ其事由及結果ヲ報告スヘシ

〔静岡令〕

ヲ超ユル講會ハ之ヲ組織スルコトヲ得ズ

第五條 講則ニハ左ノ事項ヲ規定スベシ

- 一 名稱
 - 二 事務所所在地及開講ノ場所
 - 三 世話人ノ選任、報酬及責任ニ關スル事項
 - 四 存續期間及毎會ノ開講期日
 - 五 組數及一組ノ口數並一口ノ掛金額
 - 六 掛金ノ拂込又ハ取立方法
 - 七 掛金延滞ノ場合ニ於ケル違約金又ハ延滞利息ニ關スル事項
 - 八 掛金、積立金及擔保物件ノ保管方法
 - 九 抽籤、入札其ノ他給付ノ順位ヲ定ムル方法
 - 一〇 入札ノ場合ニ於ケル最低手取金品額ノ制限
 - 一一 入札差額金ノ處理方法
 - 一二 花籤ニ關スル事項
 - 一三 當籤者又ハ落札者ニ對スル保證又ハ擔保ニ關スル事項
 - 一四 定額費用(世話人ニ對スル報酬、募集費、消耗品費其ノ他每會開講ニ要スル一切ノ費用)
 - 一五 缺口處理ノ方法及講員ノ權利移轉ニ關スル事項
 - 一六 解散及精算ニ關スル事項
- 第六條 他府縣ニ於テ組織スル講會ノ爲本縣内ニ於テ其ノ講員ヲ募集スルトコトヲ得ズ
- 第七條 加入口數ガ講則ニ定ムル口數ニ充タザルトキハ第一番會ヲ開クコトヲ得ズ
- 第八條 第一番會ノ開催期日前五日目迄ニ講員名簿ノ寫ヲ具シ其ノ日時ヲ所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第九條 世話人ノ數ハ二名ヲ下リ又ハ議員總數ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

發起人ハ世話人トナル但シ發起人ノ數カ前項ノ制限ニ充タズ又ハ之ヲ超ユルトキハ議員總數三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ世話人ヲ定ム其ノ改選ニ付亦同シ

世話人ノ選任又ハ改選ニ付テハ其ノ本籍、住所、職業、氏名及年齢ヲ具シ前項ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ知事ノ認可ヲ受クベシ

第十條 管理人、理事、親其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ總テ議會ノ役員ハ之ヲ世話人ト看做ス

第十一條 本令第一條ノ議會ニシテ業トシテ金錢及有價證券以外ノ物品ノ給付ヲ爲スモノニ付テハ當該營業者ヲ以テ議會ノ發起人又ハ世話人ト看做ス但シ本令第五條第三號及第九條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第十二條 左ニ掲グル者ハ議會ノ發起人又ハ世話人トナルコトヲ得ズ
一 破産ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者
二 禁治産者、準禁治産者
三 未成年者ニシテ法定代理人ノ同意又ハ妻ニシテ夫ノ許可ナキ者
四 議員ニ對シ責ニ任ズルノ責力及信用ナシト認ムル者

第十三條 世話人ハ第一番會開後ニ於テ生シタル缺口ヲ補充スル場合ヲ除クノ外本人及家族(同居人ヲ含ム)ヲ合シ一組ニ付一口ヲ限リ加入スルコトヲ得

第十四條 一口ニ對スル給付金額又ハ價額ハ抽籤ニ依ル場合ニ在リテハ總掛金額ヲ超ヘ入札ニ依ル場合ニ在リテハ其ノ百分ノ七十ヲ下ルコトヲ得ズ

第十五條 花籤ノ總額ハ每會ノ總掛金額ノ百分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十六條 缺口又ハ掛金ヲ爲サザル者アル場合ニ在リテハ世話人共ノ責ニ

〔附則〕

任シ他ノ議員ノ給付品額ヲ減少シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ザルモノトス

第十七條 議員ノ負擔スル定額費用ハ掛金額ノ百分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十八條 世話人ハ議員ニ講則ノ寫ヲ配布シ其ノ趣旨ヲ周知セシムベシ
講則ヲ變更シタル場合ニ於テ其ノ變更シタル事項ニ付亦同シ

第十九條 二組以上ヲ以テ組織スル議會ノ世話人ハ其ノ會計經理ニ當リテハ各組毎ニ別途ニ處理シ掛金其ノ他ノ金品ヲ彼此流用充當スルコトヲ得ズ

第二十條 世話人ハ每會開後五日目迄ニ別表第一號様式ニ依リ各組毎ニ收支計算書ヲ作り落札者又ハ當籤者ト連署ノ上所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第二十一條 世話人ハ別表第二號乃至第四號様式ニ依ル帳簿ヲ事務所ニ備ヘ置キ議員ノ異動アリタルトキ又ハ收入支出アリタルトキハ其ノ都度之ニ記載シ次會ニ於テ議員ニ之ヲ報告スベシ但シ支出ハ總テ一件毎ニ證據書類ヲ受取り置クベシ

前項ノ帳簿及證據書類ハ世話人ニ於テ滿會又ハ清算終了ノ日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ
第二十二條 所轄警察署長必要アリト認ムルトキハ前條ノ帳簿及書類ノ提出ヲ命ジ又ハ警察官吏ヲシテ臨檢査閱セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ世話人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
第二十三條 事務所備付帳簿及書類ハ議員ヨリ閱覽ノ請求アリタルトキハ世話人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十四條 世話人ハ講則ニ定ムル報酬ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ金錢又ハ物品ヲ收受スルコトヲ得ズ

〔附則〕

第二十五條 世話人ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ知事ニ第三號及第四號ノ場合ニ在リテハ所轄警察署長ニ其ノ旨直ニ届出ヅベシ

一 世話人ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキ
二 世話人死亡シ又ハ所在不明トナリ若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
三 議員ニ異動アリタルトキ
四 豫定日ニ開講スルコトヲ得ザルトキ

第二十六條 第五條第四號ノ存續期間滿了前ニ於テ議會ヲ解散セムトスルトキハ世話人ニ於テ未ダ給付ヲ受ケザル者ノ同意書及清算方法ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クベシ

第二十七條 議會ヲ解散シ又ハ第五條第四號ノ存續期間滿了シタルトキハ世話人ハ一箇月以内ニ清算ヲ了シ其ノ旨知事ニ届出ヅベシ

前項ノ期間内ニ清算ヲ了スルコト能ハザルトキハ知事ニ届出テ承認ヲ受クベシ

第二十八條 本令ニ基キ知事ニ提出スベキ願届ハ總テ所轄警察署長ヲ經由スベシ

第二十九條 知事ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ議員ノ募集ヲ禁止シ若ハ世話人ノ解任ヲ命ズ

一 本令又ハ本令ニ基キテ爲ス命令若ハ處分ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スル行爲アリタルトキ
二 議會ノ狀況ニ依リ議員ノ利益ヲ保護スル爲必要ト認ムルトキ

第三十條 第二條ノ許可ヲ受ケズシテ議會ヲ組織シ又ハ本令第二十四條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
一 議員ノ募集ニ關シ虚偽ノ手段ヲ用ヒ又ハ強テ加入ヲ勧誘シタル者

第十三編 警察 第二章 保安

何組第何番會收支計算書

摘要	收	入	支	出	殘	高
何某外何名何口分未						
落札者拂込金						
何某外何名何口分既						
落札者後掛金						

講員募集區	總掛金品額
考	備

世話人名簿	
就任年月日	解任年月日
住	所
職業	氏名
生	生
日	日
年	年

係員名簿	
擔當	就任
事務別	年月日
	解任
	年月日
	住
	所
	職業
	氏名
	生
	日
	年

〔靜岡令〕

第八節 競馬 懸賞 富籤

●競馬取締規則

明治四十二年五月七日
靜岡縣令第二十二號

競馬取締規則左ノ通り定ム

競馬取締規則

- 第一條 本則ニ於テ競馬會ト稱スルハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル競馬會ヲ謂フ
- 第二條 競馬會ニ於テ競馬ヲ開催セントストキハ其ノ日時及場所ヲ記載シ馬政長官ノ認可證寫ヲ添ヘ五日以前ニ當廳ニ届出ツヘシ
- 第三條 祭典等ニ際シ專ラ娛樂ノ爲メ競馬ヲ行ハントスル者ハ左ノ事項ヲ記シ五日以前ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
 - 一 開催者ノ住所職業氏名
 - 二 開催ノ日時及場所並ニ馬場馬見所等ノ構造及圖面
 - 三 役員其ノ他關係者ノ徽章
 - 四 賞品ノ種類價格
 - 五 行賞ノ方法
- 第四條 流鎗馬ヲ行フ者ハ其ノ祭事慣例ノ由來及日時場所等ヲ記シ五日以前ニ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 第五條 危害ノ豫防又ハ秩序及風紀ノ維持上必要ニシテ急速ノ處分ヲ要スルトキハ警察官吏ハ其ノ競馬ヲ停止シ又ハ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 競馬會ノ競馬場ニハ左ノ設備並ニ配置ヲ爲スヘシ
 - 一 馬見所ハ一等席二等席ノ區別ヲ設クルコト
 - 二 當該競馬會ノ騎手及馬丁ノ爲メ一般觀覽者ト區別シタル觀覽席ヲ設

〔靜岡令〕

クルコト

- 三 警察官吏ノ臨監席ヲ設クルコト
- 四 場内適當ノ場所ニ一定ノ服裝ヲ爲セル守衛ヲ配置スルコト但シ守衛ノ服裝ハ豫メ所轄警察官署ニ届置クヘシ
- 第六條 競馬會ハ左ノ事項ヲ入場者心得トシテ場内賭易キ場所ニ揭示スヘシ
 - (イ) 場内ノ靜肅ヲ保チ喧噪ノ行爲アルヘカラス
 - (ハ) 相當ノ服裝ヲ爲ササル者ハ一等席ニ入ルヘカラス
 - (ロ) 役員ヨリ注意シタル事項ハ直ニ應スヘシ
 - (ニ) 揭示事項ニ違フ者ハ退場セシメラルヘシ
- 第七條 本則ニ依リ當廳ニ提出スル書類ハ所轄警察官署ヲ經由スヘシ
- 第八條 本則第二條第三條第一項ニ違背シ又ハ第四條ノ處分命令ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處シ第三條第二項第五條第六條ニ違背シタル者ハ十日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第九條 本則ニ依リ競馬會ヲ罰スル場合ハ當該競馬開催者ニ其ノ罰則ヲ適用ス
- 第十條 本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

勝馬投票取締規則

大正七年四月九日
靜岡縣令第三十三號

改正 大正九年聯合第二〇號
勝馬投票取締規則左ノ通定ム

勝馬投票取締規則

- 第一條 勝馬投票ハ競馬ニ附屬シ其ノ開催者ニ於テ爲ス場合ノ外之ヲ施行スルコトヲ得ス
- 第二條 勝馬投票ヲ施行セムトスルトキハ左記各號ヲ具シ投票券ヲ添附セル入場券ノ見本ヲ添附シ競馬ニ關スル願届ト同時ニ施行地所轄警察官署ニ届出ツヘシ
- 一、開催者(法人ニ在リテ)
- 二、日時、場所
- 三、勝馬投票ヲ施行スヘキ豫定競馬組數(數日ニ互ルトキハ一日毎ニ記載スルコトヲ要ス)
- 四、投票券ヲ添附セル入場券ノ發賣豫定數(等級アル場合ハ當級別ニ數トヲ要ス)
- 五、投票施行ニ關スル規程
- 届出ヲ爲シタル後之ヲ中止シ又ハ其ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ直ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第三條 勝馬投票施行ニ關スル規程ハ之ヲ競馬場ニ揭示スヘシ
- 第四條 投票ニ關シ特ニ射倖心ヲ誘發スルカ如キ廣告ヲ爲スコトヲ得ス
- 第五條 投票券ハ入場券ニ添附セルモノノ外發賣シ若ハ頒布スルコトヲ得ス

〔靜岡令〕

- 投票券ヲ添附セル入場券ハ何人ト雖一日一枚ノ外購買スルコトヲ得ス
- 投票券ヲ取得シタルモノハ之ヲ轉賣スルコトヲ得ス
- 第六條 投票券ヲ添附セル入場券ノ料金ハ四圓、入場券一枚ニ添附スル投票券ハ五枚、投票券一枚ニ對スル入場料金ノ割合ハ一圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第七條 投票券ハ入場券ト同一ノ紙片ニ印刷セルモノナルコトヲ要ス
- 第八條 投票券ヲ添附セル入場券ハ入場者一人ニ付一日一枚ヲ限リ發賣スヘシ
- 第九條 前項ノ入場券ハ競馬開催當日該競馬場入口ノ外之ヲ發賣スルコトヲ得ス
- 第十條 未成年者ニ投票ヲ爲サシムルコトヲ得ス
- 第十一條 各組ノ投票締切前ニ於テ其ノ出場馬匹ニ對スル投票ノ點數、多寡等ヲ表示スルコトヲ得ス
- 第十二條 的中者ニ對スル贈與ハ物品又ハ景品券ニ限リ現金ヲ以テスルコトヲ得ス
- 第十三條 物品ノ價格又ハ景品券ノ額ハ的中シタル投票券ニ對スル入場料金ノ割合ノ五倍ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十四條 前條ノ贈與額ヲ計算スルニ當リ開催者カ投票施行ニ要スル費用ニ充ツル爲投票券ニ對スル入場料金ノ割合ヨリ控除スル金額ハ十分ノ一以內トス
- 第十五條 勝馬投票ノ施行ニ依リ剩餘金ヲ生シタルトキハ開催者ハ之ヲ產馬獎勵若ハ之ニ類スル目的ノ爲ニ使用スヘシ
- 第十六條 何人ト雖競馬場内又ハ其ノ附近ニ於テ景品券ノ現金引換又ハ割引購買等ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十七條 投票ニ關スル一切ノ行爲ハ他人ヲシテ請負ハシムルコトヲ得ス
- 第十八條 投票券ヲ添附セル入場券ノ發賣枚數及各番組ノ投票數、的中票

〔靜岡令〕

- 數並收支ノ計算ハ一日毎ニ警察官署ニ届出ツヘシ
- 第十六條 警察官署ニ於テ取締上必要アリト認ムルトキハ帳簿書類等ヲ檢閲シ必要ナル事項ヲ尋問シ若ハ特殊ノ施設ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第十七條 投票ノ施行ニシテ公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトアルヘシ
- 第十八條 第一條、第二條第一項第二項、第五條第二項第三項、第十三條、第十五條ニ違反シ又ハ第十六條ニ依ル檢閲ヲ拒ミ尋問ニ應ヘス若ハ命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

勝馬投票取締規則取扱心得

大正七年四月九日
靜岡縣訓令乙第百五十七號

改正 大正九年聯合乙第一四二號

警察部 警察署 (警察分署)

勝馬投票取締規則取扱心得

- 第一條 規則第二條ニ依リ勝馬投票施行ノ届出アリタルトキハ施行ノ方法公安風俗ヲ害シ又ハ法令ニ違反スルコトナキヤ否ヲ調査シ不法又ハ不當ノモノアルトキハ之ヲ制限シ又ハ變更ヲ命スル等必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 施行ノ方法ニシテ異例ニ互リ又ハ疑義アルモノハ狀況ヲ具シテ指揮ヲ受クヘシ
- 第二條 投票施行ニ關スル規程ニハ左ノ各號ヲ具備セシムルコトヲ要ス
- 一、入場料金及之ニ添附スル投票券ノ數
- 二、投票ノ方法